2020年度（令和２年度）

沖縄県ＮＩＥ実践報告書

おきなわ
NIE
Newspaper in Education

沖縄県NIE推進協議会

目　次

【日本新聞協会指定ＮＩＥ実践校】

石垣市立大浜小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

浦添市立牧港小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

石垣市立崎枝小中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

沖縄県立具志川高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

ヒューマンキャンパス高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・27

糸満市立糸満中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定実践校】

与那国町立与那国小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

名護市立久辺小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

名護市立小中一貫教育校緑風学園・・・・・・・・・・・・・・・・57

沖縄市立コザ中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

興南中・高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69

沖縄県立宜野座高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73

【資料１】沖縄県ＮＩＥ推進協議会組織と運動の経過・・・・・・89

【資料２】これまでの実践指定校・・・・・・・・・・・・・・・・98

【資料３】全国大会・授業研究会の新聞記事・・・・・・・・・・101

ごあいさつ

沖縄県ＮＩＥ推進協議会会長
仲村　守和

本協議会は平成１２年（２０００年）に設立され今年で２１年目を迎えました。本会は「教育界と新聞界が協力し、新聞教材の開発、活用の研究と普及を通して、児童生徒の情報活用能力の育成を図ること」を目的として、ＮＩＥ（Newspaper ｉｎ Ｅducation）活動を推進してきました。特に、一昨年から県立学校教育課、義務教育課の指導主事が幹事として加わり協議会組織の強化が図られました。

昨年、県議会の一般質問において、NIE の教育的意義について県教育長が答弁するなど、昨今、ＮＩＥ活動への県民の理解も深まって参りました。これも偏に県教育委員会はじめ市町村教育委員会や学校、ＰＴＡ、地域そして沖縄タイムス社、琉球新報社等のご理解とご協力によるものであります。現在、多くの学校で新聞をツールとした教育実践が推進されています。

NIE 活動を実践する学校には、本会の事業の一環として、年度毎に、日本新聞協会および県内新聞社と連携して、実践校の指定をし、各新聞を無償提供して実践活動を支援しております。

新学習要領の「アクティブラーニング」、つまり児童生徒が「主体的、能動的」に参加する授業づくりのためにも「生きた教材」といわれる「新聞」を授業に積極的に取り入れてほしいと思います。新学習指導要領では「新聞活用」が全ての校種で指導すべき内容として位置づけられていることから不断の研究が求められています。

この度、本年度の実践指定校の実践概要が本冊子にまとめられました。実践指定校では、コロナ禍で授業研究が困難の中にあっても、積極的に授業実践を継続しました。そこには「新聞」を有効に活用し、楽しく有意義な授業の構築が図られ、子どもたちの生き生きとした活動の様子が報告されています。NIE 活動を通して、児童生徒の思考力や判断力、表現力等が培われていることは、NIE の教育的手法が児童生徒の課題解決能力の育成に大きな効果があることを実証しています。つまり、児童生徒が「自ら学び、考えて行動する『生きる力』の育成」が期待できます。

本報告書のねらいとするところは指定校の実践を各学校で共有化することにあります。学習教材としての新聞活用や新聞づくりなど NIE の教育的手法を取り入れ、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を培っていく授業実践のためにも NIE 活動を各学校で推進していただきたいと思います。

結びに、NIE 活動の実践事例としての本報告書が県内の学校や家庭、地域社会など多くの機関で活用され本県の有為な人材育成の一助になれば幸甚に存じます。

令和2年度 大浜小学校 NIE実践報告書

石垣市立大浜小学校
教諭 具志堅美和

1 はじめに

本校は、昨年度より日本新聞協会指定NIE実践校となり、主に3学年以上を実践学年として新聞を活用した教育実践に取り組んだ。昨年度は新聞を読む機会が少なく、新聞に慣れていない児童が数多くいる実態からスタートしたが、今年度は全校児童を対象にNIEコーナーを設け、「だれでも いつでも NIE」を合言葉に取組を行った。学級では朝の読書での活用や国語科、社会科、総合的な学習等横断的な活用の実践を試みた。また、昨年に引き続き今年度も本校の校内研究が国語科ということで、校内研究との関わりを持たせた取り組みを意識した。

2 NIEと校内研究との関わり

本校の校内研究主題は【「書く」力を育てる指導の工夫】である。本校児童の、県到達度調査や全国学力学習状況調査、標準学力調査の結果を見ると、国語科において「書く力」「読みとる力」に落ち込みが見られた。そこで、朝の帯タイムに新聞を活用した取組として、新聞から読み取った情報をまとめたり、その情報に対する自分の考えを持たせたりする「読む活動」「書く活動」を行った。新聞に慣れ親しみながら「読むこと」「書くこと」を関連付け、「書く力」を高めていけるような校内研究とNIE活動を絡めた実践を行った。

3 本校の取り組み

(1) NIEコーナーの設置

全児童がNIEに関わることができるよう、図書室に新聞コーナーを設置。また、掲示板を活用して、低・中・高学年別のワークシートを随時掲示することで関心を高めた。

各社の子ども新聞も、毎日ページをめくって壁面掲示することで、立ち止まってじっくりと読む児童が多く見られた。

また、「レッツチャレンジNIE」(琉球新報社ワークシート)を毎月掲示し、自由に取り組ませることで新聞への関心を高める児童が増えた。

NIEコーナー(全児童が関わる場所に設置)

壁面掲示する記事を立ち止まってじっくり読む児童達

新聞コーナー

（2） 各学年の取組

学年	具体的内容	関連教科
3	○大浜村の町たんけん ○チャレンジNIE（琉球新報社ワークシート）	社会科 総合的な学習
4	○新聞記事から4コマまんが ○チャレンジNIE（琉球新報社ワークシート）	国語科
5	○新聞スクラップ ○チャレンジNIE（琉球新報社ワークシート）	国語科
6	○歴史新聞まんが ○新聞スクラップコンテスト（沖縄タイムス社主催） ○いっしょに読もう新聞コンクール（日本新聞協会主催） ○海と魚のコンクール（朝日新聞社主催）	社会科 総合的な学習

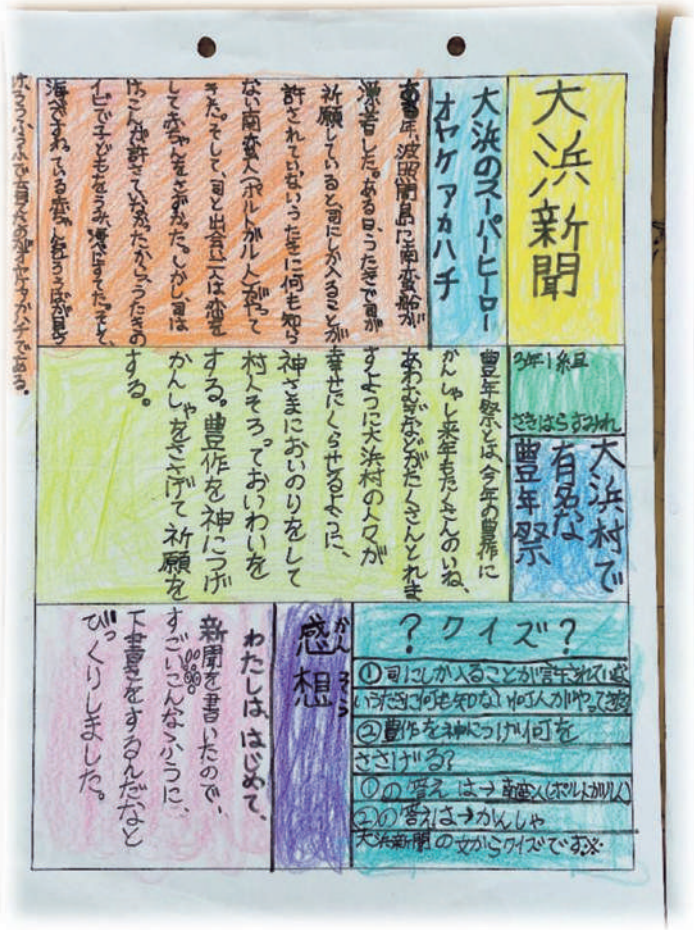
新聞記事を使って「新聞記事から読み取ったことや感じたこと」「見出しを考える」「新聞記事の内容を要約する」など、様々なワークシートを活用した書く活動に取り組んだ。

関連教科では、社会科や国語科での学んだことを新聞にまとめる活動を行った。普段は読む立場の「新聞」を実際に「書く」活動を通して、新聞に慣れ親しみ、仕組みや構成など興味関心の幅を広げるとともに、記事に対する意見を持たせる活動も行った。

①3学年のとりくみ

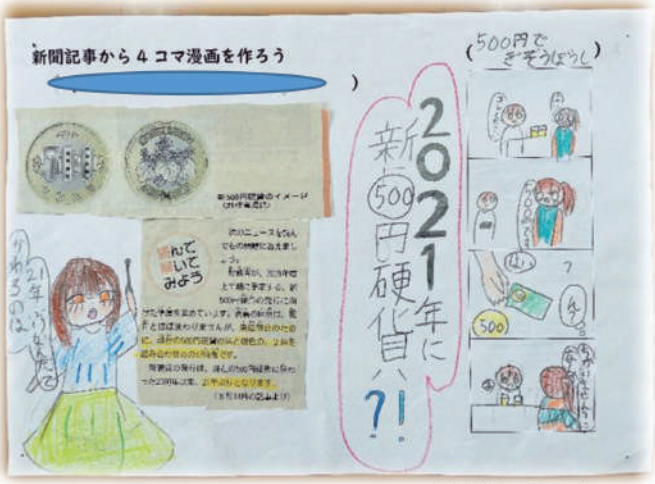
社会科「わたしたちの市のようす」並びに、総合的な学習「集まれ！大浜探検隊！！」の学習で、自分たちの住む地域の学習を行った。

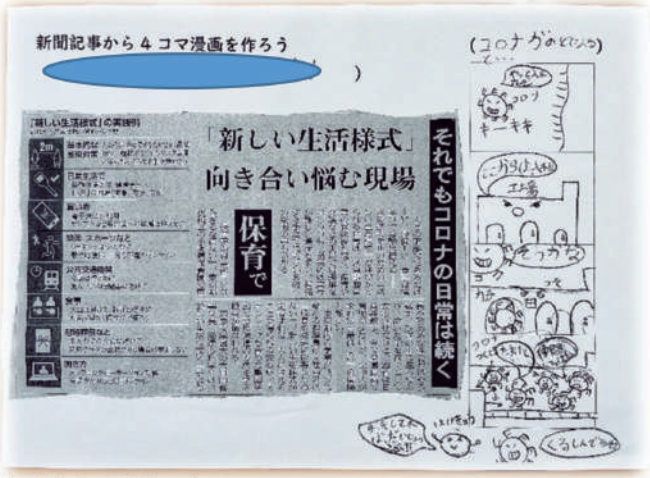
まず、取材をするための「準備」を行い、実際に「取材」に出かけ、分かったことを記事に「書く」の順序で個人新聞にまとめさせ、次にグループごとにグループ新聞の作成を行った。新聞作りの導入で、実際の新聞を見せながら「5WIH」「題名」「見出し」「リード文」「感想」などを確認し、それぞれが書いた新聞は掲示板で発表しグループ新聞は、発表会を行った。



個人新聞（上）とグループ新聞（左）

②4年生の取組



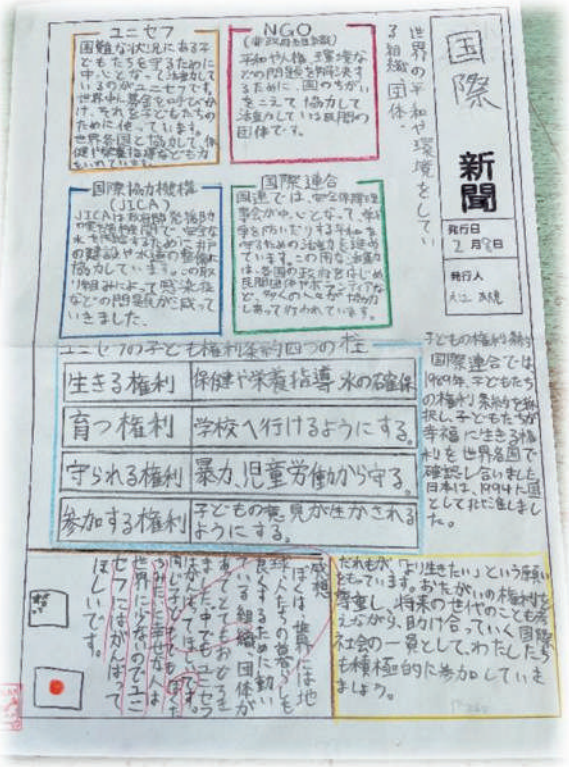


新聞記事から4コマ漫画を作ろう!の作品

新聞を読んで、気になる記事を自分なりにストーリー化し4コマ漫画で表現する取り組みを行った。学年問わず、NIEコーナーの掲示板で呼び掛けたところ、4年生の反響が大きく挑戦する児童が多く見られた。4コマ漫画づくりが学年全体に浸透していくことで「新聞」が身近な読み物であるとともに「楽しい」読み物でもあることを実感させることができた。

③6学年の取組

新聞を「読む」ことから「作る」ことへ繋げた。社会科の学習では、単元ごとに学んだことを「歴史新聞」や「国際新聞」など新聞にまとめる活動を行った。回数を重ねるごとに、タイトルや見出しの書き方、取り上げる人物についてのリード文や全体構図の仕方など工夫を凝らす様子が見られた。



（3） 各種コンクールへの挑戦

ねらい：コンクールを通して、新聞のおもしろさ、大切さを知り、新聞に愛着を持つ

参加学年：6学年

参加したコンクール

・日本新聞協会主催「いっしょに読もう新聞コンクール」

・琉球新報社「しんぶん感想文コンクール」

・沖縄タイムス社「スクラップ新聞コンクール」

・朝日新聞社「海と魚コンクール」

6学年が各種コンクールへ挑戦した

取り組み方（いっしょに読もう新聞コンクール）

①興味関心を抱いた記事を切り抜く

②専用の応募用紙（ワークシート）に張り付ける

③家族や友達にも、自分が選んだ記事を読んでもらう

④読んでもらった人の意見や感想を聞く

⑤自分の意見の変化・感想・提案を記入

取り組み方（海と魚コンクール）

①総合的な学習で「魚垣体験」を実体験

②国語科「環境について話し合おう」のパネルディスカッションで環境についての考えを共有

③体験を通して感想原稿用紙5枚程度にまとめる（夏休みの課題）

④海と魚コンクールに応募

八重山毎日新聞　2021年(令和3年)2月25日(木曜日)　8

大浜小、県内唯一団体賞

6年生56点応募　古里の海題材に作文

「海とさかな」自由研究・作品コン

↑総合的な学習の一環として地域の人も交えた【魚垣体験】と国語科のパネルディスカッションでの意見交換→

多様なコンクールへ参加することで、社会への関心が広がり、課題にも気付くことができた。また、教育課程の横断的な視点からNIEに参画することで各教科の点と点を繋げることができた。コンクールへの参加は6学年が中心となったが、今後は学校全体で取組を行っていきたい。

（4） 八重山毎日新聞社取材

石垣市では、本校と中学校１校が日本新聞協会指定の「NIE」実践校である。10月の新聞週間企画として、地元紙「八重山毎日新聞」からNIEの取組状況の取材を受けた。取材では、新聞記事から4コマまんがに取り組む4年生を紹介し、NIEの効果を伝えることができた。

新聞週間企画

教育現場に新聞を

NIE実践指定校の取り組み ①

新聞記事をもとに4コマを作った大浜小学校の増田美海さん（右）と仲原音乃さん＝9月24日、同校

日本新聞協会と各都道府県のNIE推進協議会は、学校などで新聞を教材として活用するNIE（Newspaper in Education）を広げようと、全国500以上の小中高校を「NIE実践指定校」に認定し、一定期間、地域で配達される新聞を提供する取り組みを続けている。郡内の今年度指定校は崎枝小中学校、大浜小学校、与那国小学校の3校。それぞれのNIEの様子を紹介する。

（前木深音記者）

大浜小学校

新聞は 社会とつながる 第一歩

大浜小学校（浦崎務校長、児童325人）は昨年度、日本新聞協会の指定を受け、今年度で2年目。同校4年の増田美海さん（9）と仲原音乃さん（同）は、気になったニュースを題材にオリジナル4コマ漫画を作ることで楽しみながら新聞への理解を深めている。

四コマ漫画で理解深める

新聞記事を題材に制作

仲原さんは、新型コロナウイルス感染予防の合言葉「3密」をテーマに制作。「3密ってよく言うけど、あらためて絵に描いてみることでしっかり理解できた気がする」という。

増田さんは、2021年に500円玉のデザインが更新されるというニュースをもとに、新500円玉を使った客と店員のすれ違い劇を描いた。「ニュースを読んで『こんなことが起きるかも』と想像したと話す。

掲示板に貼り出された自作の漫画に、2人とも照れくさそうな笑顔をみせる。

同校は、朝の時間に取り組む「条件作文」や、国語や総合などの授業で新聞記事を活用。また、各紙発行のNIEワークシートを配布し、提出物を掲示板に貼り出すなどして児童の学習成果を校内で共有している。

4コマ漫画募集を含め、同校のNIEの取り組みを引っ張るのは員志堅美和教諭。「児童同士が声を掛け合って、ワークシートの提出は増えてきた。新聞を取ってない家もあるので、学校が新聞に触れるための媒介になれば」と語った。

4 成果と課題

（1）成果

・新聞コーナーや閲覧コーナー、NIEコーナーを設置したことで、児童の新聞に対する興味・関心の幅が広がった。

・教科とNIE教育の横断的な取組を行うことで、学習と身近な社会生活を繋げることができた。

・新聞の活用だけでなく、コンクール等に参加することで、NIE教育と連動した学習の足跡を残すことができた。

（2）課題

・新聞コーナーやNIEコーナーの効果的な掲示方法の工夫

・教科研修を通して、日常的に新聞を活用できる仕組みの形成

・新聞活用の学年間の系統的な指導方法や教科間の横断的な指導方法についての検討

令和２年度　ＮＩＥ実践報告書

浦添市立牧港小学校
教 諭　宮城 和人
教 諭　平良 早美

１　はじめに

本校は、ＮＩＥ実践指定校２年目。今年度は、コロナ禍のため、取り組みが遅れてスタートした。本校実践テーマとして、昨年度から引き続き「新聞に親しみ，主体的・対話的で深い学びの実現」を設定した。

今年度は，６学年を実践学年として，平和学習の新聞づくりや，新聞記事の紹介，関連のコンクールに応募することを中心に新聞を活用してきた。

２　本校の取り組み

(1) 学年のフロアや図書室、理科室などに NIE コーナーを設置し、新聞に親しみやすい環境作りを行った。また、学校全体で年間を通して読売新聞ワークシートに取り組んだ。

NIE コーナーの設置

読売新聞ワークシート

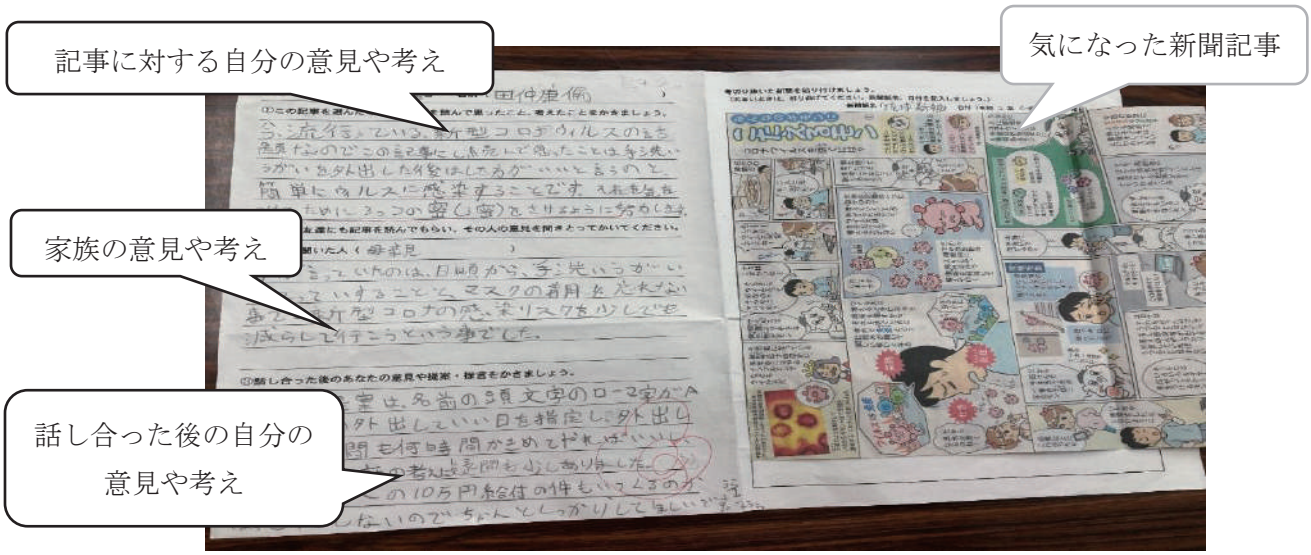
３　実践事例

（１）6 学年の実践

①親子で新聞を読もう　～コロナ休校中における取り組み～

今年度は新型コロナウィルス感染予防の為、4 月～5 月の半ばまでの約 1 ヶ月半休校が続いた。そこで学校からの児童へ「親子で新聞記事を読もう」と題し、気になる記事について親子で意見を交換し、自分の考えをまとめていく課題をだした。

新聞を取っていないという家庭も多かったので、学校に寄贈された琉球新報「りゅうＰＯＮ！」を配布し、活用した。コロナ禍における家庭での時間を有効活用することができ、保護者からも好評であった。

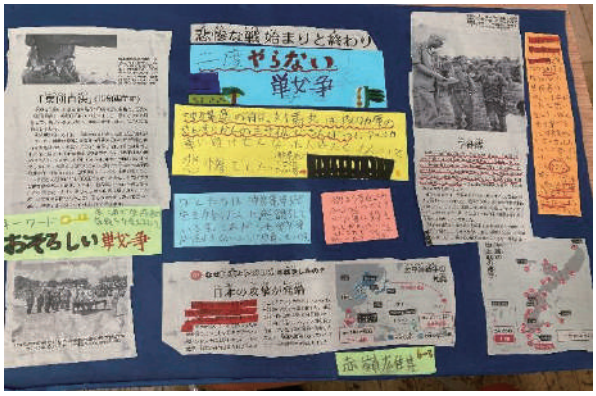


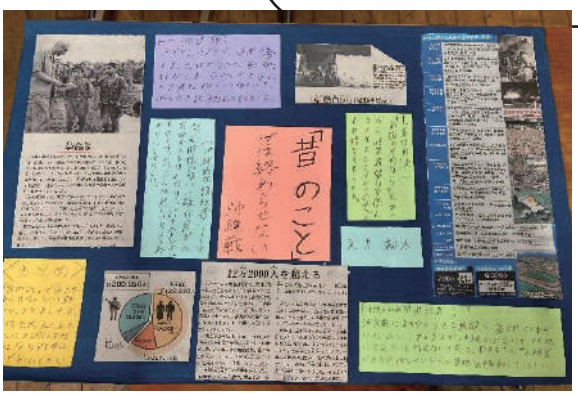
②平和月間の取り組み（6 月）

6 年生は、毎年 4 月に社会科見学で糸満市の「沖縄県平和祈念資料館」を訪れ沖縄戦について学習していく。しかし、今年度はコロナ禍のため、社会見学が中止となったため、「沖縄タイムス「ワラビー」と琉球新報「りゅうＰＯＮ！」の沖縄戦特集号」を活用し、沖縄戦についてポスターにまとめた。

ポスターの見出しには、自分なりの平和に対するメッセージを入れるように意識させた。

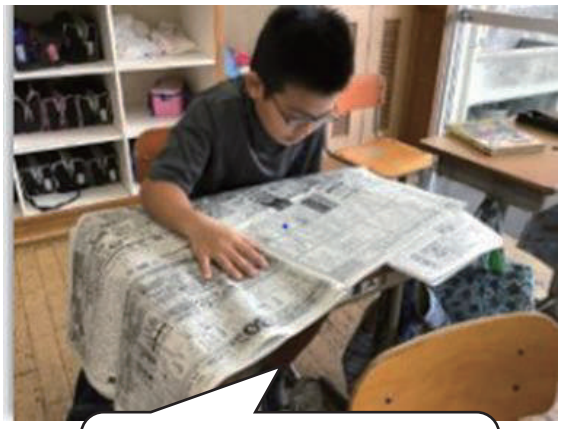
沖縄戦についてわかったことや自分が感じたことをまとめさせた。ポスターを掲示し、共有することで同じ記事を選んでも友達と違う感想や考え方があることに気付くことができた。





③総合的な学習での取り組み（１０月）

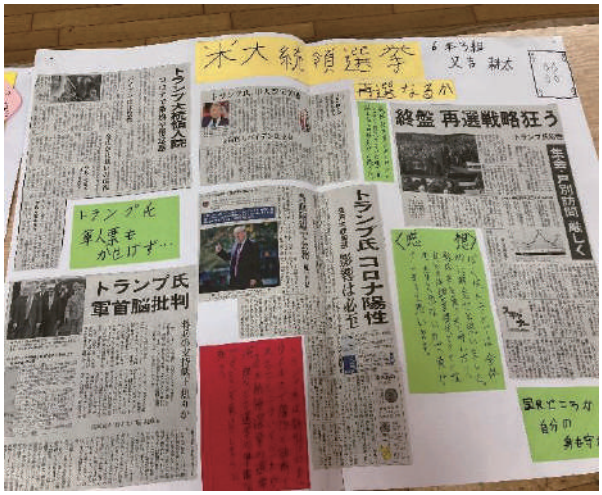
2 学期は、自分が興味を持つ課題について、複数の新聞（朝日新聞　読売新聞　琉球新報　沖縄タイムス）を読み比べながら気になる記事を集め、自分の考えをまとめていくことに挑戦した。1 学期からの積み重ねで、どの児童も抵抗なく新聞を読み、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。



アメリカの大統領選挙が
気になるな。

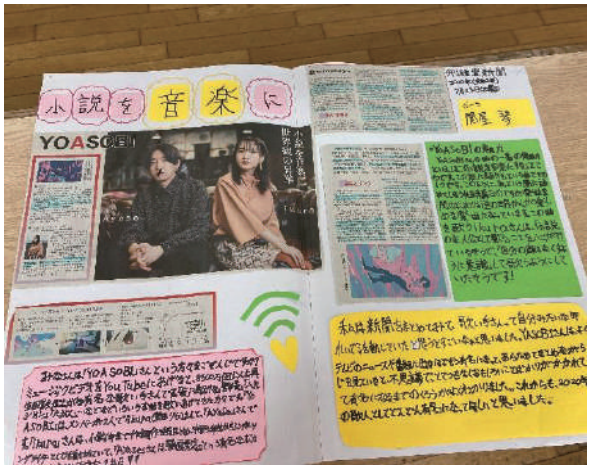
同じ記事でも東京と沖縄では
伝え方が違うね。

大坂なおみ選手をきっかけに
人種差別問題にも興味をもった



アメリカ大統領選挙のゆくえは？

早くコロナが収まって欲しいな



みんなに大人気 YOASOBI♪

（２）その他の実践

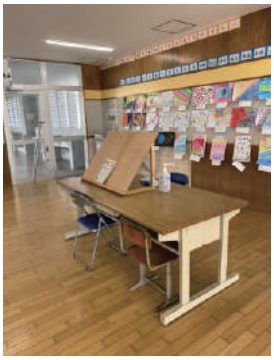
「理科と NIE」

・５年「天気の変化」で、天気図を比べた。

・５年「台風と天気の変化」で新聞の台風記事（写真）の連日の被害等を比べた。

・理科系の記事を掲示した。

「図書館廊下に NIE コーナー」を設定



新聞が読める棚を作成

４　成果と課題

〇成果

・学校全体で、読売新聞のワークシートに取り組むことができた。

・読売新聞のワークシートの「SDGs」記事で、地球の環境問題や人権問題に対する意識が高まった。

・NIE の取り組みを通して、読解力が身についた。

〇課題

・コロナ禍で時数が減ったことによって、実践する時数の確保が難しかった。

・県紙と本土紙を比べながら読ませる意識を持たせたかったが中々取り組む時間がなかった。

令和２年度　石垣市立崎枝小中学校　NIE 実践報告書

石垣市立崎枝小中学校
教　諭　　平　哲也

１　はじめに

本校は、昨年度より日本新聞協会指定 NIE 実践校となり、2 年目となる。昨年度は中学校での実践が中心であったが、今年度は小中併置校の特色を生かし、小学１年～中学３年で日常的な NIE の実践を進めてきた。取り組みとしては、NIE ワークシートの活用、NIE 関連のコンクールへの出品や学校新聞コンクールへの応募を通して、意欲を高めるように努めた。

２　NIE と校内研修との関わり

本校の校内研修主題は、『他者とかかわりながら課題解決に向かい、「問い」が生まれる授業の工夫～教科等による「見方・考え方を働かせる」授業の改善を通して～』である。本校は、６年前から新聞記事を読んで、その記事の要約や感想を発表する集会の機会を設けている。この取り組みをさらに充実させることで、校内研修主題である「他者とかかわりながら課題解決に向かう力」を高められると考え、実践を行った。

３　NIE コーナーの設置

令和２年５月より職員室を中心に全国紙４紙・県紙２紙・地元紙１紙の新聞を閲覧できるコーナーを設置した。（図１）

職員室設置の理由は、今年度から小中併置校の特色を生かすため、小学校も NIE 認定を受けた。そのため、小学校の先生方や中学校の先生方にも気軽に新聞を読んでもらい、授業で活用できる雰囲気作りとして設置した。

（図１）NIE コーナー

４　実践の内容

（１）ワークシートの活用

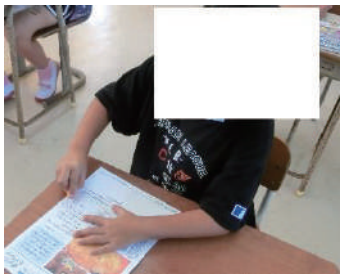
今年度、小学部（小学１年生～5 年生）で初めて NIE 実践を行った。取り組みとしては、各新聞社が提供しているワークシートの活用を中心に行った。その際、あまり新聞を読んだことのない児童が新聞に対する抵抗感をできるだけなくすこと、新聞を活用した実践経験のない職員にも、すぐに取り組みやすいと言った利点を伝え、実践に取りかかった。

ワークシートの活用は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための一斉休校中の課題

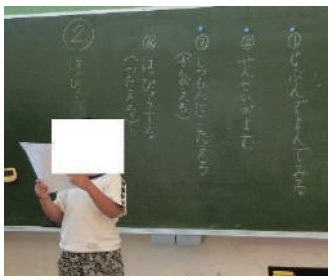
として各家庭に配布し、新聞記事に親しむように配慮した。さらに、学校再開後から朝の帯タイムや各教科の時間に各担任が児童の発達段階を考慮し、実施した。実施後は、教室の背面掲示板に掲示し、実施したことを足跡として残るようにした。（図２）

ワークシートは最新ニュースを扱っていることもあり、児童生徒ともにワークシートの内容が各家庭で購読している新聞、テレビのニュース・インターネットニュースで見聞きした内容と同じだと話す回数が増えた。昨年から継続したことで、ワークシート活用での効果が確実に出ている。

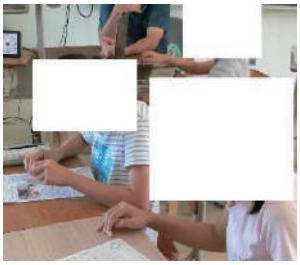
（図２）小学１，２年教室の掲示物



（図３）小学１年生



（図４）小学２年生の発表



（図５）小学５，６年生

（２）一斉休校中の取組

本校では、一斉休校中だが家庭の事情で学校への登校を希望している児童生徒が数名いた。その児童生徒が密にならず、楽しく学習できるようにと体育館を解放し、休校中の課題を解くなどの学習支援を行った。その際、NIE 実践を２つ行った。

１つめは、新聞記事で掲載されている写真の中で自分が気に入った写真を貼って共感をしてくれる人に投票してもらう「崎枝写真コンテスト」を実施した。全国紙では定期的に美しい景観が紙面を飾ることがあり、写真をきっかけに読むのに抵抗感があった全国紙を読む児童生徒が増えた。

（図６）崎枝写真コンテスト

児童生徒は時間をかけて新聞から気に入った写真を探し、模造紙に貼り、写真の下にその写真を選んだ理由を記入した。その後、他の児童生徒や職員が写真の下にシールを貼り、作品の感想を話し合った。（図６）

２つめは、新聞スクラップ作品づくり。短い時間であったが、一人一人がまとめていた。初めてスクラップ作品作りに挑戦した小学５，６年生であったが、中学生に負けず、記事の要約や自分の意見をワークシートに記入していた。（図７）

（図７）児童生徒の新聞スクラップ作品

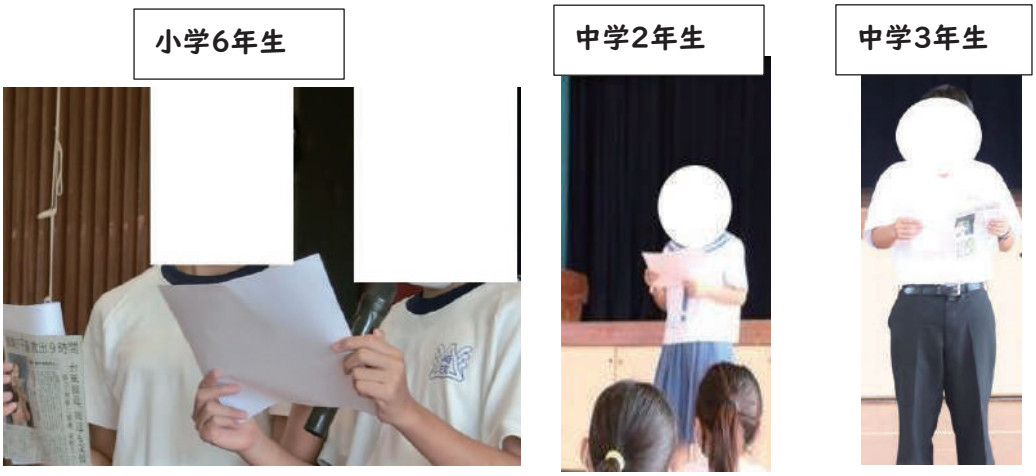
（３）社会科新聞作成

本校では、毎年７月に中学校全学年で「社会科新聞」に取り組んでいる。社会科新聞作成を通して、身近な地域に目を向け、その地域の課題や将来像を自分事として考える機会として、これまで社会科の授業や夏休みの補習等で取り組んだ。（図８）

（図８）中学生の社会科新聞

（４）発表集会

本校が６年前から実践している発表集会は、毎月１回、水曜日に行われる。中学生は、３カ月に１度のペースで発表場面が設定されている。今年度も、生徒は自分が興味ある記事を切り抜き、内容を要約した後、その記事に対する自分の感想や意見を専用のワークシートにまとめた。その後、原稿を各担任と内容を確認し合い、集会で発表した。（図９）



（図９）小学６年生、中学２年生・中学３年生の発表

（５）『第 11 回いっしょに読もう！新聞コンクール』への応募

昨年度、新聞記事に対して家族や友達にインタビューしたことで、自分の考えが深まったとの感想があり、好評であった新聞コンクールへ今年度も応募した。今年度は、小学６年生から中学３年生の５名が応募した。結果、学校奨励賞を受賞した。（図 10）

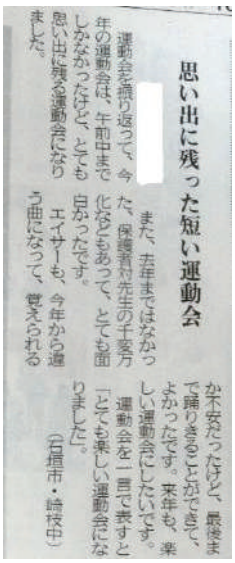
（図 10）児童生徒の作品と学校奨励賞

（６）『第 10 回沖縄県新聞スクラップコンテスト』への応募

沖縄タイムス社主催「第 10 回沖縄県新聞スクラップコンテスト」に小学６年生と中学生が応募した。残念ながら受賞には至らなかったが、児童生徒は自分の体験と新聞記事を重ね合わせるなど、応募により NIE 効果が出ていると感じた。

（７）新聞記事投稿

児童生徒や担任の先生方に呼びかけて、学校行事の振り返りの作文を新聞投稿した。さらに掲載された投書を集めて、学習発表会などで掲示している。掲載された児童生徒を褒める場として、また他の児童生徒のお手本として活用している。（図 11）（図 12）（図 13）



思い出に残った短い運動会

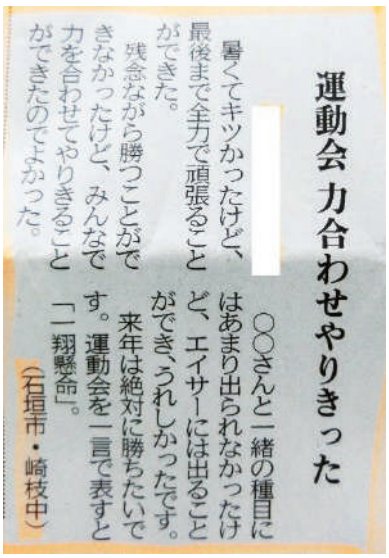
運動会を振り返って、今年の運動会は、午前中までしかなかったけど、とても思い出に残る運動会になりました。

また、去年まではなかった、保護者対先生の千客万化などもあって、とても面白かったです。

エイサーも、今年から違う曲になって、覚えられるか不安だったけど、最後まで踊りきることができて、よかったです。来年も、楽しい運動会にしたいです。

運動会を一言で表すと「とても楽しい運動会になりました」。

（石垣市・崎枝中）



運動会 力合わせやりきった

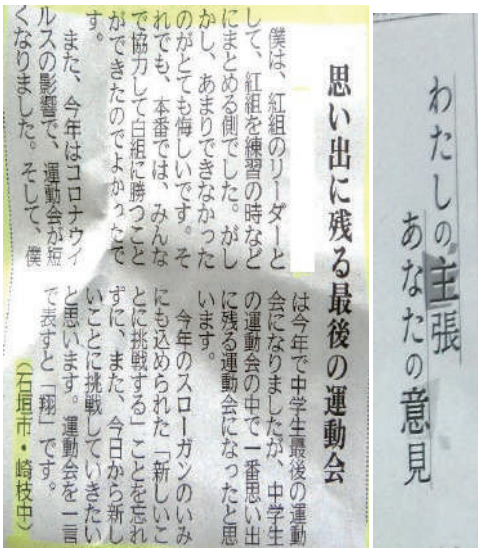
○○さんと一緒の種目にはあまり出られなかったけど、エイサーには出ることができ、うれしかったです。

来年は絶対に勝ちたいです。運動会を一言で表すと「一翔懸命」。

（石垣市・崎枝中）

暑くてキツかったけど、最後まで全力で頑張ることができた。

残念ながら勝つことができなかったけど、みんなで力を合わせてやりきることができたのでよかった。



わたしの主張 あなたの意見

思い出に残る最後の運動会

僕は、紅組のリーダーとして、紅組を練習の時などにまとめる側でした。がしかし、あまりできなかったのがとても悔しいです。それでも、本番では、みんなで協力して白組に勝つことができたのでよかったです。

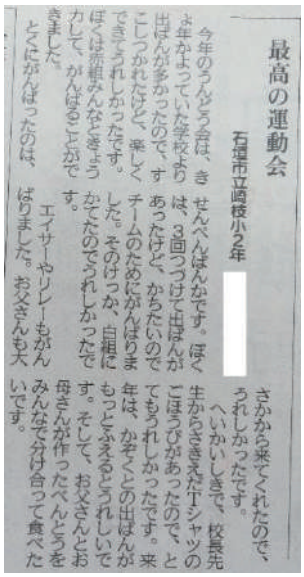
また、今年はコロナウイルスの影響で、運動会が短くなりました。そして、僕は今年で中学生最後の運動会になりましたが、中学生の運動会の中で一番思い出に残る運動会になったと思います。

今年のスローガンのいみにも込められた「新しいことに挑戦する」ことを忘れずに、また、今日から新しいことに挑戦していきたいと思います。運動会を一言で表すと「翔」です。

（石垣市・崎枝中）

10 月 18 日掲載　　10 月 20 日掲載　　11 月 1 日掲載

（図 11）沖縄タイムス【わたしの主張　あなたの意見】



最高の運動会

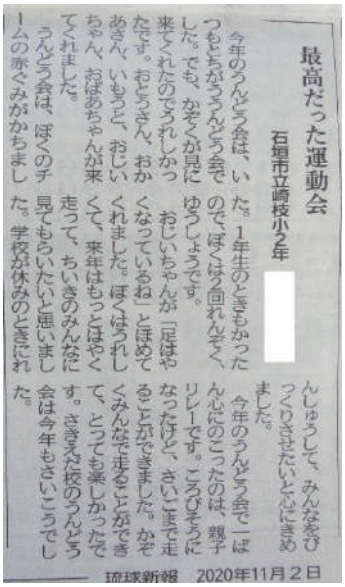
石垣市立崎枝小2年

今年のうんどう会は、きょ年よりよっていた学校より出ばんが多かったので、すこしつかれたけど、楽しくできてうれしかったです。ぼくは赤組みんなときょうかして、がんばることができました。

とくにがんばったのは、せんべんばんかです。ぼくは、3回つづけて出ばんがあったけど、かちたいのでチームのためにがんばりました。そのけっか、白組にかったのでうれしかったです。

エイサーやリレーもがんばりました。お父さんも大さかから来てくれたので、うれしかったです。

へいかいしきで、校長先生からさきえだTシャツのごほうびがあったので、とてもうれしかったです。来年は、かぞくとの出ばんがもっとふえるとうれしいです。そして、お父さんとお母さんが作ったべんとうをみんなで分け合って食べたいです。



最高だった運動会

石垣市立崎枝小2年

今年のうんどう会は、いつもとちがううんどう会でした。でも、かぞくが見に来てくれたのでうれしかったです。おじいちゃん、おばあちゃん、おかあさん、いもうと、おじいちゃん、おばあちゃんが来てくれました。

うんどう会は、ぼくのチームの赤ぐみがかちました。1年生のときもかったので、ぼくはゆう回れんぞくゆうしょうです。

「おじいちゃんが「足はやくなっているね」とほめてくれました。ぼくはうれしくて、来年はもっとはやくて、とっても楽しかったです。さきえだ校のうんどう会は今年もさいこうでした。学校が休みのときにれんしゅうして、みんなをびっくりさせたいと心にきめました。

今年のうんどう会で一ばん心にのこったのは、親子リレーです。ころびそうになったけど、さいごまで走ることができました。かぞくみんなで走ることができて、とっても楽しかったです。学校のうんどう会は今年もさいこうでした。

琉球新報　2020年11月2日

僕の主張 ■ 私の意見

来年もがんばるぞ

石垣市立崎枝小2年

今年のうんどう会は、新がたコロナウイルスのえいきょうで、いつもの6月じゃなく、9月になりました。でも、わたしは、がんばりました。

一ばん楽しかったことは、やっぱり親子リレーです。なぜかというと、あいてが大人だったけど、一ばんしゅうしかったのです。

せんべんばんかのマシュマロさがしも心にのこっています。こむぎこがのどにつまってくるしかったので、来年のうんどう会でマシュマロさがしがあったら、こむぎこをすくなくしてほしいです。

かったのはあか組でした。わたしは白組だったので、まけてくやしかったけど、来年のごほうびも楽しみです。

さきえだTシャツが一ばんのお気に入りです。うんどう会はいいあせかいて、気持ちよかったです。来年もがんばります。

11 月 7 日掲載　　11 月 2 日掲載　　10 月 31 日掲載

（図 12）琉球新報【僕の主張　私の意見】

（図 13）学習発表会での掲示

（８）りゅう PON！題字コンテストへの応募

琉球新報社の『りゅう PON！題字コンテスト』へ中学１年生が応募した。この生徒は、絵が描くのが好きで社会科新聞のイラストも素晴らしかったので、応募を勧めてみたところ初挑戦で特別賞を受賞することができた。(図 14)

りゅうPON！題字コンテスト　応募用紙

【作品】縦4cm×横19cm　＊色もぬってね！

☆作品に込めた思いや工夫したところを教えてください（150字以内）

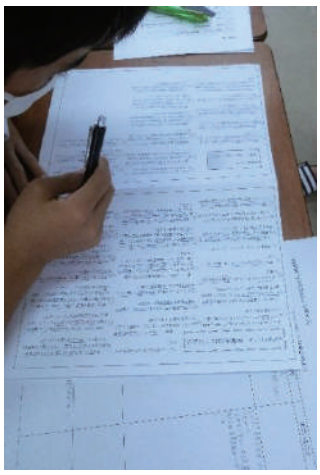
▶字を書いていて工夫したところは、「り」と「N」の文字を新聞の模様にしたところです。また、沖縄っぽくなるようにシーサーやパインを「O」の形にして書きました。それ以外にも、ミンサー柄やハイビスカスなどを背景に書いて、鮮やかにしました。それと、できるだけ丸く大きく書き、見やすくなるようにしました。

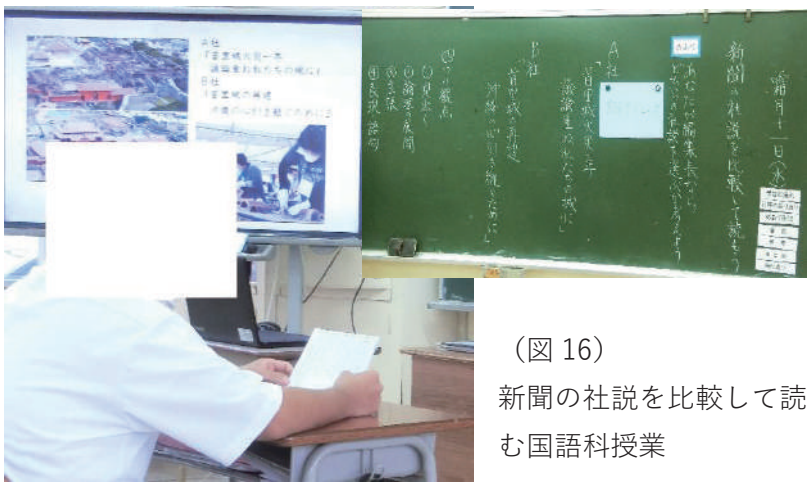
（図 14）琉球新報社
『りゅう PON！題字コンテスト』
特別賞受賞作品

（８）新聞を活用した授業の実践

新聞を活用した授業を国語と社会科で行った。（図 15）（図 16）

（図 15）首里城火災の記事を教室後ろに貼り、授業の導入で使った社会科授業





（図 16）
新聞の社説を比較して読む国語科授業

（９）八重山毎日新聞社の取材

現在、石垣市では本校と小学校１校が日本新聞協会指定の「NIE」実践校である。10 月の新聞週間企画として、地元紙「八重山毎日新聞社」から NIE の取り組み状況の取材を受けた。取材では、小学部の各学級で行われている授業を紹介し、NIE の効果を伝えることができた。（図 17）

八重山毎日新聞　2020年（令和2年）10月16日（金曜日）

教育現場に新聞を

NIE実践指定校の取り組み

崎枝小学校

読解力鍛える

ワークシートを活用

この記事で 小さな声が 大きく育つ

（図 17）八重山毎日新聞
2020 年 10 月 16 日（金）掲載記事
『新聞週間企画　教育現場に新聞を
NIE 実践指定校の取り組み』

（10）『しんぶんの“ワッ！”スゴロク』に挑戦！

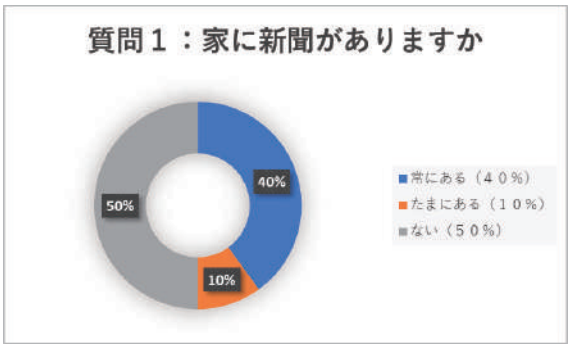
日本新聞協会より『しんぶんの“ワッ！”スゴロク』が本校に届いた。新聞を活用する授業の前提として、新聞を使って“楽しい”と実感できる教材である。さっそく、小学 5，6 年生、中学生全員でスゴロクを体験した。スゴロクには様々な工夫がなされており、新聞記事を読むことだけでなく、紙飛行機、紙鉄砲など小学生低学年でも楽しめるようになっている。スゴロクを体験した後、どの児童生徒も、もう一度スゴロクをしたいと話すほど盛り上がることができた。（図 18）

（図 18）しんぶんの“ワッ！”スゴロクで楽しんでいる児童生徒

（11）アンケート結果　（小学１年生～中学３年生）

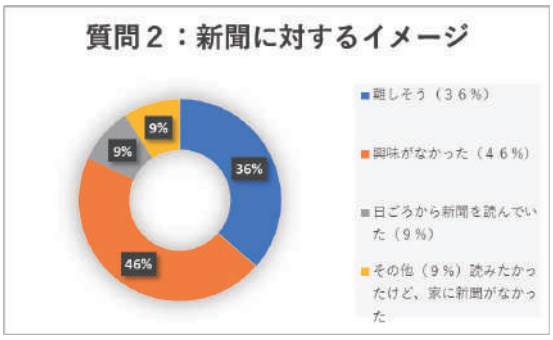
これまで２年間 NIE を実践してきたが、その教育効果を確認する一手法としてアンケートを全児童生徒対象に実施した。アンケートの質問項目は、過去の NIE 実践報告書（2018 年沖縄県 NIE 実践報告書１４ページ　宜野座高校の実践報告）を参考に作成した。

質問１：家に新聞がありますか
常にある（４０％）
たまにある（１０％）
ない（５０％）



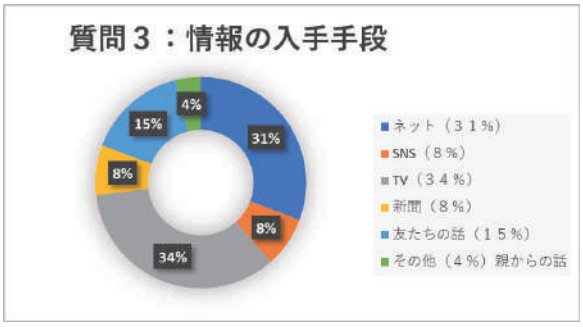
【考察】約半数の児童生徒は新聞を読むことができる環境にあることが分かった。

質問２：新聞に対するイメージ
楽しそう（３６％）
興味がなかった（４６％）
日ごろから新聞を読んでいた（９％）
その他（９％）読みたかったけど、家に新聞がなかった



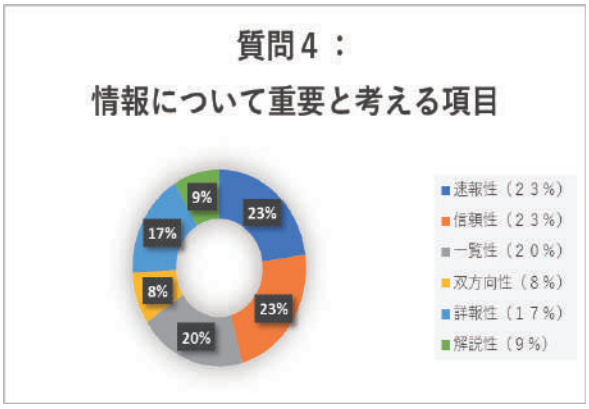
【考察】新聞に対するイメージは、興味がないが約半数あるなど、新聞を身近に感じていないと感じた。

質問３：情報の入手手段（上位３つ選択
ネット（３１％）
SNS（８％）
TV（３４％）
新聞（８％）
友達の話（１５％）
その他（４％）親からの話



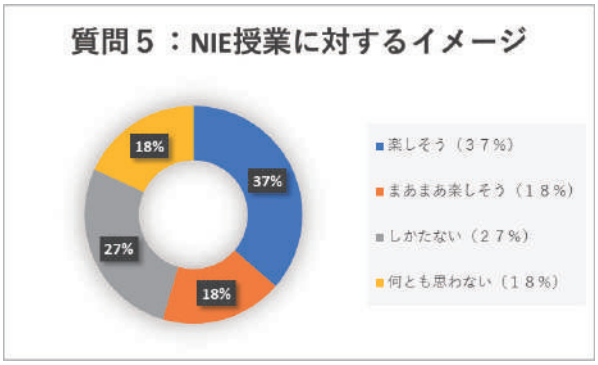
【考察】入手手段はネットや TV が 30%を超えるなど、小中学生の環境が想像できる。新聞からの情報の入手手段が８％と、低い割合となっているのが課題である。

質問４：情報について重要と考える項目（上位３つ選択）
速報性（２３％）
信頼性（２３％）
一覧性（２０％）
双方向性（８％）
詳報性（１７％）
解説性（９％）



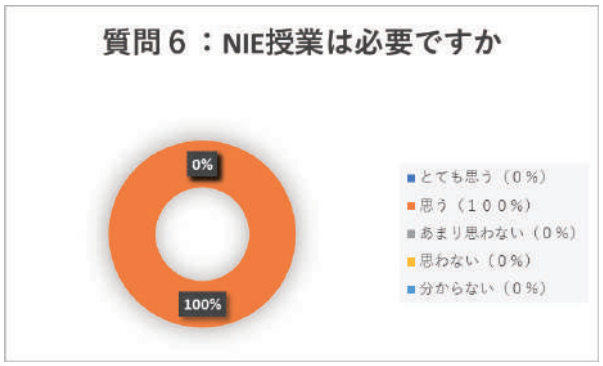
【考察】ネットや TV から情報を入手していることが背景にあり、速報性の割合が高い。しかし、日ごろの授業等で生徒から、ネットからの情報をそのまま信頼しているという話を聞くことがあり、情報リテラシーの育成が急務だと感じる。

質問５：NIE 授業に対するイメージ
楽しそう（３７％）
まあまあ楽しそう（１８％）
仕方ない（２７％）
なんとも思わない（１８％）



【考察】NIE 授業に対してのイメージは約半数が楽しそうと肯定的な意見であったが、教師がやるから仕方ない・なんとも思わないと否定的な意見が半数近くあり、イメージが二分されているのが課題である。

質問６：NIE 授業は必要だと思いますか。
とても思う（０％）
思う（１００％）
あまり思わない（０％）
思わない（０％）
分からない（０％）



【考察】NIE 授業に対して１００％が肯定的な意見があり、NIE を実践して良かったと思えた結果となった。

質問７：実際に NIE 授業を受けた後の感想を教えてください。

・新聞の必要性を感じた
・新聞を少し読むようになった（2 人）
・新聞が分かりやすくなった
・手紙を書くのが楽しかった
・読むことで、いろんな情報を知ることができた
・自宅で新聞は読めないけど、日ごろの情報が分かって、どうすればいいか考えるようになった

・去年より新聞に興味を持った（2 人）

【考察】NIE 授業の感想では肯定的な意見が多く、NIE を実践して良かったと思えた結果となった。

質問８：NIE 授業が必要だと思った理由を教えてください。

・ニュースなどで見逃した情報を知ることができる
・新聞の大切さに気付くことができた
・トランプ大統領のことが知れるから
・役に立つから
・ＮＩＥ授業を受けることで、新聞を上手に解説してくれるから
・いろんな情報が知ることができるから
・ワークシートが新聞を読むより簡単だった（2 人）

【考察】NIE 授業の必要性についても肯定的な意見が多く、NIE を実践して良かったと思えた結果となった。

4　成果と課題

（1）成果

〇『第 11 回いっしょに読もう新聞コンクール』（主催：財団法人日本新聞協会）
学校奨励賞　石垣市立崎枝小中学校

〇小中全学年で取り組むことで、どの児童・生徒も新聞に関心を持つようになり、日常会話の中でニュースの話題が出るようになった。

〇第 11 回いっしょに読もう新聞コンクール」の応募の際、新聞記事に対して、家族や友達にインタビューしたことで、自分の考えが深まったとの感想があった。

〇小中連携を通して、9 年間の学びをつなぐ NIE 活動を実践することできた。特に、ワークシートの活用等で小学校担任と児童の発達段階を考慮するなどの共通認識・共通実践を行うことができた。

（2）課題

●今年度は小中学校共通実践の最初の年ということもあり、ワークシートを中心に実践を行った。今後は、ワークシート以外の取組を日常的に行うことが必要だと感じる。

●中学校の社会科・国語科・英語科（小学校外国語活動）では NIE 実践をすることができたが、まだ不十分と感じる。その他教科の授業でも NIE を活用できるよう、研究を重ねる必要がある。

令和２年度　NIE 実践報告

新聞を活用した主体的・対話的な活動を通して

沖縄県立具志川高等学校

校 長　冨 里　一 公
教 諭　澤 岻　良 子

1. はじめに

「雲外蒼天」令和２年度、本校が掲げた学校スピリットである。この言葉の意味は、雲を突き抜けたその先には、青空が広がっているということ。転じて、努力して苦しみを乗り越えれば、すばらしい世界が待っているといったことを指している。このスピリットのもと、この１年間、学習指導に取り組んできた。

本校は、NIE 実践校として、前年度に引き続き２年目となり、授業、学校活動において、新聞を活用した新たな取り組み実施してきた。近年、また情報化社会の進展にともない、SNS を活用する子どもたちが増えモラルの低下や人間関係の希薄化が問題視される中で、自分の考えを表現し伝える力を身につけるためには何が必要かを考えた。そこで、子どもたちの周りで起きている地域、日本、世界情勢に興味・関心を持ち社会との繋がりを認識させ、主体的・対話的な深い学びによる授業を実施することで、自身の考えを表現し相手へ伝える力が身につけられるのではないかと考え、NIE を取り入れ、新聞を活用した授業展開の工夫に取り組んだ。

2. NIE コーナーの設置と充実

全校生徒が新聞を読めるよう、生徒会室前へ新聞コーナーを設置しイスに座り自由に読み話し合いのできるスペースを設置(図１)

全国版の新聞、県内版の新聞を分け、今日の新聞の紹介をし、誰でも手に取り、読める新聞コーナーの設置は、3 年生をはじめ、全学年の生徒たちの新聞活用の場となった。

図１　新聞コーナー

令和２年度は、スペースを拡大！！
多くの生徒が、新聞を手に取り読む姿が見られました。

3. 実践内容

（1）　新聞を活用した授業の工夫【地理 B】

地理 B の授業では、毎時間、生徒による気になるニュース１分間スピーチを取り入れている。

新聞を読み、気になるニュースや出来事を、用紙にまとめ、授業の始めに、調べた内容を１分にまとめて発表をする。発表内容を、それぞれがワークシートにまとめる。友人が気になるニュースを、全体で共有することで、さらに興味関心の持てるような取り組みへとなった。

（２）　新聞を活用した授業【現代社会・倫理】

「読む・要約する・考える・意見を記入する・伝え合う（聴く・話す）の授業展開」

新聞に目を通し、気になる記事をじっくり読み、切り取り、　要約しまとめる（図２、図３）グループで、各自が選んだ新聞の「要約」、「意見･感想」を一人ずつ発表する。発表を聞いて、一つの記事についてグループでそれぞれが意見を伝え合う。

最後に「クラスの皆にも伝えたいニュースランキング」をグループごとに付け、１位に選ばれた生徒は、全体でその記事を発表し、それぞれが意見を述べ合う（図４）。

また、SDGs を取り入れ新聞の内容と関連する項目を抜き出し、意見を述べる授業展開の工夫（図５）

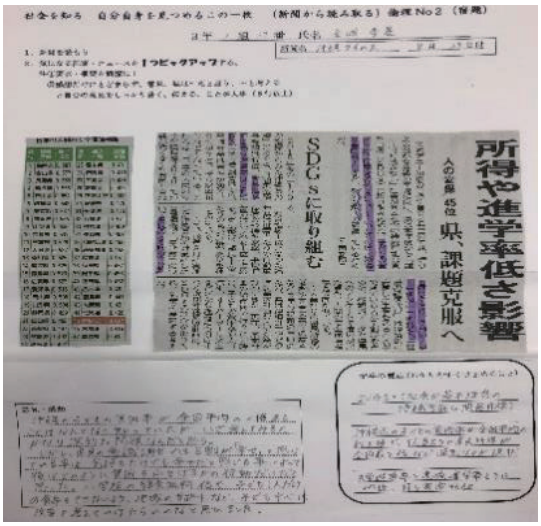


図２　新聞ワークシート

図３　新聞活用した授業

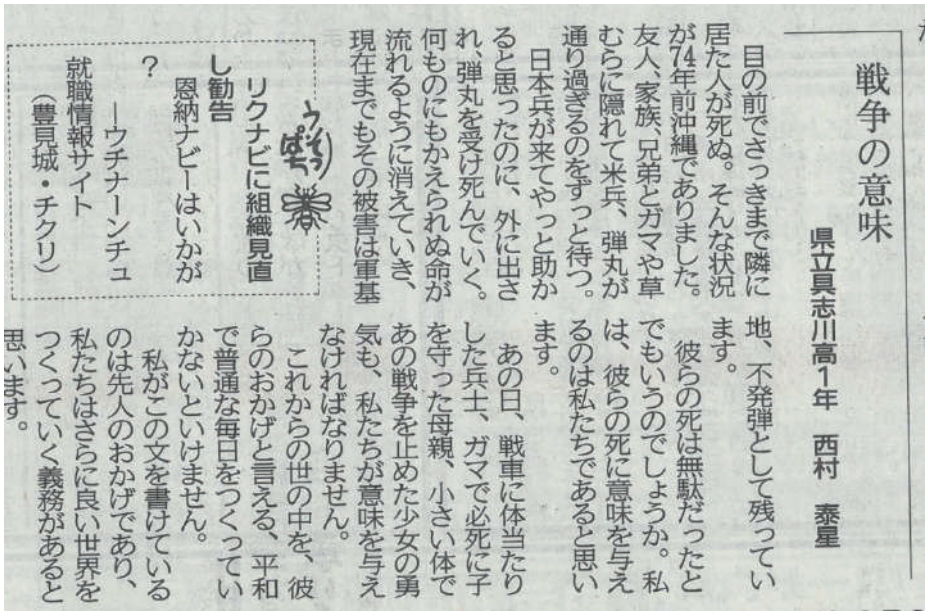
図４　新聞記事を紹介し意見を述べ合う

図５　SDGｓと新聞活用した授業

（３）「慰霊の日」に向けた平和学習「沖縄戦と平和メッセージ」作成【平和学習】

6.23 統一 LHR「慰霊の日について」は学校全クラスで子ども新聞「慰霊の日特集」ワラビーとりゅうぽんポンを活用し、沖縄戦について学び、その後に、「沖縄戦といまある私たちの平和」という題で平和メッセージ作成し新聞社へ寄稿した。（図 6、図 7）

自分の考えを文章にし、その想いを全体へと呼びかける文章作成は、生徒たちにとって、「想いをどう伝えたらいいのか、わからない」等、改めて「平和」を考え、何度も対話を重ねた主体的に活動する授業となった。



戦争の意味

県立具志川高1年　西村　泰星

目の前でさっきまで隣に居た人が死ぬ。そんな状況が74年前沖縄でありました。友人、家族、兄弟とガマや草むらに隠れて米兵、弾丸が通り過ぎるのをずっと待つ。日本兵が来てやっと助かると思ったのに、外に出され、弾丸を受け死んでいく。何ものにもかえられぬ命が流れるように消えていき、現在までもその被害は軍基地、不発弾として残っています。

彼らの死は無駄だったとでもいうのでしょうか。私は、彼らの死に意味を与えるのは私たちであると思います。

あの日、戦車に体当たりした兵士、ガマで必死に子を守った母親、小さい体であの戦争を止めた少女の勇気も、私たちが意味を与えなければなりません。

これからの世の中を、彼らのおかげと言える、平和で普通な毎日をつくっていかないといけません。

私がこの文を書けているのは先人のおかげであり、私たちはさらに良い世界をつくっていく義務があると思います。

うりぱっぽ

リクナビに組織見直し勧告

恩納ナビーはいかが？

―ウチナーンチュ就職情報サイト

（豊見城・チクリ）

図 6　琉球新報(2019. 9. 2)

(元年)　7月21日 日曜日　オピニオン　4

医療経営の必要性知った

宮志富弓乃＝高3

先日の講演、「医療経営学」いのちと向き合う経営学のお話を聞いて、2017年で日本の人口は、1億2700万人だったのが、2058年には、約8700万人になり、40年間で約4千万人減るということが分かり、また、15～64歳が減少して、高齢者が増えていくことが分かりました。高齢者が増えると、もちろん、医療と介護を必要にするけど、医療は介護よりも4倍必要になってきて、医療費がとても大切になります。でも少子高齢化が進むにつれて、お金を支えている働く人たちが減っていくと聞いて、医療経営とは何か。あまり分からなかったけど、医師や看護師以上に、医療経営は求められると知り、どんどん高齢者が増えていく中で、医療費のことなど考えないといけないことが多くてびっくりしました。そして、今回の講演で、やっぱり勉強は大切で、基礎をしっかりできるようにしておきたいと思いました。

（与那原町・知念高）

沖縄の歴史 現状知るべきだ

石川祐妃＝高1

「平和な日常がずっと続けばいいのに」と人々は言うけれど、そもそも今は「平和」なのだろうか。

この島でおこった惨劇を知る上で、戦争と平和というワードは欠かせない。平和のための戦いと称し、日本は連合軍と戦った。何の意味もないこの戦争は終わったが、日本は、沖縄は平和なのだろうか。人々が笑い、楽しく過ごすこの島の空には、今でも米軍のヘリがとぶ。友達と一緒に歩き、ふみしめているこの地には不発弾が残っているかもしれない。これが今の沖縄なのだ。

平和のためにこれらを解決すべきだと言いたいわけではない。これらが何故あってしまったのかを私たちは知るべきだと思うのだ。この地で何があったのか、何故こうなってしまったのか、自分で調べ、考え、自分なりの意見をもってほしいと思う。そうすれば「平和」がどういう姿をしているのか、見えてくるのではないだろうか。

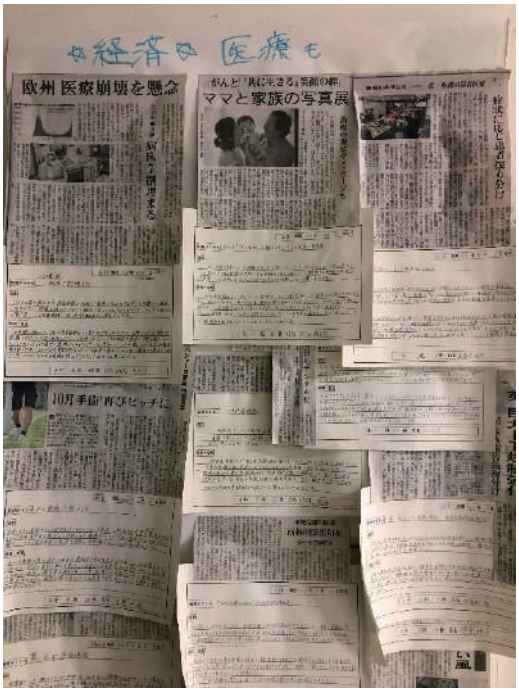
（うるま市・具志川高）

図７　沖縄タイムス(2019. 7. 19)

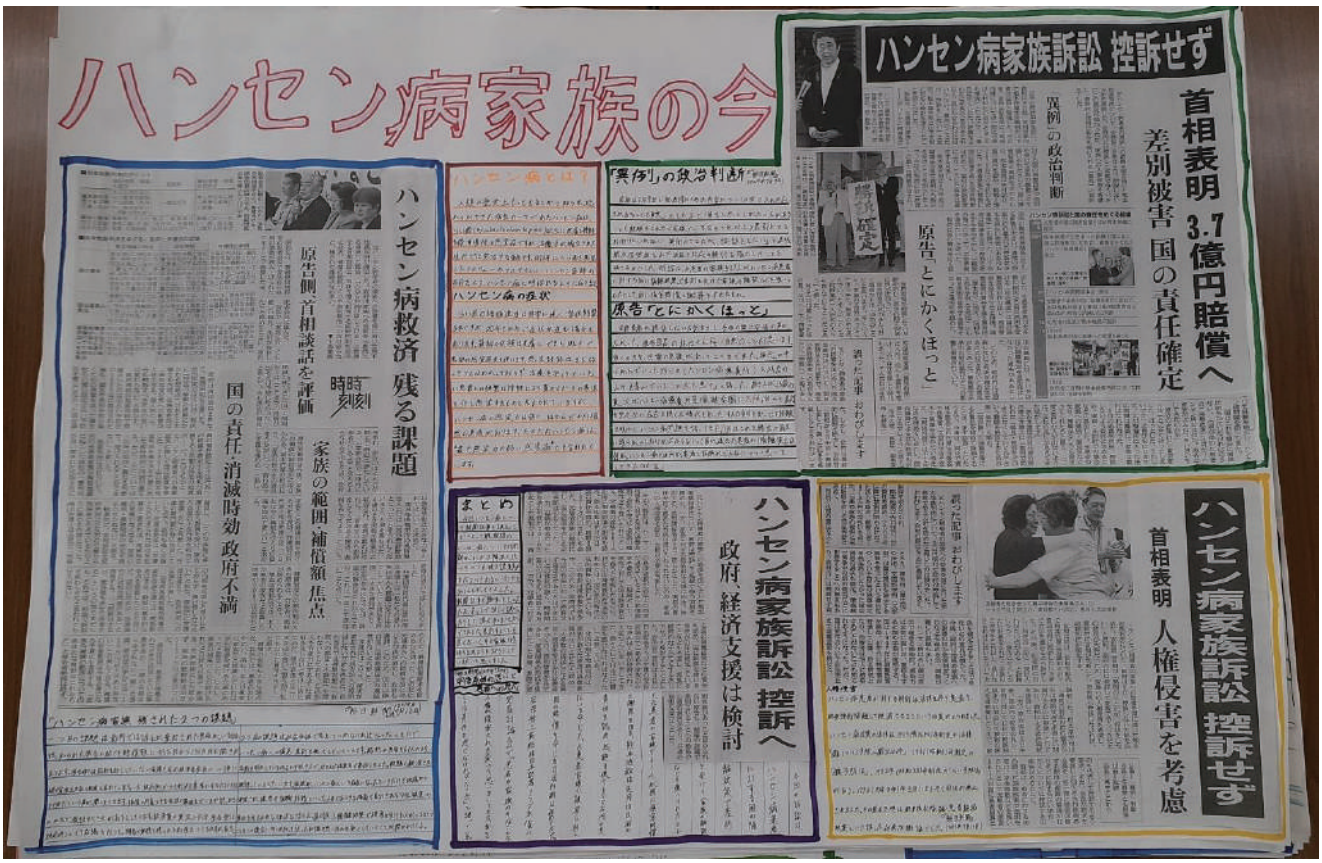
（４）新聞を活用した授業【LHR・総合的な学習の時間】

気になる記事を読み、要約、意見感想を書く。ｸﾞﾙｰﾌﾟ４名で自分が気になる記事の要約、意見を伝えた後に、分野ごとにまとめて貼り出し、クラス全体で共有した。

授業終了後、自分が気になる分野を見て意見を述べ合っている様子が見られた。



（５）スクラップコンテスト【総合現代社会】



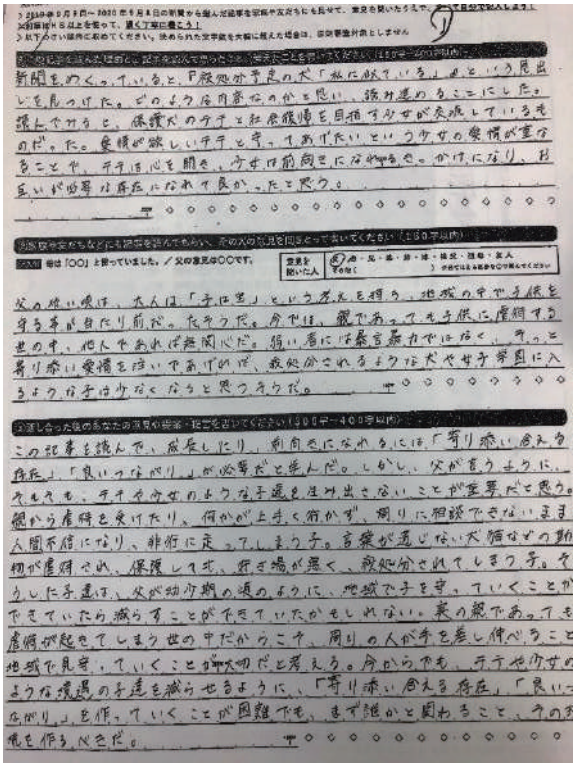
高校切抜き新聞部門優良賞（2019. 12）

高校切抜き新聞部門優良賞（2020. 12）

（6）夏休みの課題【新聞スクラップ・いっしょに読もう新聞コンクール】

本校では、毎年、夏休みの課題として、日頃から社会に関心を持ってもらいたいと、新聞の切り抜き、意見、感想をワークシート記入するスクラップ新聞の作成や、いっしょに読もう新聞コンクール等を実施している。

いっしょに読もう新聞コンクール奨励賞



伊芸さんら5人奨励賞

新聞協コン 気付く大切さ学ぶ

新聞は じんぶんに NIE

日本新聞協会は14日、「いっしょに読もう！新聞コンクール」の受賞者を発表した。県内からは奨励賞（120編）に伊芸美優さん（具志川高3年）、我如古妃茄さん（具志頭中3年）、喜屋武楓花さん（コザ中2年）、比嘉留菜さん（興南中1年）、小笠原舞南（小浜小5年）の5人が選ばれた。

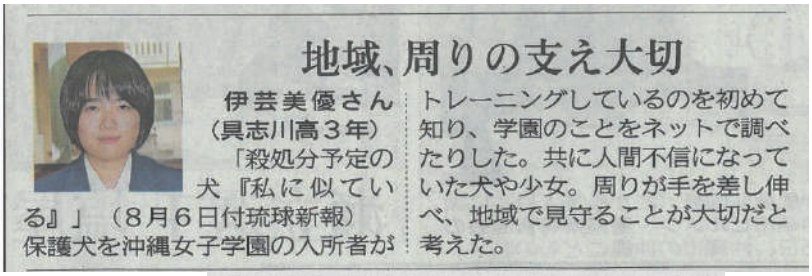
（27面に関連）

新聞記事の感想を書いた上で、家族や友人の意見を聞き取り、それを踏まえた意見や提言を書く構成の感想文コンクール。今年は全国と海外から5万7977編の応募があった。

伊芸さんは、沖縄女子学園に入所している少女が殺処分予定だった犬と交流を重ねた記事を選んだ。「困っている子に対し、気付いてあげられる存在が周囲に必要。自分も周りの人を見て、気付いて行動に移せる人になりたい」と話した。

我如古さんは、障がいのある人もない人も共に県立高校で学ぶ新制度について

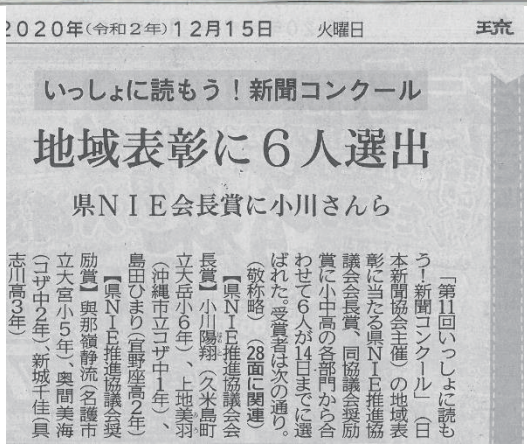
伊芸美優さん



地域、周りの支え大切

伊芸美優さん（具志川高３年）

「殺処分予定の犬『私に似ている』」（８月６日付琉球新報）保護犬を沖縄女子学園の入所者がトレーニングしているのを初めて知り、学園のことをネットで調べたりした。共に人間不信になっていた犬や少女。周りが手を差し伸べ、地域で見守ることが大切だと考えた。



2020年（令和2年）12月15日　火曜日　琉球

いっしょに読もう！新聞コンクール

地域表彰に６人選出

県ＮＩＥ会長賞に小川さんら

「第11回いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会主催）の地域表彰に当たる県ＮＩＥ推進協議会会長賞、同協議会奨励賞に小中高の各部門から合わせて６人が14日までに選ばれた。受賞者は次の通り。（敬称略）

（28面に関連）

【県ＮＩＥ推進協議会会長賞】小川陽翔（久米島町立大岳小６年）、上地美羽（沖縄市立コザ中１年）、島田ひまり（宜野座高２年）

【県ＮＩＥ推進協議会奨励賞】與那嶺静流（名護市立大宮小５年）、奥間美海（コザ中２年）、新城千佳（具志川高３年）

琉球新報, 沖縄ﾀｲﾑｽ 2020 年 12 月 15 日付

４．　実践の最終報告（新聞活用とアンケート結果）

新聞を活用した取り組み通して、１月にアンケートを実施した。（３年生４ｸﾗｽ、２年生３ｸﾗｽ対象）新聞を活用して、「自分の考えを表現し伝えることができる」の肯定的回答が 85％と、５月アンケートと比べると大きく増えた（図 8）。

また、「新聞、資料、視聴覚教材に触れることで、そのことについて関心をもち考えることができましたか。」という問いに、８割が「新聞で社会情勢に触れ、また課題を解決するために話し合い意見を出し合うことで自分の考えが明確になった」等という肯定的な回答であった。NIE 授業実践を通して、生徒の受け身的な学びの姿勢が主体的な学びの姿勢へと変わり、自分の考えを表現する力を育成することができたのではないかと考える。

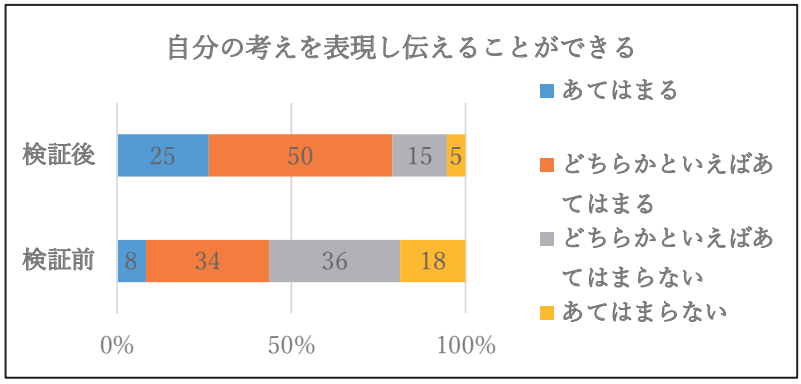


図 8「自分の意見や考えを表現し友人に伝える」検証結果

5. まとめと今後の課題

新聞を活用することで、生徒がより社会に関心を持ち、より主体的・対話的学習へと繋がることを私自身も実際に感じることができた。これからも新聞も取り入れながら、主体的・対話的な学習方法を研究し、学習者である子どもたちが興味・関心を持って授業に臨むことができるよう、工夫・改善しながら NIE 教育に携わっていきたい。

2020 年度　NIE 実践報告書

ヒューマンキャンパス高等学校
校長：仲地　暁
教諭：當山　由佳
儀間　奈央

1.はじめに

本校では、2019 年度から NIE 実践指定校に認定され、通信制高校初の実践校となる。スクーリングで全国の生徒と関わる中で、全国紙と地方紙を通して沖縄についての興味関心に繋げるとともに、新聞を活用した授業で新聞を身近に感じ、それぞれの地元でも新聞の活用ができるよう実践を進めた。インターネットが普及し、生徒が情報収集するには、専らスマートフォンやパソコンを使用し、自分の興味関心のある分野だけという限定的な現状だが、この NIE を通して新聞から広い視野を養っていけるよう取り組んでいる。

2.本校の取り組み

①NIE アドバイザー宮城通就教諭（辺士名高校）による職員対象 NIE 校内研修

１：新聞の構成や特長について

２：学習指導要領との関係について（大学共通テストとの関連含む）

３：全国紙と地方紙の違い

～　ワークその１　「違いを発見しよう」（15 分程度）～

・読み比べればできる、5 種類の学びの紹介

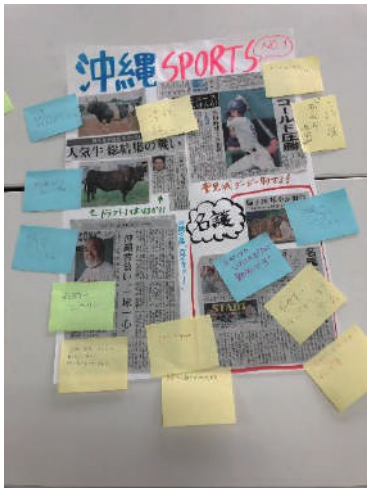
（『これならできる！新聞活用　NIE 入門ガイド』（日本新聞協会）より）

４：第 34 回全国 NIE 大会（宇都宮大会）　報告（高校編）

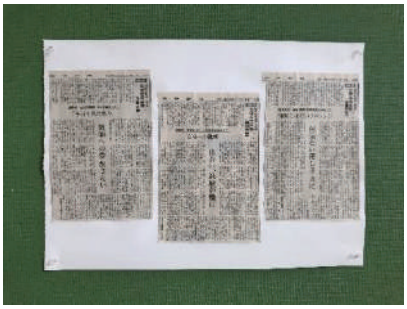
５：新聞活用授業事例の紹介（『新聞授業 ガイドブック』（朝日新聞）より）

６：～　ワークその２　「沖縄のよさをアピール」（35 分程度）～

７：まとめ



②家庭科室での新聞記事の掲示



③授業実践（英語・国語・家庭科・情報）

（1）英語

1．教材　・県内新聞（2 社）　・パワーポイント　・ワークシート

2．単元設定の理由

・沖縄の文化や歴史になじみのない生徒に、沖縄の新聞を通して沖縄を感じてほしい。

・比較級を使って、自分の住む地域との違いを表現することを目標とした。

3．本時の目標

ア、比較級を使って、自分の住む地域との違いを表現する。

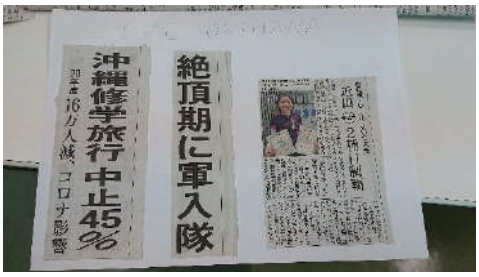
イ、実際の新聞を使って沖縄をテーマにポスターを作成する。

4．本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	指導上の留意点	評価方法
5 分	warm-up ① 担当教員の自己紹介 ② 自己紹介	担当教員の自己紹介を英語で聞いて理解する。 英語での月の言い方を確認し、それぞれの誕生日を英語で答える。	英語の授業に入りやすい雰囲気づくりに努める。 答えられない生徒には教員の英語を繰り返して言うように指導。	
15 分	文法指導	① 自分の県のいいところを日本語で答える。 ② 沖縄と自分の県の違いをパワーポイントにて確認する。 ③ 比較級の表現を確認する。	日本語でもいいので発話を促す。 生徒の興味を引く項目にする。 机間巡視	
25 分	ポスター作成	沖縄をテーマに新聞紙を切り抜きポスターを作成する。できる生徒は英語でタイトルを記載する。	机間巡視	
5 分	まとめ、講評	本時の感想を書く。	机間巡視	

5．おわりに

お悔やみ欄やエイサーの写真を発見したり、生徒は楽しんで沖縄の文化に触れることができたようであった。



（2）国語

科目：現代文 B

○　全国の新聞を見比べよう

本校の SC で各都道府県の生徒に、自分の地域の新聞について知っていることを発表。　授業を受けた生徒の中で、実際に家で新聞を取っているは半数以下と、新聞になじみがない生徒がほとんどであった。
まずは地方紙（沖縄タイムス・琉球新報）と全国紙の違い、新聞の見出しの特徴や重要性を考えた。

【全国紙と地方紙（沖縄タイムス・琉球新報）の違い】

- 同じ日の新聞でも、一面に取り上げられている記事に違いがある。
- 沖縄の新聞はカラフル
- テレビ欄のチャンネル数が自分たちの地域よりも少ない
- テレビ欄を見るとすでに放送された番組が沖縄では遅れて放送されている
- 全国紙は広告が多い
- 沖縄の新聞は動物や自然に関する記事が多い
- 基地問題などが全国紙よりも多く取り上げられている

○　新聞スクラップを作ろう

まとめる題材のテーマをくじで引き、そのテーマの中から気になる記事をスクラップし、各項目を書いていきます。

・生徒が活字に触る機会となり、全国紙と地方紙の違いから伝達される情報のちがいや面白さに気付くことができた。
・県内外の生徒と授業を行う中で、地元紙との違いを自然に話しはじめ、交流のきっかけになった。

（３）家庭科

科目：家庭基礎

■実施単元名

第4節消費生活　(2)消費者の権利と責任　ア消費者問題

■単元設定の理由

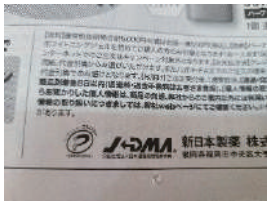
社会の変化とともに私たちの消費生活も変化してきている。消費生活の特徴を理解し、自立した消費者をめざすため本単元を設定した。

■学習目標（本時のねらい）

インターネットの普及や高齢化に伴い、若者や高齢者は悪質商法に特に注意が必要であることを理解し、はっきりと断ること、すぐに契約しないこと等、また、契約してしまった際の対処法を知り、被害を最大限に防ぐことができるようにする。

■本時の展開

展開	学習活動	指導上の留意点/使用教材等
導入 （10 分）	①　出席の確認をする。 ②フィットネスボールを見せ、どこで（どのように）買ったか予想する。 ②　商品の販売（購入）方法をできるだけ挙げる。 ③　本時の学習目標を知る。 【消費者問題への対応ができるようになる】	※フィットネスボール以外でも可 ワークシート
展開 （35 分）	④　店舗販売と無店舗販売に分類しそれぞれの特徴を知り、インターネットショッピングの利点と注意点を挙げる。 ⑤　インターネットショッピング等の普及により、近年無店舗販売が増えていることに気づく。 ⑥　体験したことがあったり、知っている悪質商法を挙げる。 ⑧若者がねらわれやすい悪質商法を知る。 【ネットのリスク、本当に理解していますか？】	教科書 p182 ワークシート 教科書 p182 （福岡県消費生活ｾﾝﾀｰ）
まとめ （5 分）	⑨インターネットの普及や高齢化に伴い、若者や高齢者は特に注意が必要であると理解し、対処法を考える。 ⑩新聞からジャドママークを探し、印をつける。 JADMA Japan Direct Marketing Association	ワークシート ●情報をうのみにしない ●根拠のない請求に応じない ●はっきりと断る ●すぐに契約しない ●消費生活センターに相談する



（4）情報

科目：　社会と情報

■実施単元名

情報社会の課題と情報モラル

■単元設定の理由

情報化によって生活の利便性が向上していること、それに伴って新たな問題も多く発生していることを理解する。

■学習目標（本時のねらい）

情報を発信する際、個人の適切な判断の重要性について理解し、情報社会に積極的に参画するために必要な情報モラルを身に着ける

■本時の展開

展開	学習活動	指導上の留意点/使用教材等
導入（5 分）	・号令、ワークシート配布、出席確認、自己紹介、沖縄の地名について	ニュースや身近な話題を用いて説明することを事前に説明。
展開（40 分）	＜バカッター（バイトテロ）について＞ 軽はずみな言動を投稿することによって起こるトラブルについて事例をあげながら炎上の末路について説明する。 〈新聞記事とフェイクニュース〉 新聞記事よりもネットのフェイクニュースのほうが刺激的な内容で、人々の関心を引きやすい。安易に情報に惑わされず、自分で正しい判断できるように意識させる。 ＜フェイクニュースについて＞ 伝言ゲーム体験を通して、人から人へ情報が伝わる過程で起きる情報の欠落、転換を体験させる。 普段目にしている情報について、鵜呑みにするのではなく 正しい情報であるかどうかの検証を行う（クリティカルシンキング）姿勢を身につける。	一度 SNS 上に保存された写真は消すことができないということを意識させる。 新聞記事とフェイクニュースを比較しながら情報の違いを見ていく。 一人ひとり情報の認識には差があるということを意識させる。
まとめ(5 分)	・ワークシート回収、号令	

④ 授業以外での活用

教学 Zoom 会議
毎月 1 回実施。全国にある直営校舎（16 校舎）と Zoom をつなぎ、今後の方針の確認やそれぞれの校舎の運営状況の発表を行う会議。そこで、毎回出される課題（通称：MVP テーマ）についてそれぞれの校舎の取り組みを発表し、優秀な校舎を表彰する。

第 7 回 教学 Zoom 会議 MVP のテーマ：「2020 年度 学習センター便り 傑作選について」

新聞の活用：各学習センターの「センターだより」について校長先生から新聞を画面共有し、
新聞の見出しや写真の活用方法のレクチャーや作成のアドバイスを行う。

名護学習センター（提出用）

新聞（新報・タイムス）から学ぶ
魅力ある広報紙づくり
ヒント・アイディアがいっぱいだ

広報紙（学校だより、学級だより、保健だより、PTA 新聞）

（報告） 広域通信制　学校法人佐藤学園　ヒューマンキャンパス高校　校長　仲地暁

⑴ 趣旨：任された学校経営・学級経営のアカウンタビリティーは信頼頼関係構築の重要要件だ、その手法の一つに広報紙発行がある。
魅力ある通信発行での教師と生徒、生徒同士に信頼関係の強化に努める。

⑵ 講習会のメニュー

①読みやすい記事・素早く正確に伝える記事は・・・
５W１Hの簡潔な文で、結論から書き、分かりやすく伝える。

②読みたくなる「タイトル」「見出し」は・・・・・
読者をひきつける読みたくなる見出しが勝負、新聞にヒントあり

③感動・共感する「見出し」は・・・・・・・
読者をうならせる見出しのコツ・サンプル収集

④時には、遊び心があるギャグ（笑い）のある見出しで・・・・
親しみが広がる見出しのネタは、実はそこにあった。

⑤写真効果的な使い方は・・・・・
一枚の写真が百行の記事に匹敵する、表情みえる瞬間を捉える

⑥効果的なレイアウトは・・・・
バランスとれた美しい形のレイアウトは、読みやすい

⑦その他　目からうろこ・・・
新聞にはだれも教えなかったアイデァ、ヒントがいっぱいだ。

⑶ 2020 年度の実績

①ヒューマンキャンパス高校全国「学習センターだより」コンクール講評
②東村高江小学校校内研修（学校通信・学級だより・保健だより）
③名護市大北小学校４学年研修（学年通信・学級だより）
④北部地区教育研修センター（北部地区小中校長・学級担任・養護教諭）

⑷ 事業評価（受講者アンケート、感想より）

①学級だより発行の工夫の研修会は初めてだ、編集発想が目からウロコだった
②身近かな新聞には、通信・たよりの編集のアイディア・ヒントがいっぱいだ
③保護者から、発行する学級だよりが大きな期待され、読まれる紙面にしたい
④写真の効果（貴重な場面写真、記録としての写真）で価値高い紙面を目指す
⑤感動いいアンテナで、児童生徒の良い面を発信し、相乗効果を図りたい
⑥学級内の好ましい信頼関係構築に学級だより発行は有効であることが分かった

北部教育研修センター 2020・6・15

新聞（新報・タイムス）から学ぶ
魅力ある紙面づくり

学校法人佐藤学園　広域通信制
ヒューマンキャンパス高等学校
（旧名護市三原小学校跡地　2014開校）
現在4000人全国に在籍：校長：仲地暁
本校スクーリング（3泊4日本校授業）

魅力ある学級通信・・

①気になる・早く読みたいなぁ
②読みやすい・分かりやすい
③旬な情報・貴重な写真ある
④共通理解・コミュニティづくり
⑤成長記録としてファイルされる
⑥任された学級経営の結果説明

なぜ、学級通信を発行する？その根拠は？

①学級通信発行義務は？
②学習指導要領総則・信頼関係
③信頼・児童理解・児童相互関係
④学級経営のアカウンタビリティ
⑤児童同士信頼関係・指導力向上

魅力ある学級通信 発行の留意点

①最終責任者は校長ですよ
②個人情報保護法・著作権法
③偏らない
④児童の良さ伝達し相乗効果を図る
⑤価値ある宝ものとしてファイリング

新聞（新報・タイムス）から学ぶ
魅力ある紙面づくり

①５Ｗ１Ｈ：読みやすい短文章
②タイトル 見出し：読みたくなる
③感動する・共感する話題
④時にはギャグで遊び心を
⑤写真：百行の文章より優る

目からウロコ ネタは足元にあった

・汝！足元を掘れ、そこに泉わく
・感度いいアンテナで響く感性
・子どもと共に成長する（記録）
・良い面を発掘伝達・見る目

「確かな学力を身に付け，主体的に学び合い高め合う生徒の育成」

～新聞を活用した授業実践を通して～

糸満市立糸満中学校
校長　伊井　秀治
教諭　新垣　孝子
與那嶺紀子

１　はじめに

本校は，平成２９年度よりＮＩＥ実践指定校として授業改善につなげる実践に取り組んでいる。今年度も，沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定実践校として，前年度同様，各教科でＮＩＥの手法や新聞を活用しながら授業改善に取り組み，その他にも「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）」や「海洋教育パイオニアスクール」の実践校として取り組んできた。

本校の校内研究の主題である『確かな学力を身に付け，主体的に学び合い高め合う生徒の育成』を目指した授業改善の中から新聞を活用したNIEの取り組みを紹介する。

NIE 教育に新聞を

NIE実践校 6校に認定書

糸満中、新規指定に

日本新聞協会の本年度NIE実践指定校に県内から6校がこのほど認定され、7日までに認定書が県NIE推進協議会（仲村守和会長）を通して交付された。

実践期間は2年。本年度からの新規指定校、2年目の継続指定校を合わせて全国で535校が実践指定校となっている。県内からは糸満中学校が新規指定校、石垣市立大浜小学校、浦添市立牧港小学校、石垣市立崎枝小中学校、具志川高校、ヒューマンキャンパス高校の5校が継続指定校となっている。

新規指定校・糸満中の伊井秀治校長は、仲村会長から認定書を受け取り「新聞を活用して主体的・対話的で深い学びにつなげたい」と話した。

新聞協会のNIE実践指定校は、協会と各新聞社が購読料を補助し、指定校は授業で新聞を活用する。

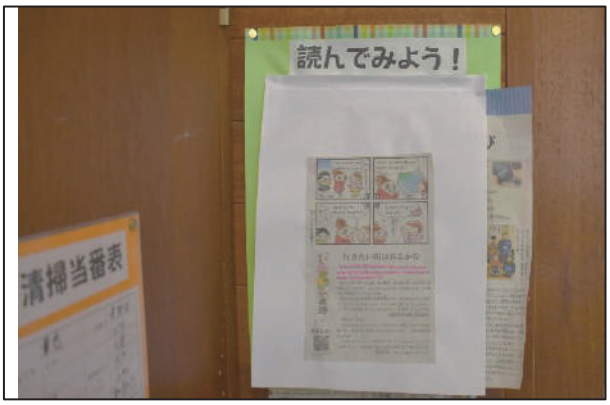
日本新聞協会NIE実践指定校の認定書を仲村守和県NIE推進協議会会長（右）から受け取る糸満中の伊井秀治校長（中央）、新垣孝子教諭＝8月28日、糸満市立糸満中学校

２　ＮＩＥコーナーの設置

県内外６社の新聞を各学年と図書室に新聞閲覧コーナーを設け，生徒が自由に新聞を閲覧できるようにした。また，６社の新聞を各学年に割り振ることで，多くの新聞に触れることができた。各学級でも新聞記事を掲示するスペースを作り工夫して取り組んだ。今年度もＳＤＧｓに関連するコーナーを設置し，新聞で紹介されるＳＤＧｓに関する記事を閲覧できるようにした。

【SGDsに関する記事のコーナー】

【新聞閲覧コーナー】



【学級での新聞コーナー】

【図書室の閲覧コーナー】

３　実践の内容

（１）新聞を活用した特設授業の実施

教科の特性に合わせ，ＮＩＥの手法や新聞の記事を活用した授業に取り組んだ。１月 20 日（水）に，ＮＩＥアドバイザーを招き，公開授業・授業研究会を行った。以下，実際に教科で取り組んだ実践事例を紹介する。

①学級活動　前田佐綾香 教諭
【中学３年　「スマホから考えるＳＤＧｓ」】

３年生の学級活動の授業で「ＳＤＧｓ」と「ＮＩＥの視点」を取り入れた授業を行った。スマホの原材料の供給地であるコンゴ民主共和国の「紛争鉱物」の問題に焦点を当て，「紛争鉱物」や「児童労働」の問題とスマホを使って便利な生活をしている私たちの関係について新聞記事から問題を深く理解し，自分たちにできることを考えた。（図１）

図１　授業の様子

②社会　小波津カヨ子 教諭
【中学２年「ＳＤＧｓ×ＮＩＥ～身近なＳＤＧｓを探そう」】

２学年の社会科の授業では，一人１部ずつ新聞を配布し，新聞記事から気になったニュースを探した。その選んだニュースが「ＳＤＧs」とどのように関わっているかを「ＳＤＧｓスタートブック」を活用しながら考えた。また，自分が選んだ記事とＳＤＧｓの関わりについて考え，グループで考えを交流した。（図２）

図２　授業の様子

③国語　前田佐綾香 教諭

【中学３年　「2020 年の世界を変えるために私から提案します」】

新聞記事を活用し，ＳＤＧｓの視点から現代社会に関する問題について考える授業を行った。複数の記事を読み現代の社会問題についてグループ活動をしながら把握し，解決策を考え作文にまとめた。

記事読み込み、解決策探る

糸満中、発表し意見交換

教育に新聞を

糸満市立糸満中学校（伊礼秀治校長）は2日、新聞記事を活用した3年生の国語の授業を実施した。複数の記事を読み、現在の社会問題を把握し、自ら解決策を考え、まとめの作文につなげていった。

「会員制交流サイト（SNS）」「障がい者差別」「性差別」「環境」「虐待」の五つのテーマで10グループをつくった。それぞれのテーマに沿った5本程度の記事を読み、現在の問題点や課題、その解決策について、それぞれが付せん紙に書き込んだ。その後、発表し合い意見を交換した。同じテーマを扱った他のグループからも意見を聞き、考えを深めた。

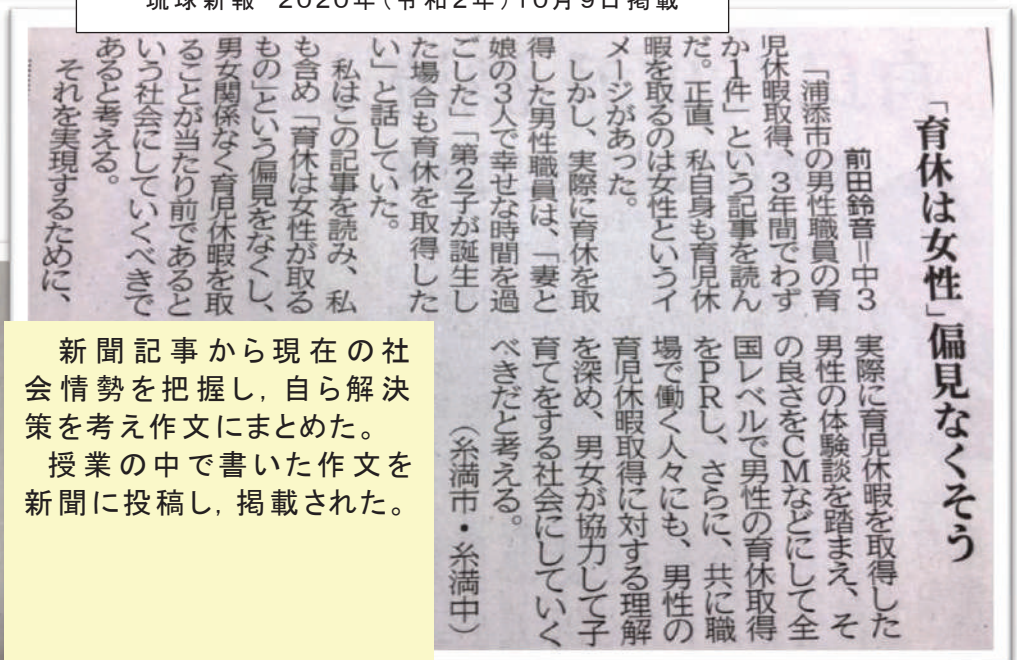
「SNS」に関しては、有名人へのネットでの誹謗中傷、学校でのいじめの統計、SNSで知り合った男性から監禁された事件の記事などについて思考を巡らせた。「よく考えて写真などをアップする」「誹謗中傷を厳しく取り締まる」「その投稿をしない」などの解決策を挙げていた。

SDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）のゴールと関連付けながら、次回の授業で自分の考えや解決策をまとめて作文を書く。

担当した前田佐綾香教諭は「さまざまな記事に触れ視野を広げてもらいたい」と話した。

新聞記事を基に、社会問題と解決策を話し合う生徒＝2日、糸満市立糸満中学校

琉球新報　2020年（令和2年）10月9日掲載



「育休は女性」偏見なくそう

前田鈴音＝中3

「浦添市の男性職員の育児休暇取得、3年間でわずか1件」という記事を読んだ。正直、私自身も育児休暇を取るのは女性というイメージがあった。

しかし、実際に育休を取得した男性職員は、「妻と娘の3人で幸せな時間を過ごした」「第2子が誕生した場合も育休を取得したい」と話していた。

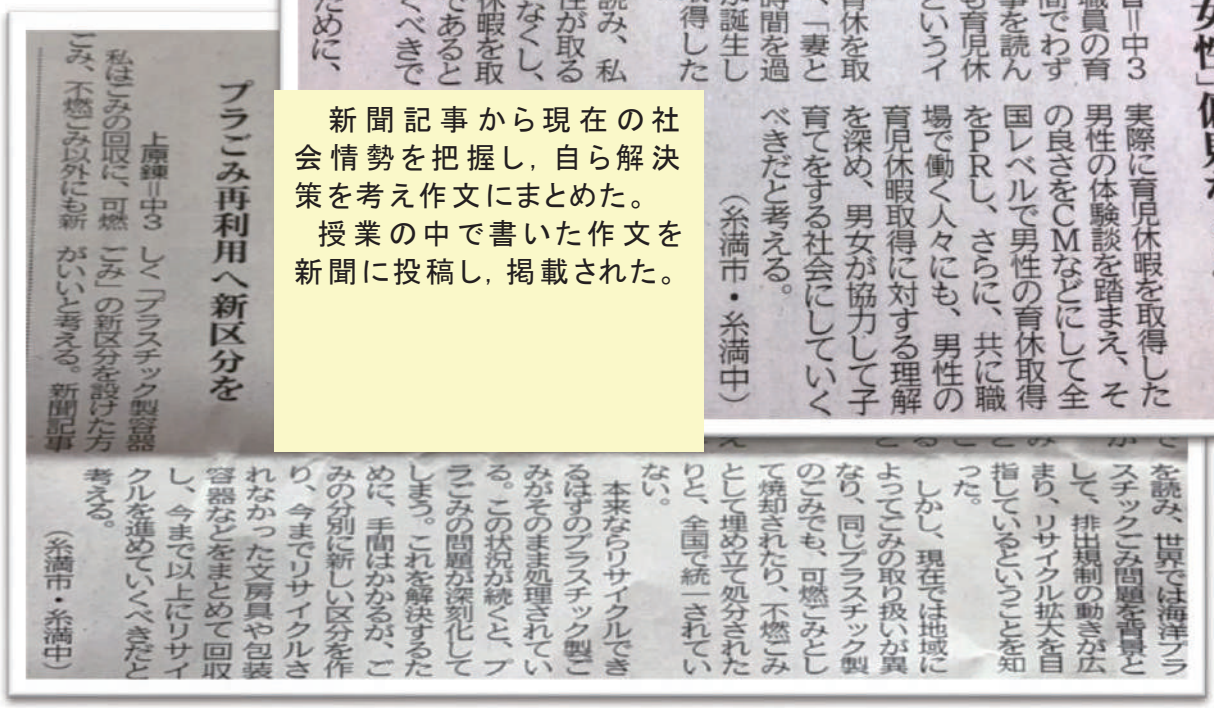
私はこの記事を読み、私も含め「育休は女性が取るもの」という偏見をなくし、男女関係なく育児休暇を取ることが当たり前であるという社会にしていくべきであると考える。

それを実現するために、実際に育児休暇を取得した男性の体験談を踏まえ、その良さをCMなどにして全国レベルで男性の育休取得をPRし、さらに、共に職場で働く人々にも、男性の育児休暇取得に対する理解を深め、男女が協力して子育てをする社会にしていくべきだと考える。

（糸満市・糸満中）

新聞記事から現在の社会情勢を把握し，自ら解決策を考え作文にまとめた。

授業の中で書いた作文を新聞に投稿し，掲載された。



プラごみ再利用へ新区分を

上原練＝中3

私はごみの回収に、可燃「ごみ」の新区分を設けた方がいいと考える。新聞記事を読み、世界では海洋プラスチックごみ問題を背景として、排出規制の動きが広まり、リサイクル拡大を目指しているということを知った。

しかし、現在では地域によってごみの取り扱いが異なり、同じプラスチック製のごみでも、可燃ごみとして焼却されたり、不燃ごみとして埋め立て処分されたりと、全国で統一されていない。

本来ならリサイクルできるはずのプラスチック製ごみがそのまま処理されている。この状況が続くと、プラごみの問題が深刻化してしまう。これを解決するために、手間はかかるが、ごみの分別に新しい区分を作り、今までリサイクルされなかった文房具や包装容器などをまとめて回収し、今まで以上にリサイクルを進めていくべきだと考える。

（糸満市・糸満中）

④英語　久山智恵子 教諭
【中学１年「英字新聞の活用」】

「英字新聞から東京ディズニーランドの新情報を読み取る」授業で，生徒は，ペアで英字新聞の Headline（見出し）と記事本文を読み，東京ディズニーランドの新しい料金について読み取った。単語や文法などの知識が多くない１年生が英字新聞を読み取ることは簡単なことではないが，辞書で単語の意味を調べたり，ペアで意味を推測したりしながら取り組んだ。（図３）

図３　授業の様子

⑤国語　神山千影 教諭
【中学１年「新聞を読み取り自分の考えを書く」】

世界の飢餓，人口集中，廃プラスチックなどについて書かれた５つの新聞記事のうち１つを各グループに配布し読み解いていった。記事本文及び図やグラフなどから情報を正確に読み取り自分の考えをワークシートにまとめた。（図４）

図４　授業の様子

⑥体育　伊佐常克 教諭
【中学２年「オリンピック開催について思いを伝える」】

新聞記事にある世論調査と本校で実施したアンケートを比較し，東京オリンピック・パラリンピックを安全に開催する方法や自分たちにできることを考えた。また，本校卒業生のカヌー選手，當銘孝仁選手への応援メッセージも書いた。（図５）

図５　授業の様子

⑦数学　辻由加里 教諭
【中学２年「鬼滅の刃」の興行収入を予想する】

「鬼滅の刃」の興行収入をグラフに表し予想するという授業では，「千と千尋の神隠し」「君の名は」の興行収入の記事（グラフ）を参考に，「鬼滅の刃」の興行収入の増加量（グラフの傾き）を求め，今年度の収入額を割り出した。（図６）

図６　授業の様子

糸満中でNIE実践授業研究会

おきなわNIE

主体的学びへ新聞活用

「鬼滅」取入 関数で計算

図表読み解き 考え文章に

国語 飢餓やプラごみ 課題も把握

数学 記事の数字で現実味

身近な題材 英字紙を和訳

英語 見出しに要点 辞書で確認

五輪開催の賛否 生徒意見

体育 校内と全国世論を比較

教科で異なるアプローチ

先生楽しめば授業も充実

沖縄タイムス　2021年（令和３年）1月24日掲

新聞で「深い学び」実践

糸満中でNIE授業研究会

おきなわNIE

2年体育「東京五輪開催」

「自分にできること」考える

アドバイザーのひとこと

体育での実践 画期的

多様な意見知る機会に

教師が楽しんで伝えて

2年数学「高速道路の料金収入予測」

社会で使える 生きた数字

アドバイザーのひとこと

「なぜ」を作る工夫随所に

1年英語「英字新聞の概要捉え、伝える」

関心高い話題を読み解く

アドバイザーのひとこと

コロナ禍こそ書く力を

1年国語「小学6年生に向け文章を書く」

世界を知り、考え伝える

琉球新報（りゅうPON）　2021年（令和３年）3月11日掲載

⑧道徳　前田　佐綾香 教諭

【中学３年「生命のバトン　東日本大震災から 10 年」】

中学校最後の道徳の授業を体育館で学年一斉に行った。東日本大震災から１０年となり，当時まだ幼く震災の記憶がほとんどない生徒たちは，新聞記事から当時の様子を知ることでより震災の悲惨さや生命の尊さについて考えることができた。資料は，「おもかげ復元師の震災絵日記」を使い授業をした。また，最後の道徳の授業ということで３学年職員全員での朗読もあり，生徒の感想には，生命の尊さについて深く考えられることができたという記述が多かった。（図

図７　授業の様子

「命をつなぐ」とは？

糸満中　大震災テーマに授業

【糸満】東日本大震災発生10年になるのに合わせ、糸満中学校で2月24日、「生命のバトン～生命のつながり～東日本大震災から考える」と題した3年生の道徳の授業が行われた。当時の映像や新聞紙面からどのような災害だったのかを知り、家族を亡くした人やボランティアの話から、命の尊さ、命をつなぐことは何かを考えた。生徒たちは「大切な人との一日一日を大事にしたい」などの意見を発表した。

東日本大震災を題材に、命の大切さや命をつなぐことについて考えた授業＝2月24日、糸満中学校

3年生にとって最後の道徳の授業となったこの日、体育館に全員集まって行われた。冒頭、10年前の震災を覚えているかと問われ、手を挙げたのはごくわずか。発生当時の動画や新聞紙面を見て、東北を中心に大きな被害を出したことはもちろん、全国各地に影響を及ぼしたことが説明された。

宮城県で妻と娘、義理の両親を失い、語り部として活動する佐々木清和さんや、遺族に対面させるために遺体をきれいにするボランティアをした納棺師の笹原留以子さんの話も紹介。笹原さんが書いた「おもかげ復元師の震災絵日記」を、9人の教員がリレーで朗読した。遺体と対面したときの遺族の様子などをつづった文章に、生徒達は聞き入った。

最後に、命をつなぐことは何か、自分や周りの人の命について考えたことを4クラスの代表が発表した。

津波古花咲さんは「命をつなぐとは、（亡くなった）その人を忘れないこと」と述べ、比嘉秀語さんは「大切な人はいついなくなるか分からない。感謝の気持ちを忘れないでいることが大切」とした。羽佐間裕斗さんは「一日一日を大切にしたい」と思いを語った。ピッツ・瑠菜・リーさんは「道徳で学んだことをこれからも大切にしたい」とまとめた。

訂正

8日付22面の「知念高、創作で最優秀」の記事で、県女子体育連盟の現会長は、又吉美奈子氏でした。おわびして訂正します。

７）

琉球新報　2021年（令和3年）3月11日掲載

（２）『はがき新聞』の活用

①社会科の授業や総合的な学習の時間の中で，調べたことや伝えたいことを『はがき新聞』にまとめ発表した。発表後は，学年フロアーに掲示し情報を発信した。

①慰霊の日を迎えて
身近な人から聞いたことや調べたことをまとめる。

②中部地方の産業
中部地方で盛んな産業について調べまとめる。

③東北地方の産業
東北地方で盛んな産業について調べまとめる。

②海人科（海洋教育）の授業では，海の環境問題について考える講演会やビーチクリーンを行い，海洋ごみによる汚染の現状を学んだ。調べたことや感じたことなどを『はがき新聞』にまとめた。発表後は，学年フロアーに掲示し情報を発信した。

浜でごみ問題考える

糸満中１年生、清掃活動

【糸満】海のごみ問題について考えようと、糸満中学校の1年生が10月27日、美々ビーチいとまんで清掃活動を実施した。市の教育課程特例校として取り組んでいる海洋教育授業の一環。ごみ袋を片手にビーチ周辺を回った生徒らはペットボトルや釣り用具、タイヤなどを次々に回収した。約2時間で車に積みきれないほどのごみが見つかり、その多さに驚いていた。

外国語が書かれたペットボトルを回収した島袋紗衣さんは「外国からもごみが流れてきていることが分かった。世界中でごみが海に捨てられているんだなと思った」と驚いていた。

回収したごみは学校に持ち帰り、分別した後、プラスチック製品などを使ってアート作品を作る予定だという。

また、ビーチクリーンに先駆け20日、海の環境問題を考える講演会が同校であった。沖縄水産高校海洋技術科船長コースの3年生と大嶺由紀教諭、新城裕太助教諭を講師に招き、海洋ごみによる汚染の現状を学んだ。

大嶺教諭は、日本が世界3位のプラスチック生産国であることや、海のごみの多くがプラスチックで、誤食した生き物が死ぬなど悪影響が広がっていることを説明。「どうすればごみを減らせるか、今日からできる工夫を考え行動に移そう」と呼び掛けた。

美々ビーチいとまん周辺でごみを拾った糸満中学校の１年生＝10月27日、糸満市西崎町

沖縄タイムス　2020 年（令和２年）11 月 19 日（木）掲載

（３）　平和学習で（りゅうＰＯＮ！）の活用

６月の道徳の授業では，全校一斉授業として，子ども新聞（りゅうＰＯＮ！）を活用した平和学習の授業を実施した。新聞記事の戦争体験を読み，そこから体験者の伝えたいメッセージを読み取り，自分自身が「語り継ぎ部」として発信していくことをねらいとした。（図８）

沖縄戦を学び伝える

糸満中3年 校内放送で発表

上原一路さん（15）

小学6年の時から糸満市の平和ガイド育成研修を受講している糸満中3年生。研修や学校の授業で学んだことを生かし、糸満市の平和学習会では、校内放送で沖縄戦について発表した。研修を通し「山里（糸満市の地名）など身近な場所の多くに戦跡があることに気づいた」という。将来は学芸員になるのが夢。「多くの人に平和の大切さを伝えたい」と話した。（糸満

悲惨な沖縄戦

生徒間で共有

糸満中で平和学習

【糸満】糸満中学校で6月22日、平和学習会があり、図書委員や生徒有志でつくる平和学習班のメンバーが、沖縄戦を題材にした絵本「オジイの海」の朗読と、平和学習発表を校内放送で行った＝写真。市の平和ガイド育成研修に参加した3年生の上原一路さん（15）ら11人が、沖縄戦の被害や県の取り組みについて発表した。

今年3月から調べ学習や資料作成に取り組んだ平和学習班。2年生の西蔵茉樹さん（13）は「沖縄戦で住民がどのような被害を受けたのかなど、まだまだ知らないことがたくさんあると気付けた」。伊敷ゆきのさん（14）は「基地問題や不発弾、戦争体験者の心の傷など、今もたくさんの影響が残っていると感じた」と話した。

伊平屋球技大会

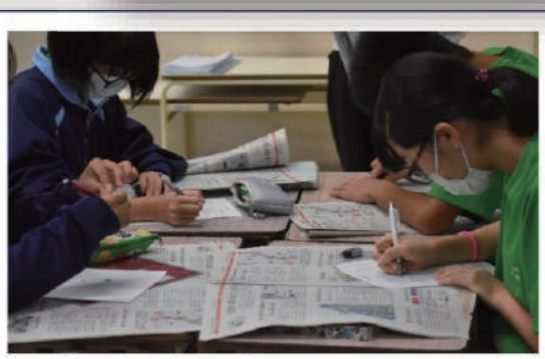


図８　授業の様子

沖縄タイムス　2020 年（令和２年）７月１２日（日）掲載

（４）　社会科新聞作成

授業や夏休みを活用して社会科新聞に取り組んだ。生徒は，新聞作成に必要な条件や見出しの決め方を学び，個人で決めたテーマをもとに限られた字数の中でどう伝えるかを工夫して作成していた。作品は，「中学校社会科新聞コンクール」に出展している。その結果，琉球新報社長賞１名，金賞 34 名，銀賞 47 名，銅賞 48 名と多数の生徒が入賞した。（図９）

なくそう差別

性はグラデーション

LGBT

多様性

当事者の声から

カミングアウト

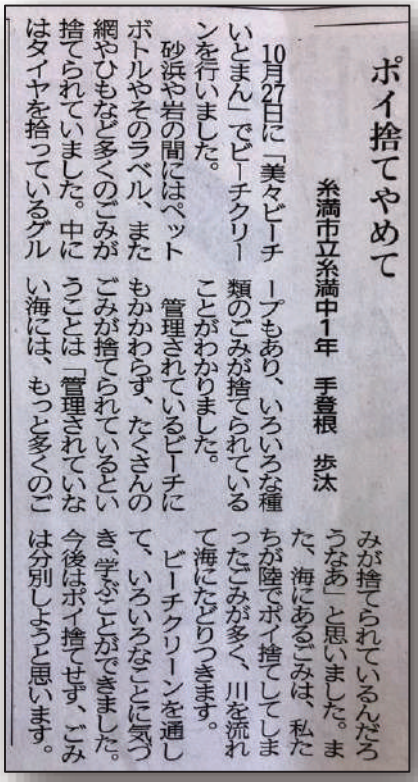
後記

世界と日本のLGBTの割合

図９　琉球新報社長賞作品

（５）　新聞投稿に挑戦

学習の感想や学期はじめの抱負など，新聞投稿に挑戦した。投稿のねらいは，自分の考えを持ち表現することである。生徒は限られた字数で自分の伝えたいことを相手にわかりやすく書くための工夫をしながら「書く力・表現する力」を高めた。今年度は，休校中に生徒自身が自ら投稿している記事もあり，新聞投稿が生徒の身近なものになってきている。



ポイ捨てやめて

糸満市立糸満中1年　手登根　歩汰

10月27日に「美々ビーチいとまん」でビーチクリーンを行いました。

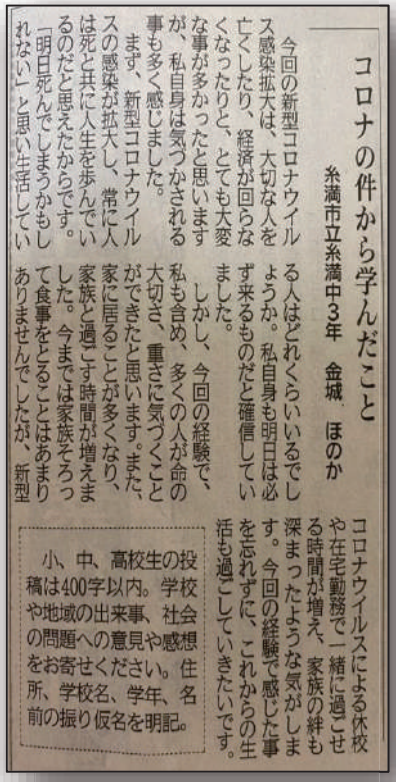
砂浜や岩の間にはペットボトルやそのラベル、また網やひもなど多くのごみが捨てられていました。中にはタイヤを捨っているグルみが捨てられているんだろうなあ」と思いました。また、海にあるごみは、私たちが陸でポイ捨てしてしまったごみが多く、川を流れて海にたどりつきます。

ビーチクリーンを通して、いろいろなことに気づき、学ぶことができました。今後はポイ捨てせず、ごみは分別しようと思います。

ープもあり、いろいろな種類のごみが捨てられていることがわかりました。

管理されているビーチにもかかわらず、たくさんのごみが捨てられているということは「管理されていない海には、もっと多くのご

琉球新報　2020年11月21日



コロナの件から学んだこと

糸満市立糸満中3年　金城　ほのか

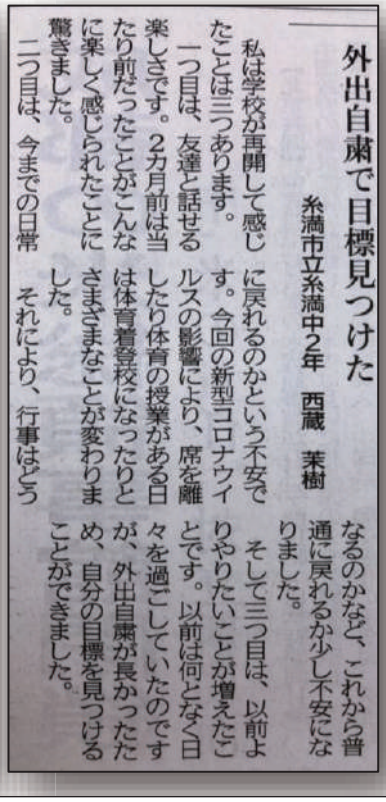
今回の新型コロナウイルス感染拡大は、大切な人を亡くしたり、経済が回らなくなったりと、とても大変な事が多かったと思いますが、私自身は気づかされる事も多く感じました。

まず、新型コロナウイルスの感染が拡大し、常に人は死と共に人生を歩んでいるのだと思えたからです。「明日死んでしまうかもしれない」と思い生活している人はどれくらいいるでしょうか。私自身も明日は必ず来るものだと確信していました。

しかし、今回の経験で、私も含め、多くの人が命の大切さ、重さに気づくことができたと思います。また、家に居ることが多くなり、家族と過ごす時間が増えました。今までは家族そろって食事をとることはあまりありませんでしたが、新型コロナウイルスによる休校や在宅勤務で一緒に過ごせる時間が増え、家族の絆も深まったような気がします。今回の経験で感じた事を忘れずに、これからの生活も過ごしていきたいです。

小、中、高校生の投稿は400字以内。学校や地域の出来事、社会の問題への意見や感想をお寄せください。住所、学校名、学年、名前の振り仮名を明記。

琉球新報　2020年6月5日



外出自粛で目標見つけた

糸満市立糸満中2年　西蔵　茉樹

私は学校が再開して感じたことは三つあります。

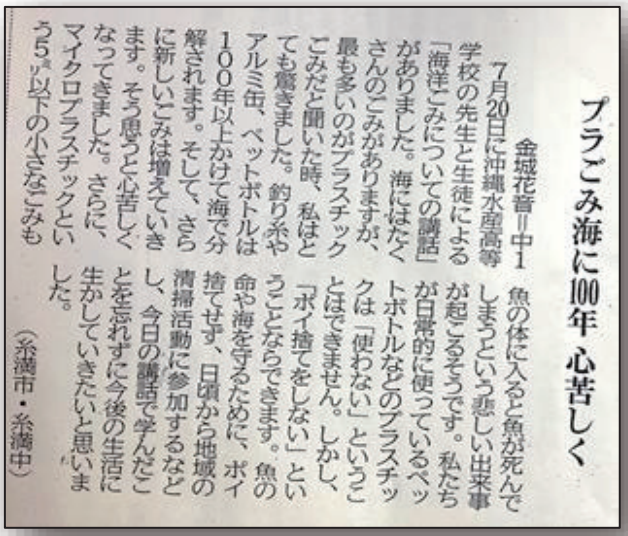
一つ目は、友達と話せる楽しさです。2カ月前は当たり前だったことがこんなに楽しく感じられたことに驚きました。

二つ目は、今までの日常に戻れるのかという不安です。今回の新型コロナウイルスの影響により、席を離したり体育の授業がある日は体育着登校になったりとさまざまなことが変わりました。

それにより、行事はどうなるのかなど、これから普通に戻れるか少し不安になりました。

そして三つ目は、以前よりやりたいことが増えたことです。以前は何となく日々を過ごしていたのですが、外出自粛が長かったため、自分の目標を見つけることができました。

琉球新報　2020年7月28



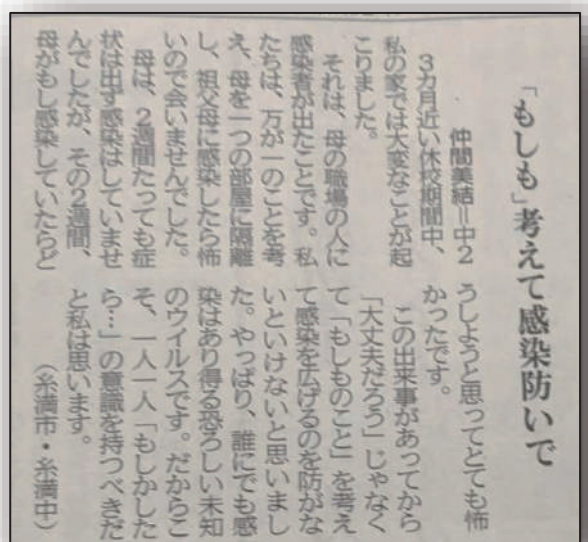
プラごみ海に100年　心苦しく

金城花音＝中1

7月20日に沖縄水産高等学校の先生と生徒による「海洋ごみについての講話」がありました。海にはたくさんのごみがありますが、最も多いのがプラスチックごみだと聞いた時、私はとても驚きました。釣り糸やアルミ缶、ペットボトルは100年以上かけて海で分解されます。そして、さらに新しいごみは増えていきます。そう思うと心苦しくなってきました。さらに、マイクロプラスチックという5㎜以下の小さなごみも魚の体に入ると魚が死んでしまうという悲しい出来事が起こるそうです。私たちが日常的に使っているペットボトルなどのプラスチックは「使わない」ということはできません。しかし、「ポイ捨てをしない」ということならできます。魚の命や海を守るために、ポイ捨てせず、日頃から地域の清掃活動に参加するなどし、今日の講話で学んだことを忘れずに今後の生活に生かしていきたいと思います。

（糸満市・糸満中）

沖縄タイムス　2020年11月2日



「もしも」考えて感染防いで

仲間美結＝中2

3カ月近い休校期間中、私の家では大変なことが起こりました。

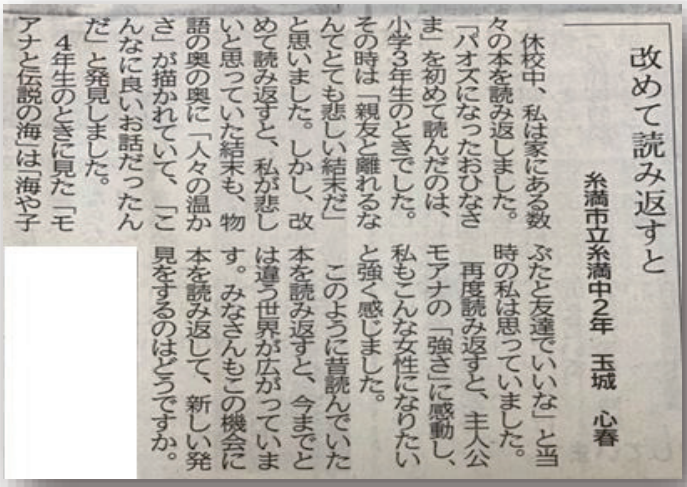
それは、母の職場の人に感染者が出たことです。私たちは、万が一のことを考え、母を一つの部屋に隔離し、祖父母に感染したら怖いので会いませんでした。

母は、2週間たっても症状は出ず感染はしていませんでしたが、その2週間、母がもし感染していたらどうしようと思ってとても怖かったです。

この出来事があってから「大丈夫だろう」じゃなくて「もしものこと」を考えて感染を広げるのを防がないといけないと思いました。やっぱり、誰にでも感染はあり得る恐ろしい未知のウイルスです。だからこそ、一人一人「もしかしたら…」の意識を持つべきだと私は思います。

（糸満市・糸満中）

沖縄タイムス　2020年8月9日



改めて読み返すと

糸満市立糸満中2年　玉城　心春

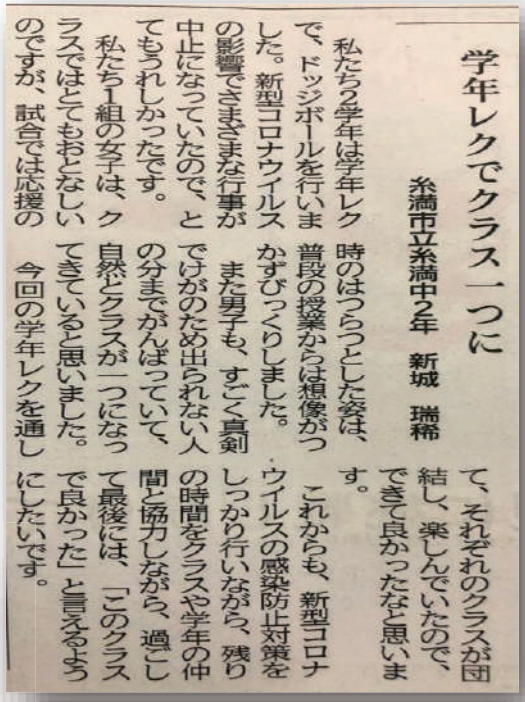
休校中、私は家にある数々の本を読み返しました。「パオズになったおひなさま」を初めて読んだのは、小学3年生のときでした。その時は「親友と離れるなんてとても悲しい結末だ」と思いました。しかし、改めて読み返すと、私が悲しいと思っていた結末も、物語の奥の奥に「人々の温かさ」が描かれていて、「こんなに良いお話だったんだ」と発見しました。

4年生のときに見た「モアナと伝説の海」は「海や子ぶたと友達でいいな」と当時の私は思っていました。

再度読み返すと、主人公モアナの「強さ」に感動し、私もこんな女性になりたいと強く感じました。

このように昔読んでいた本を読み返すと、今までとは違う世界が広がっています。みなさんもこの機会に本を読み返して、新しい発見をするのはどうですか。

琉球新報　2020年4月27日



学年レクでクラス一つに

糸満市立糸満中2年　新城　瑞稀

私たち2学年は学年レクで、ドッジボールを行いました。新型コロナウイルスの影響でさまざまな行事が中止になっていたので、とてもうれしかったです。

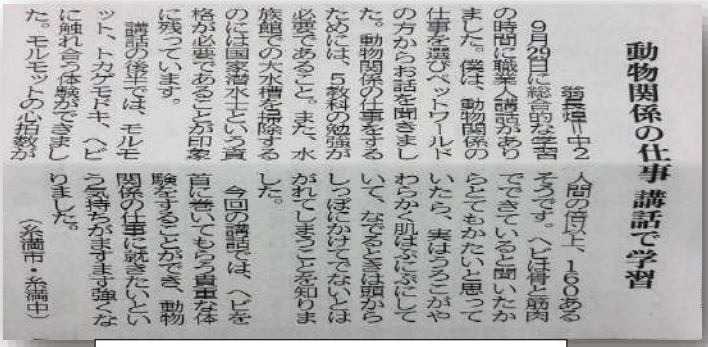
私たち1組の女子は、クラスではとてもおとなしいのですが、試合では応援の時のはつらつとした姿は、普段の授業からは想像がつかずびっくりしました。

また男子も、すごく真剣でけがのため出られない人の分までがんばっていて、自然とクラスが一つになってきていると思いました。

今回の学年レクを通して、それぞれのクラスが団結し、楽しんでいたので、できて良かったなと思います。

これからも、新型コロナウイルスの感染防止対策をしっかり行いながら、残りの時間をクラスや学年の仲間と協力しながら、過ごして最後には、「このクラスで良かった」と言えるようにしたいです。

琉球新報　2020年11月18日



動物関係の仕事 講話で学習

糸満市・中2

9月29日に総合的な学習の時間に職業人講話がありました。僕は、動物関係の仕事を選びペットワールドの方からお話を聞きました。動物関係の仕事をするためには、5教科の勉強が必要であること。また、水族館での大水槽を掃除するのには国家潜水士という資格が必要であることが印象に残っています。

講話の後半では、モルモット、トカゲモドキ、ヘビに触れ合う体験ができました。モルモットの心拍数が人間の倍以上、160あるそうです。ヘビは骨と筋肉でできていると聞いたからとてもかたいと思っていたら、実はうろこがやわらかく肌はざらざらしていて、なでるときは頭からしっぽにかけてでないとはがれてしまうことを知りました。

今回の講話では、ヘビを首に巻いてもらう貴重な体験をすることができ、動物関係の仕事に就きたいという気持ちがますます強くなりました。

（糸満市・糸満中）

沖縄タイムス　2020年12月1日

4．成果・課題

【成果】

・各学年フロアー，図書室に新聞の閲覧コーナーを設置したことで，生徒が日常的に新聞に触れることができた。

・公開授業研究会に向けて，全職員で授業づくりをし，新聞を活用した教材の開発ができた。

・生徒自身が休校中に家庭から新聞投稿をするなど，新聞が生徒の身近なものになってきている。

【課題】

・特設授業が多いので，各教科等の年間指導計画に位置付けることで，見通しをもって授業に取り入れることが必要である。

・ＮＩＥに関する校内研修を計画し，職員全体で授業づくりについて更に深めていく必要がある。

沖縄県中学校文化祭で紹介した展示

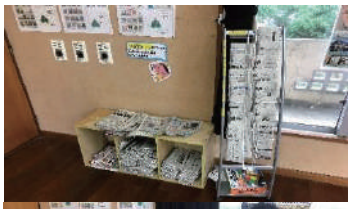
令和２年度　与那国小学校　NIE 実践報告書

与那国町立与那国小学校
教諭　知念　誠

１　はじめに

本校は，昨年度より沖縄県 NIE 推進協議会指定実践校として NIE の実践に取り組んでいる。前年度は，５学年を中心に実践に取り組みを行ってきたが，今年度は，昨年度の実践を活かし他学年でも NIE の実践にチャレンジして取り組んだ。試行錯誤しながらの取り組みではあったが，新聞に触れ，親しむことを重視し，各教科と関連させた新聞を授業の中で活用するように心がけた。また，昨年度同様に NIE 関連のコンクールに応募し意欲を高めるように努めた。

【図書室の NIE コーナ】



２　本校での取り組み

・沖縄タイムス，琉球新報，八重山毎日新聞の３紙を活用
・図書室に NIE コーナーの設置，掲示板の活用
・教科と関連させた新聞の作成【３年・５年・６年】
・新聞関連コンクールへの応募【５年・６年】
・新聞を活用した授業の実施【１年・６年】
・読売新聞ワークシート通信の活用【１年・６年】

３　実践事例

（１）NIE コーナーの設置＆掲示板の活用

全児童が新聞に触れ NIE に関われることができるよう，図書室に新聞コーナーを設置。また，図書委員会が図書室の掲示板を季節ごとに新聞を活用した掲示を行うことで、全学年が掲示板の新聞に興味をもって読んでいた。

【１２月　新聞ツリー】

【２月　節分＆バレンタイン】

（２）教科と関連させた新聞の作成

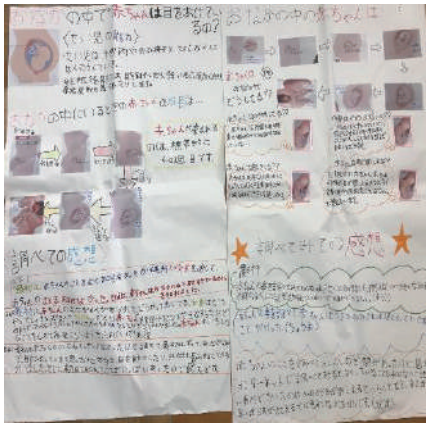
①３学年・５学年の取り組み

３学年は社会科「わたしたちの町の歩み」の学習で，自分達の住む地域の学習を行い，実際に地域の資料館を見学して新聞を作成した。５学年は社会科「水産業のさかんな地域」について学習した後，校外学習で与那国町の漁協を見学して北海道の漁業と与那国町の漁業の違いを新聞にまとめ作成した。新聞作りの際は，学年の実態に応じて「５W1H」「題名」「見出し」「リード文」などを意識させて新聞作りを行った。

理科の学習でも，学習のまとめとしてグループで新聞作成を行った。

【３年生】

【５年生】



【理科の学習】

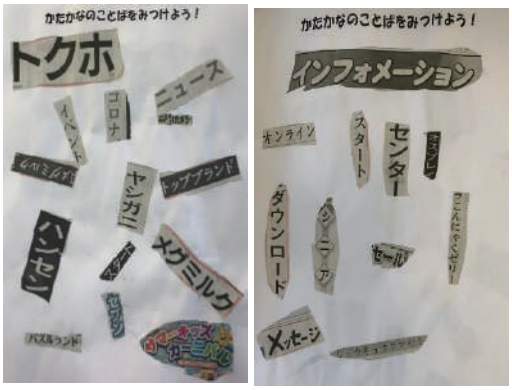
③６学年の取り組み

新聞を「読む」ことから「作る」ことへもつなげていった。社会科の学習のまとめや夏休みの自由研究等を新聞にまとめる活動を行った。６年生は，昨年度から新聞にまとめる活動を行っており，見出しの工夫の必要性や，記事の内容のわかりやすさ，誰もが楽しんで読めることを意識させた。コンクールは，５・６年生全員で取り組み昨年度以上に賞を受賞する児童が多く，意欲を高めることができた。

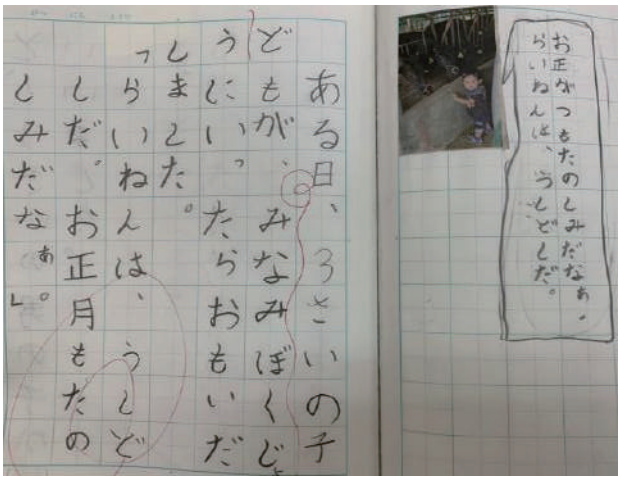
（３）新聞を活用した授業の実施

①１学年の取り組み

国語の授業で新聞を活用し，カタカナ探し集めで語彙を広げることができた。また，「きこえてきたよ、こんなことば」の学習では，新聞の気になる写真を選んで，写真から聞こえてきた言葉を吹き出しに書いてお話を作った。お話を作る際は，「いつ」「どこで」「誰が」「何を」しているかを意識させ授業を行った。



【カタカナ探し集め】



【新聞写真を使ったお話づくり】

②６学年の取り組み

コロナ禍で落ち込んだ地域経済を活性化しようと、各市町村で販売してい「プレミアム商品券」のプレミアム率に注目させ算数で「割合」の授業を行った。プレミアム率が１０～１００％が並ぶ中，地元与那国町だけ「９００％」との表示にびっくりの児童でした。授業展開では，他の市町村のプレミアム率と比較しながら学習することができました。地元の身近な話題を教材に活用することで，子ども達も楽しみながら授業に参加することができた。また，八重山毎日新聞の取材を受け，NIE の良さを伝えることができた。取材に来た記者さんにも質問し，記事の書き方や文章を短くまとめる方法等を学ぶことができた。

新聞紙面作成

教育現場に新聞を ③

NIE実践指定校の取り組み

与那国小学校

算数の授業に応用

プレミアム率で「割合」学ぶ

与那国小学校（宝川晋校長、児童74人）の6年1組教室にどよめきが広がった。児童が手にしたのは沖縄タイムス8月29日付の、沖縄県内各市町村のプレミアム商品券に関する記事。プレミアム率10～100%の数字が並ぶ中、地元だけは「900%」。「飛び抜けた率、900%!?」。8日、数字に目がくぎ付けだ。

担任の知念麗教諭が、算数の「割合」の単元の復習と応用という位置づけで行った。拡大印刷したプレミアム率比較表を黒板に貼り、問いかける。「プレミアム率90%ってどんな意味？」。

冨澤弘希君（12）は「最初は900%と聞いて驚き、隣の席の人との話し合いを通して、自分の考えを言語化。プレミアム率は、購入した時に出てくる、割合=うーん…なんと言ったらいいんだろう」。

次に「金武町のプレミアム率が10%、2000円だったらいくら上乗せされる？」「30%なら？」などと、他の市町村のプレミアム率を使って実際に計算してみることで、理解を深めていく。

冨澤弘希君（12）は「最初は900%と聞いて驚いた。与那国だけ飛び抜けている。計算してみると、100%を超えたら上乗せする金額が元の数より大きくなるとおもしろい」と楽しそうだ。

与那国小は2019年度に沖縄県NIE推進協議会の独自指定校となり今年度で3年目。知念教諭が前任校時代からNIEに力を入れており、このほかにもさまざまな手法で新聞を活用している。「情報の読み取り方はいろいろな学習につながる。地元紙を使うことで身近な話題、児童同士や教師と児童の間でも会話も増える」と利点を話した。

（前木保吉記者）

僕が読むのは紙じゃない 世界だ

プレミアム商品券に関する沖縄タイムスの記事について級友と話し合う与那国小学校6年1組の児童ら＝8日午後、同校

【１０／１７　八重山毎日新聞掲載】

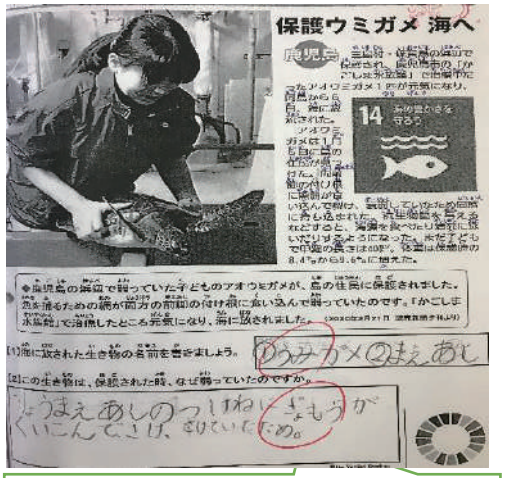
（４）読売新聞ワークシート通信

６年生は，昨年度に引き続き週末の家庭学習として読売新聞ワークシート通信を活用した。最新のニュースが多く扱われていて，児童も意欲的に取り組んだ。ワークシートの解答は，全体で意見交流を交えて行い，いろんな視点で考え深めることができた。１年生は，親子で宿題として取り組み，楽しんで学ぶことができた。

【６年生】

気になるニュースが多く扱われて、児童も意欲的に取り組んだ。

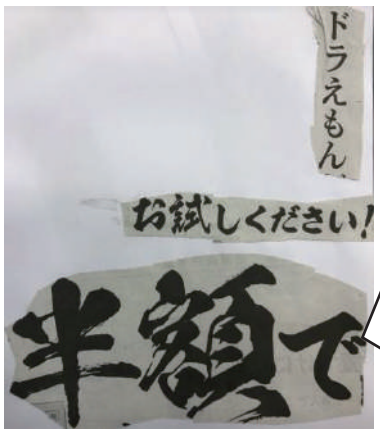
【１年生】



語句の意味調べをしたり，読めない漢字に読み仮名を書いたりして学習している児童もいた。

（５）コラージュ川柳

新聞から７文字・５文字の言葉を切り抜き組み合わせ「５・７・５」の川柳を作って発表した。言葉を探しながら記事を読んで，楽しく活動することができた。また，学級で賞を決めることで意欲的になりたくさんの作品を仕上げることができた。



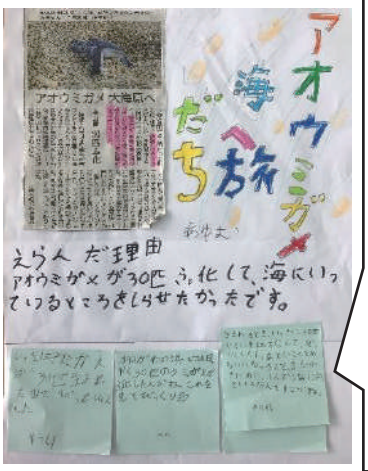
ドラえもん
お試しください
半額で

【学級での金賞作品】

（５）新聞スクラップ

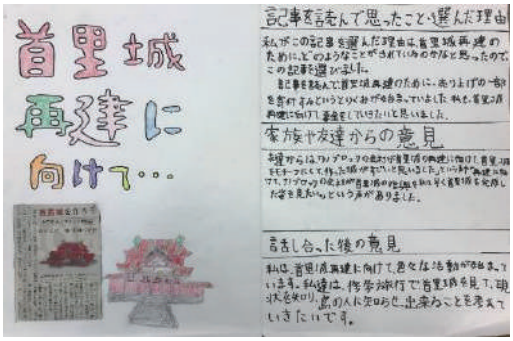
興味をもった新聞の記事や写真をスクラップし，ワークシートに貼って記事を選んだ理由や感想，友達との意見を交流して自分の考えを深めることができました。学年の実態に応じて実践することができた。高学年では，数多くの情報の中から自分に必要なものだけを選ぶ取る力がつき，自分のなりの思いや考えをもつようになった。

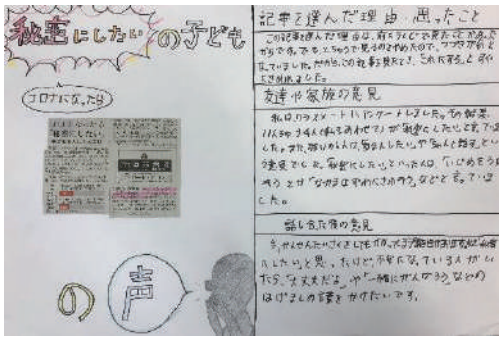
【１年生の実践】



【３年生の実践】

一年生、三年生は付箋紙を活用して意見を交流し自分の考えを深めた。





【６年生の実践】

３　成果と課題

（１）成果

①日常的に新聞に触れることで，日常会話の中にニュースの話題がでるようになり，子ども達に社会性が身についた。

②記事に対して問題意識を持つようになり，多角的な視点から自分なりの答えをもつようになった。

③NIE 関連のコンクールにおいて多くの賞を受賞したことで意欲向上にも繋がった。

（２）課題

①NIE 活動をさらに学校全体へ広げていく方法。また，保護者，地域への広げ方。

②日々の授業や教材科に向けて，効果的に NIE を取り入れるための工夫。

③職員の異動により，実践者が変わるので，学校内での今後の継続方法。

令和２年度　NIE 実践報告書

名護市立久辺小学校
教諭　大城　英樹

１　はじめに

本校は、平成２８年度より校内研修と関連付けて NIE 活動を実践してきた。今年度の校内研修の主題は「自分の考えをもち、表現する児童の育成」サブテーマ、「書く力」を高める指導の工夫改善を通してである。研修主題に迫るために、今年度は特に新聞を通して新たな知識を深めるだけではなく、記事に対して自分の考えをもち、その考えを発信することで「書く力」の向上を目指してきた。今年度の国語科を中心に各教科で取り組んだ実践を紹介する。

２　本校での取り組み

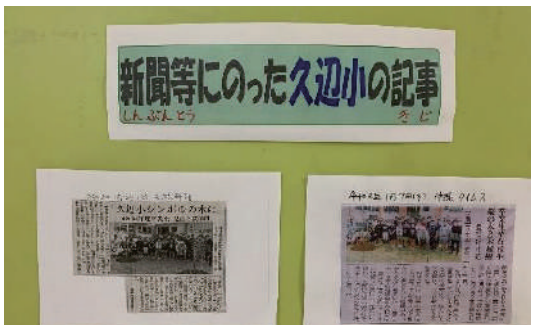
・高学年で「琉球新報」「沖縄タイムス」、中学年で「朝日小学生新聞」、低学年で「ワラビー」を活用。
・新聞と関連するコンクールへの応募や児童作文などを県紙へ投稿。
・NIE タイムを設け、新聞に親しむ活動を行う。
・授業と関連付けた取り組み。

３　新聞にふれる環境づくり

・校長先生手作りの新聞棚を図書館に設置した。県内２社の新聞を月毎に整理し、いつでも必要な新聞を探し出せるようにした。
・新聞を通して児童が地域とのつながりを感じることができるように、校長先生が児童玄関付近に、地域に関する記事を掲示した。
・NIE 推進協議会から頂いた「しんぶん台ちゃん」を図書館に設置。
・児童作成新聞を廊下に掲示。

校長先生の手作りの新聞棚

廊下に掲示された地域の記事



廊下に掲示された学校の記事

「しんぶん台ちゃん」で新聞を読む児童

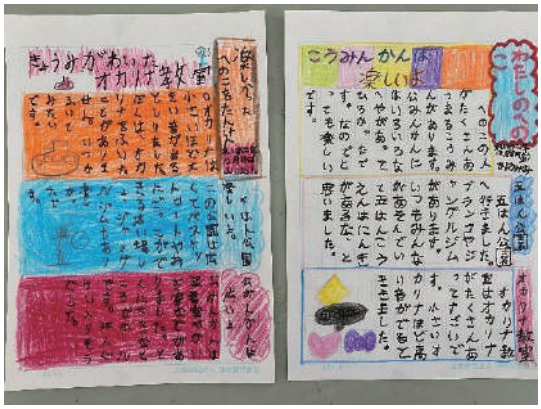
4　実践事例

（１）低学年の取り組み

①はがき新聞

生活科「町たんけん」

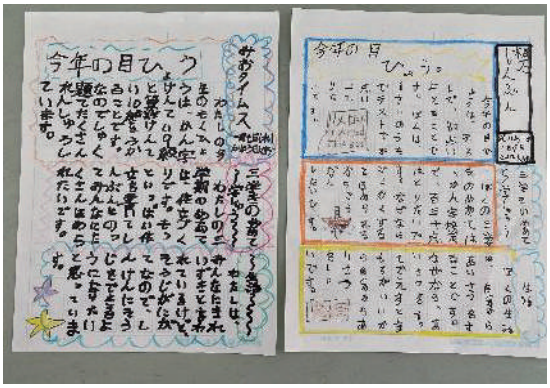
２年生活科の授業において、はがき新聞製作に取り組んだ。自分の住んでいる町を探検し、新しいことを発見したり、実際に働く人々から話を聞き、内容を絞って新聞にまとめた。初めのうちは、少ない文字数の中でまとめることに苦戦していた児童だが、回数を重ねていくうちに伝えたいことだけをピックアップできるようになった。



生活科「町たんけん新聞」

学級活動「新年の目標」

三学期の始め、新年の目標を立てる活動としてはがき新聞に取り組んだ。今年の目標を立てることで、３年生に向けての意識づけをさせるねらいである。学習面や生活面の観点で、頑張りたいことを考えさせることで、具体的に活動ができるようにした。主体的に活動にむかい、ひとつの作品として作り上げることができた。



新年の目標「はがき新聞」

②　新聞投稿

１年生は入学当初、文章を書くことに苦手意識のある児童が多かった。しかし、身近にいる高学年の作文が新聞に掲載されたことで興味をもち、徐々に新聞に親しむようになってきた。

国語の学習で作文を書く機会があり、それを新聞に投稿したいと意欲的に取り組んでいた。掲載される事で達成感を味わい、次への意欲にもつながっていった。また、掲載された記事については、全児童が通る廊下の一角に掲示されていたことで、他学年の書いた文章を読んだり、感想を共有したりするなど、自然と交流が生まれ次なる意欲へと発展した。

廊下に掲示された児童の投稿記事

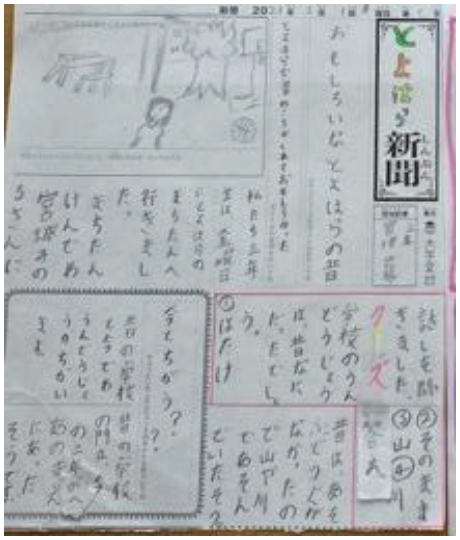
はがき新聞は教室の側面掲示

（２）中学年の取り組み

①　はがき新聞

総合「まちたんけん新聞の作成」

３年生の総合的な学習の時間では、地域に目を向け「まちたんけん」を実施している。地域について調べたことまとめるために、はがき新聞を活用した。３年生は新聞を書くという経験があまりない。実施にあたってまず始めに、はがき新聞について、高知新聞社 NIE 推進室による「作ろう！はがき新聞」の資料を活用して理解させた。資料にある「夏の目標新聞」を視写し、その後、自分の『夏の目標新聞』を書かせることで、紙面構成や文章の書き方を掴むことができていた。モデルを視写し、書く活動は有効的であったと考える。学んだことを「まちたんけん新聞」にまとめる際には、進んでまとめていた。しかし、見出しに「何をかけばいいのか」思い浮かばない児童も多く見られたため、「一番伝えたいことを短く書くこと」を意識させる必要性を感じた。



まちたんけんはがき新聞

②新聞づくり（教科・総合）

４年国語科「新聞を作ろう」の学習では、総合的な学習と関連させ「食」について調べて分かったことをグループ新聞にまとめた。

新聞に載せる記事を選び、割り付けを考え、見出しをたて、記事を書いていった。また、読む人にわかりやすくつたえるために、グループごとにインタビューをしたり、アンケートなどをとったり、写真やイラストなどを入れるなどの工夫を行った。各グループの新聞を見比べることでお互いの良さを見つけ、新聞づくりの楽しさを味わっていた。そして、そこで学んだことを活かし、様々な場面で、調べて分かったことなどを個人の新聞にまとめることができた。

新聞づくり（食について）

福祉体験新聞

③NIE タイム（毎週木曜日）

NIE タイムでは、各クラスに配布される子ども新聞　を個人で読み、その中から気になる記事（最新情報・面白い・気になる・伝えたいなど）を見つけ、友達と情報交換し交流する活動を行った。選んだ記事は掲示し、他の人の選んだ記事も読みあうようにした。初めはほとんどの児童が好きな記事しか読まなかったが、いろいろな話題に触れることで、読むことの幅を広げ、自分の考えを持ち、友達の考えを知る機会となった。

交流する様子

記事を切り取き、
感想を書く

（３）高学年の取り組み

①教科との関連（国語）

国語の学習『「町じまん」をすいせんしよう』では、名護市のよさを互いに推薦し合った。そのよさをさらに名護市以外の方々へ発信しようということで、新聞づくりを行った。「新聞で地域の魅力を伝える。」という目的意識をもつことで、児童は意欲的に取り組んでいた。実際に、現地に行ってインタビューや写真を撮ってくるなど自主的に取り組み、地域のよさを実感し、地域に対してさらに理解を深めたようである。作成した新聞が「琉球新報主催学校新聞コンクール」において、沖縄県学びをつくる研究会会長、金賞、銀賞を受賞することができ、NIE 活動に関する意欲が更に高まった。また、新聞づくりを行う４年生へ新聞づくりを伝える活動では、自分たちの工夫や作成する際のポイントなどを紹介することで、自信をもつことができたようである。

町じまん新聞

４年生と交流の様子

②　教科との関連（社会）

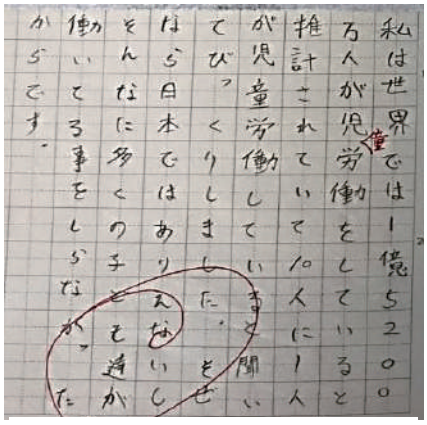
NIE タイムに読売ワークシート通信を活用した。社会科の授業と関連したワークシートを活用することで、今、社会で何がおきているのか学習内容と関連付けながら知識を深めることができた。最新の情報や社会の様子を知ることで、授業での学びと生活を関連づけることができ授業に対する意欲も高まったようである。

読売ワークシート通信

③　NIE タイムでの取り組み

毎週木曜日の NIE タイムでは、県紙から各自好きな記事を選び、大切なところや自分が興味をもったことなどに線を引く活動を行った。翌日の朝の時間にその記事を要約し、記事に対する自分の考えを書く活動を設定した。年間を通して取り組むことで、記事を要約するだけではなく、記事を通して考えた自分の考えを書くことができるようになった。自分で記事を選ぶことで、興味・関心を高めるだけではなく、自分の考えをもちやすいと感じた。

児童の NIE ノート



私は世界では1億5200万人が児童労働をしていると推計されていて10人に1人が児童労働していると聞いてびっくりしました。そしてはら日本ではあり得ないしそんなに多くの子どもを通かせないで働いてる事をしらなかったからです。

NIE ノートの感想より

記事を選び切り取る様子

5　成果と課題

（１）　成果

・はがき新聞づくりから、新聞づくりへ段階的に取り組ませることで、児童が負担に感じることが少なくなり、意欲的に取り組むようになった。
・NIE と関連づけた書く活動により、児童が自分の考えを表現できるようになった。
・新聞記事の時数の多さから読むことに抵抗感あった児童が、継続した取り組むことで、興味のある記事以外にも目を向けるようになった。
・継続して取り組むことで、活字に慣れ、長文も読めるようになってきた。
・NIE 活動を取り入れることにより、児童間の交流が盛んになった。

（２）　課題

・校内目標を定め、定期的に情報を共有する時間を設けたい。
・NIE について学ぶ研修を行い、全教師が共通理解を図りながら進める必要がある。
　（発達段階に応じて、段階的に NIE 活動を実施したい。）
・教師主導の活動から、子ども達が主体となった活動へと導くための指導の工夫・改善。
・児童の実態把握をもとにした指導計画の工夫・改善。

令和2年度 緑風学園 NIE 実践報告

テーマ「思いや考えを伝え合う子どもの育成～NIEの日常化を通して～」

1．はじめに

小中一貫校である緑風学園は、これまで1～9学年で日常的なNIEの積極的な実践を進めてきた。取り組みとしては、親子でつながる新聞スクラップノート、低学年では新聞遊びや新聞読み聞かせ等を通して新聞に親しむこと、高学年・中学部では新聞を活用することを通して伝え合う力を高めるNIEフリートークなど「思いや考えを伝え合う力」の育成を図ってきた。

2．NIE を通してつけたい力

児童生徒の実態から設定した育てたい3つの力

① 自分の思いや考えを伝え合う力　　（思考力・判断力・表現力）

② 自分の思いや考えを書きまとめる力　（書く力）

③ 社会の出来事に関心を持ち、調べる力（つながる力）

3．「NIEの日常化」における取りくみ

・今回はコロナ禍にあって実施できなかったが、これまでは保護者に NIE について知ってもらうために、4 月の授業参観日などに NIE の説明資料を配付した。

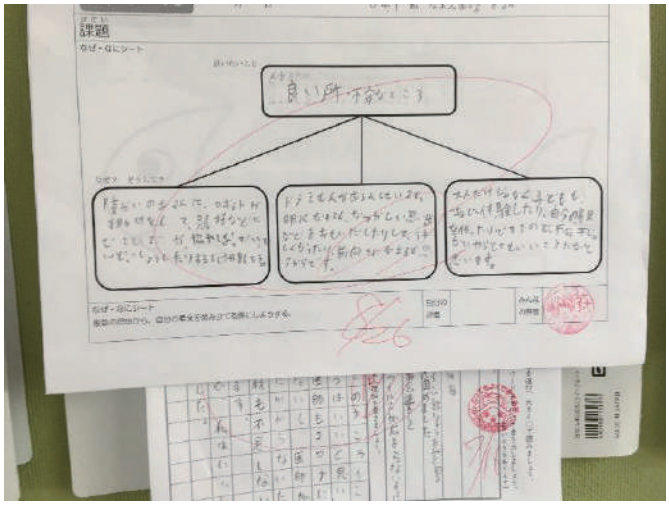
・新聞購読の年間計画を立てる際にはどの月にも新聞に触れられるようにした。また、学習や行事との関連性も意識し、重点的に多くの新聞を注文する月を設定した。

・NIE コーナーを設定し、新聞活動の足跡を見る場、親しむ場をつくった。

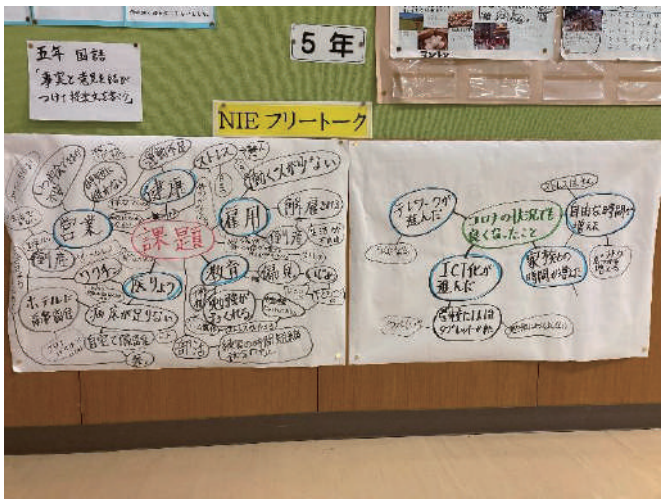
・朝の NIE タイムには、学年の発達段階に応じて新聞を活用した実践を行った。

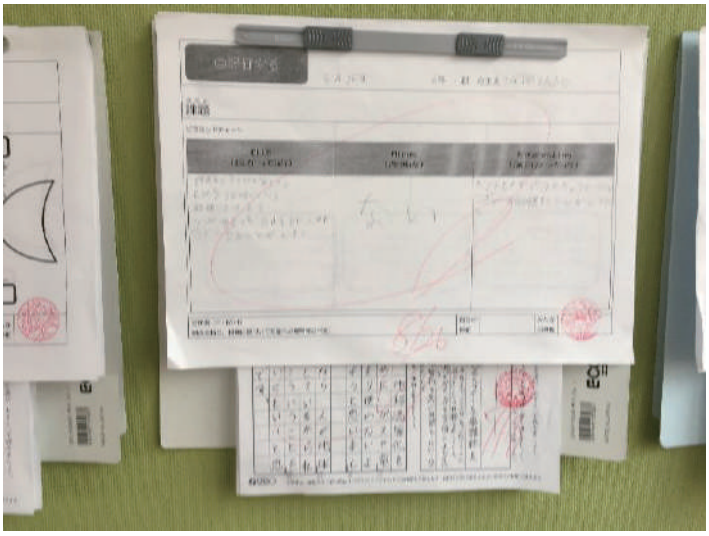
4．具体的実践

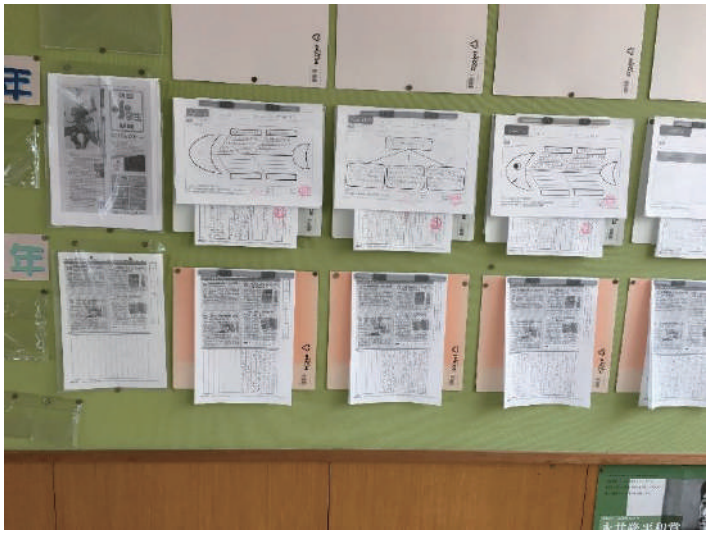
NIE コーナー

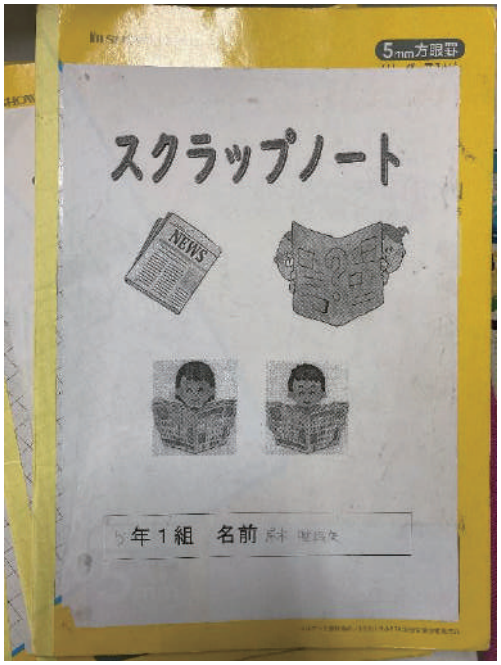


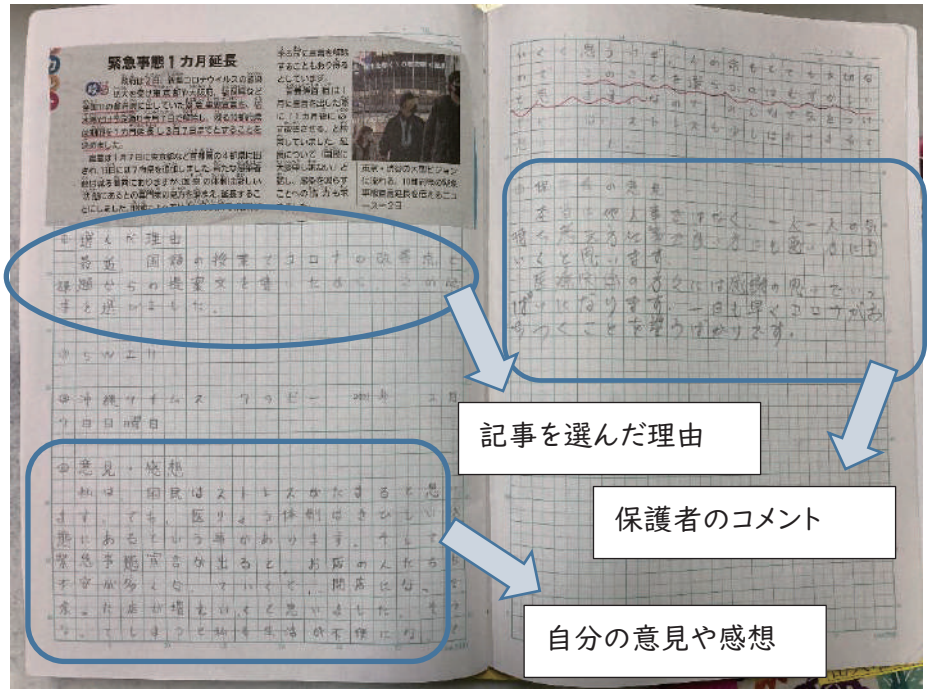
フリートークに活用した思考ツール等の掲示









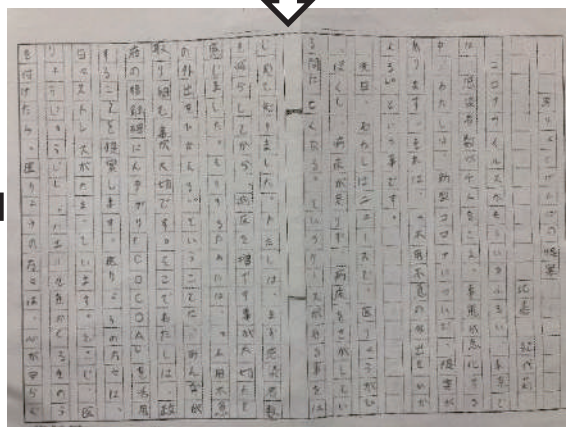


朝の NIE の時間に使うスクラップノート。3年生からスタートしている。週末に持ち帰り、記事に対する自分の考えを書いたり保護者と話し合ったりする。保護者にも一緒に考えてもらい、考えのコメントを書いてもらう。NIE の時間には、このノートを用いながらフリートーキング等を行う。

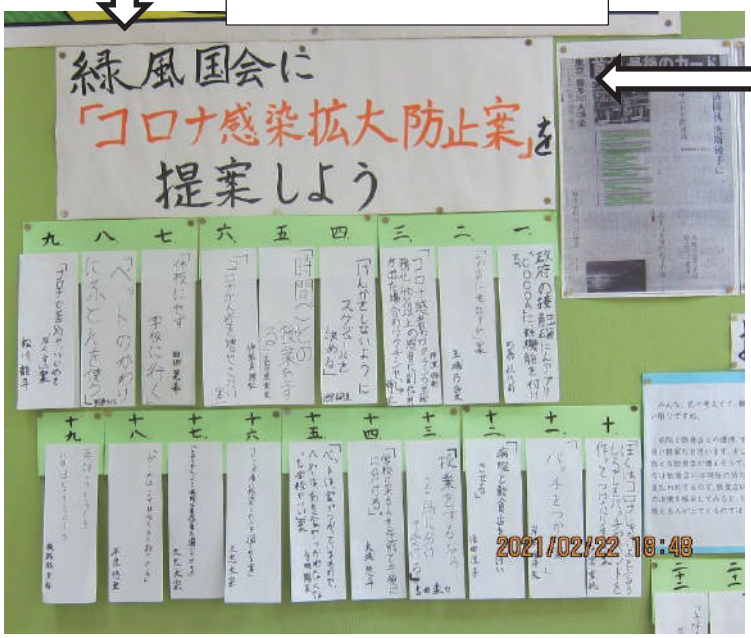
新聞記事を選んだり、記事について友達と話したりしている様子

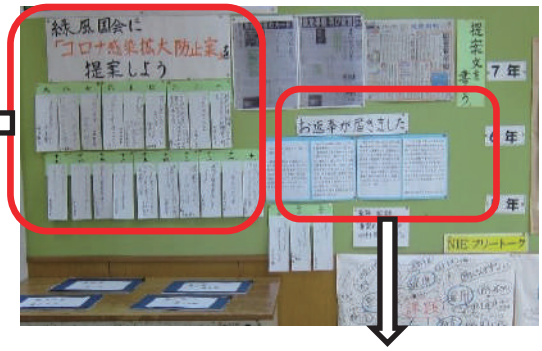
NIE を取り入れた授業実践 国語５年「提案文を書こう」

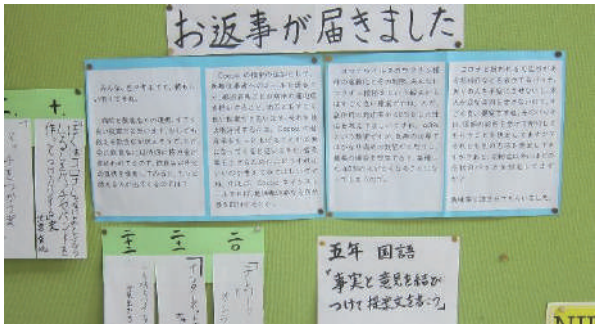
この記事をもとに話し合ったり関連のある記事を読んだりして考えを広げ自分の意見をもった。



NIEコーナーへの展示

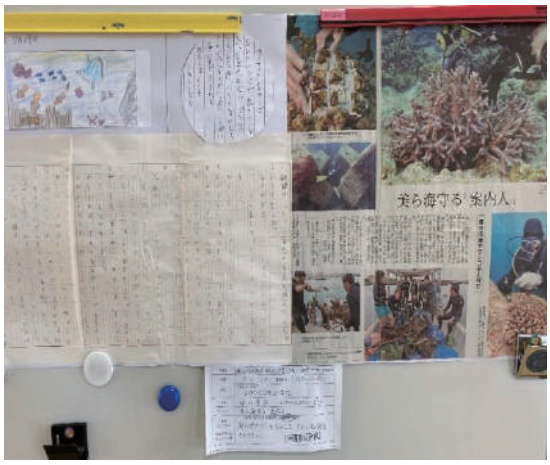






各種コンクールへの挑戦と掲示

沖縄県知事賞、タイムス社社長賞等、多くの児童生徒が受賞した。



新聞感想文部門

小学校低学年

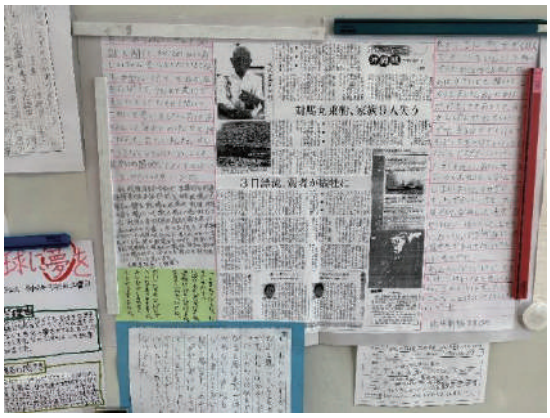
友達と意見交換面白い

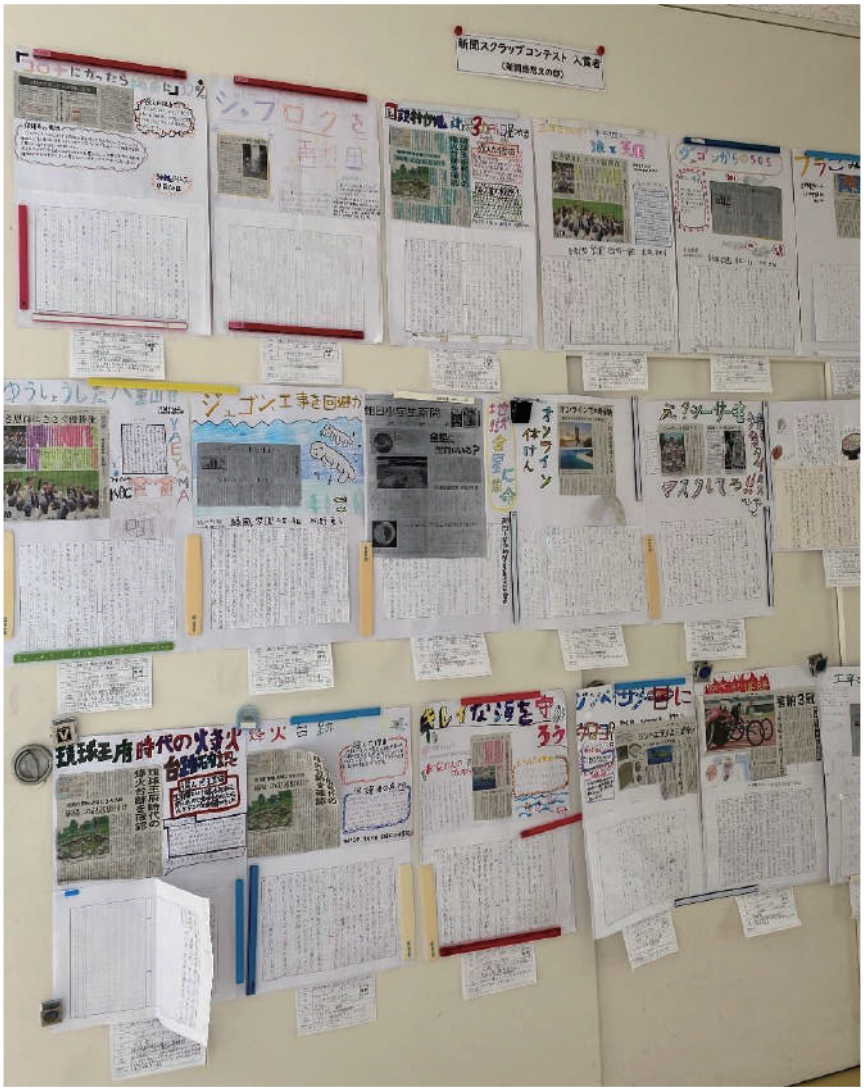
中川茉奈さん（緑風学園2年）

学校の授業で新聞スクラップをしました。私は海が好きでよく海に行きます。先日テレビでサンゴの消えゆく様子を見て、きれいだなと思いました。今回、ダイバーさんたちが海の中のごみを片付けてサンゴを植えた記事を読み、こんなにたくさんのごみがあると知って驚きました。

どうしたらごみをなくして、きれいな海やサンゴを守ることができるか考えました。私も泳げるようになったら海の中にごみを拾いに行きたいし、僧ってごみを拾うロボットが発明されたらいいなと思います。

新聞を読むのは少し難しいけど、分からない漢字を先生や家族に聞いて、友達と意見を言い合うのも面白いです。もっといろんな記事を読んでいきたいです。





図書館前の掲示板に入賞作品を掲示している様子

日本新聞協会主催「第11回 いっしょに読もう新聞コンクール」

優秀学校賞受賞

表彰状

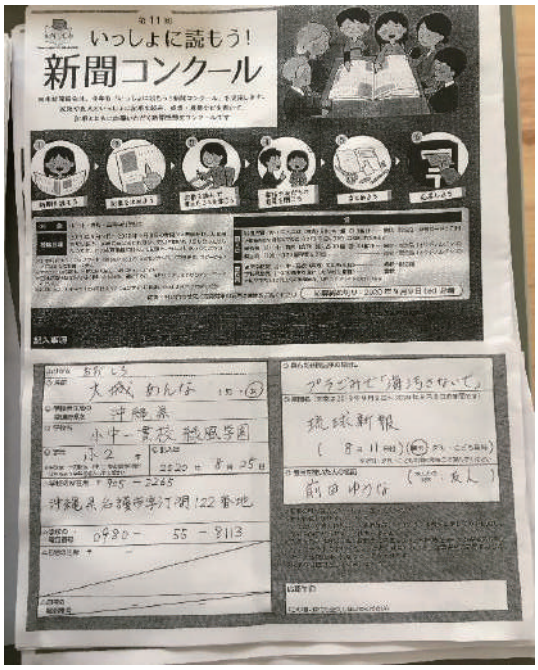
いっしょに読もう！新聞コンクール
優秀学校賞

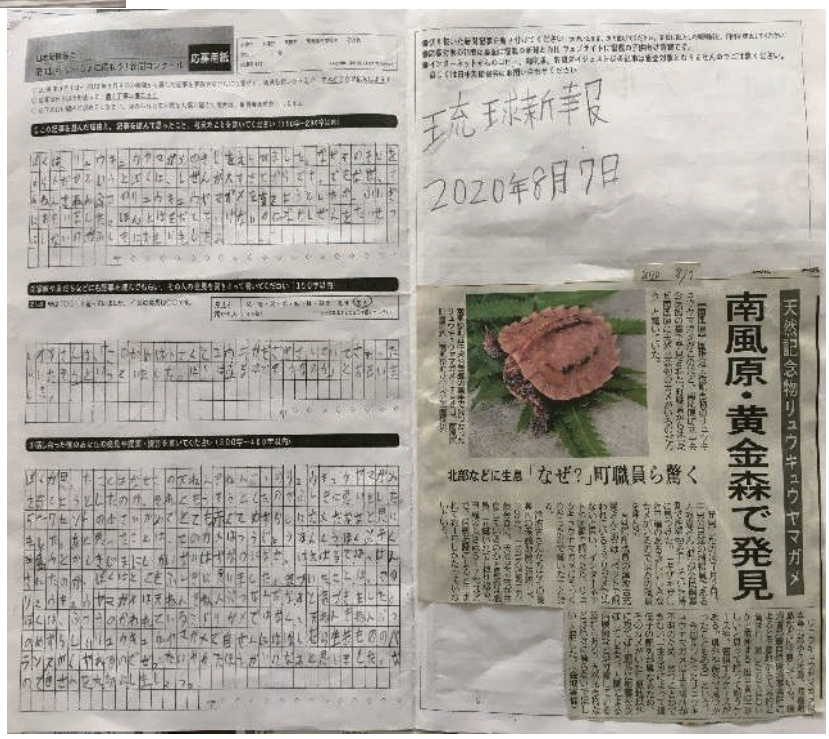
名護市立小中一貫教育校緑風学園殿
久志小学校・久志中学校

貴校は第11回いっしょに読もう！
新聞コンクールに特に熱心に
取り組んだ意欲的な学校として
高い評価されました
ここに優秀学校賞を贈り表彰
いたします

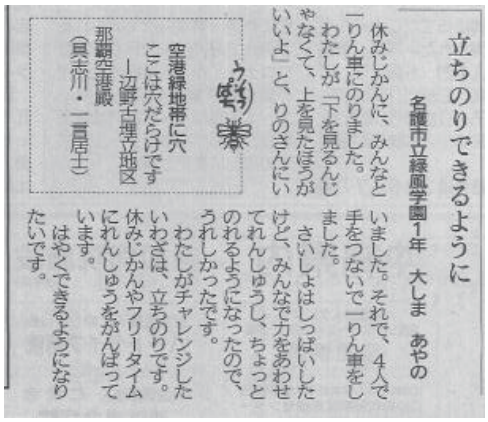
2020年12月14日
一般社団法人 日本新聞協会
NIE委員会
委員長 南

3年生以上のほぼ全員が自分の記事を見つけ、意見をもって友達と話し合い、文にまとめコンクールに応募することができた。





新聞投稿



立ちのりできるように

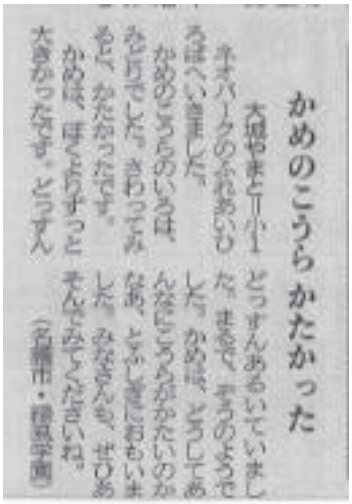
名護市立緑風学園1年　大しま　あやの

休みじかんに、みんなと一りん車にのりました。わたしが「下を見るんじゃなくて、上を見たほうがいいよ」と、りのさんにいいました。そしたらはしっぱいしたけど、みんなで力をあわせてれんしゅうし、ちょっとのれるようになったので、うれしかったです。

わたしがチャレンジしたいわざは、立ちのりです。休みじかんやフリータイムにれんしゅうをがんばっています。

はやくできるようになりたいです。

空港緑地帯に穴
ここは穴だらけです
―辺野古埋立地区
那覇空港殿
（貝志川・一言居士）



かめのこうらかたかった

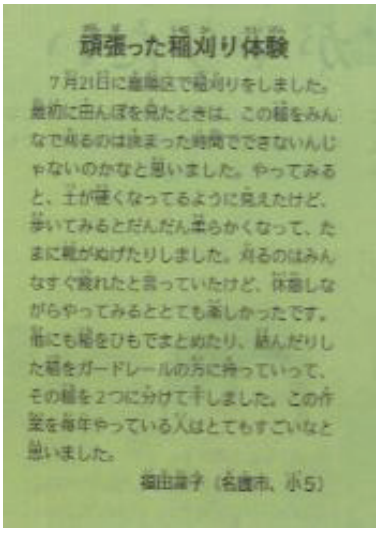
大城やまと＝小1

ネオパークのふれあいひろばへいきました。

かめのこうらのいろは、みどりでした。さわってみると、かたかったです。かめは、ほっとりすっと大きかったです。どっすん

どっすんあるいていました。まるで、ぞうのようでした。かめは、どろしてあんなにどろんがかたいのかなあ、とふしぎにおもいました。みなさんも、ぜひあそんでみてくださいね。

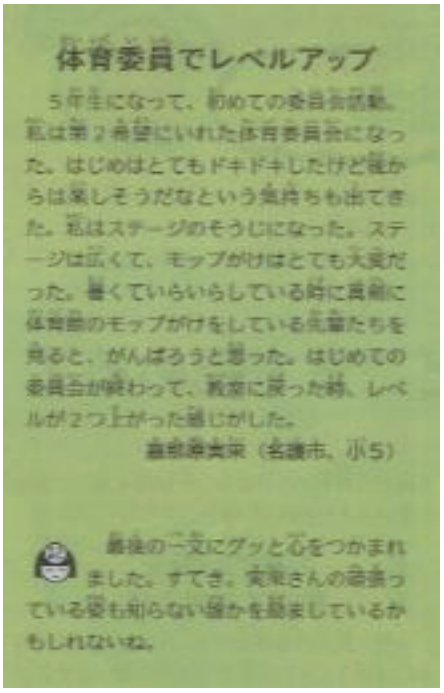
（名護市・緑風学園）



頑張った稲刈り体験

7月21日に嘉陽区で稲刈りをしました。最初に田んぼを見たときは、この稲をみんなで刈るのは決まった時間でできないんじゃないのかなと思いました。やってみると、土が硬くなってるように見えたけど、歩いてみるとだんだん柔らかくなって、たまに靴がぬげたりしました。刈るのはみんなすぐ終れたと言っていたけど、休憩しながらやってみるととても楽しかったです。稲にも結をひもでまとめたり、結んだりした稲をガードレールの方に持っていって、その稲を2つに分けて干しました。この作業を毎年やっている人はとてもすごいなと思いました。

嘉陽澪子（名護市、小5）



体育委員でレベルアップ

5年生になって、初めての委員会活動。私は第2希望にいれた体育委員会になった。はじめはとてもドキドキしたけど後からは楽しそうだなという気持ちも出てきた。私はステージのそうじになった。ステージは広くて、モップがけはとても大変だった。暑くていらいらしている時に真剣に体育館のモップがけをしている先輩たちを見ると、がんばろうと思った。はじめての委員会が終わって、教室に戻った時、レベルが2つ上がった感じがした。

嘉陽澪美栄（名護市、小5）

最後の一文にグッと心をつかまれました。すてき。美栄さんの頑張っている姿も知らない誰かを励ましているかもしれないね。

汀間の海は魚がいっぱいだ

嘉陽翠＝中1

多いです。

メッキは明るさはまあまあです。大きくなるにつれ、カラフル毒という危険な毒を持っているので食べないほうが良いです。

ミジュンは明るさが弱いけど、おいしいので釣れたらぜひ食べてみてください。

ミーバイは種類もきそして美味しいしおいしいので絶対に食べてください。

イトは大きさが約1メートルになる魚です。引きもまあまあ強く、おいしいです。

ブダは大きさが約1メートルで釣った魚は13匹釣れます。まずはカジャーです。可愛が強いのが特徴で、味はまあまあです。

釣りは楽しいです。

が急に厚くなっていて、いろいろな魚がいるので釣ってみてください。

（名護市・緑風学園3年）

切磋琢磨できた高校バレー

出内ひなる＝中3

私は、バレーボール部に所属していて本部は初級校のチームでしたが、今年は春高予選県3位という成績をのこすことができました。

ここまこられたのは、いろんな道のりがありました。まず、切磋琢磨する

と、を心がけていました。練習中でも、無駄話などは口にしないようにして、間違っていることはしっかり指摘し、練習に励んでいました。

「互いが同じ目標に向かって進んでいたことがこの勝利に一番大きかったのではないかと思いました。

チームが一つになると

成果と課題

【成果】

・NIE 関連のコンクールにおいて多くの児童生徒が作品の応募をし、受賞をすることで意欲の向上につながった。

・新聞の記事に対して友達同士やクラス全体で話し合うことで、考えを広げたり深めたりすることができた。

・朝のNIEの活動の時間を週時程の中に入れ、各学年の発達段階に応じた新聞を活用した活動を行うことができた。

【課題】

・コロナ禍にあり、例年行っている4月の授業参観時の保護者に NIE について知ってもらう説明等を行うことができなかったので、次年度はできるように計画していく。

・時代の変化に伴い、新聞購読のない家庭が多くなり、学校でのみ新聞と関わる児童生徒が多くなり、いかに新聞に親しませていくか工夫が必要である。

・9 年間の学びをつなぐ NIE 活動の一層の充実

（各学年の発達段階をとらえ、共通確認・共通実践を行う）

2020年度　コザ中学校　ＮＩＥ実践報告書

沖縄市立　コザ中学校
校　長　　島村　一司
主幹教諭　松田美奈子

１．はじめに

昨年度（2019）から沖縄県ＮＩＥ実践指定校の指定を受け、ＮＩＥ実践校指定２年目となった。ＮＩＥを授業改善や授業力向上の手立てのひとつとして、相互に連動させながら各教科や領域などの教育活動に取り入れていくことを共通理解全体認識とした。２年目なので、昨年度の成果と課題を踏まえ、ＮＩＥの理論と実践、啓蒙、「ＮＩＥの日常化」を意識しながら進めていくこととした。

２．ＮＩＥ推進テーマ

「主体的・対話的で深い学びを育むＮＩＥの実践」
～主体的に学び合い、自己肯定感や自他理解を高める授業づくりを通して～

３．学力向上推進テーマ

「夢や希望の実現に向かって歩み続ける生徒の育成」
～キャリア教育の視点で取り組む学習活動を通して～

４．校内研修テーマ

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」
～新学習指導要領に則した年間指導計画の作成～

５．おもな取組

（１）新聞の設置

・ＮＩＥ用新聞は各新聞社ごとに職員室にある専用箱に入れ、１か月が経過したら図書館に移動し、授業時に生徒が検索・閲覧ができるように仕分けした。
・本校独自で購読している県内紙（琉球新報・沖縄タイムス）は最初は職員室で閲覧できるようにしている。その１カ月後に図書館に移動させ、ＮＩＥ用新聞と区別して誰でも閲覧・コピー・貸し出しができるように共通確認をこまめに行いながら、新聞が身近な存在となるよう設置場所や新聞を開きたくなるような仕組みや周辺環境を構築してきた。

（２）校内研修

①オリエンテーション「ＮＩＥ入門～ＮＩＥで身に着く力・教育的効果・記事の教材化～」

（４月２日　講師：松田美奈子主幹教諭　ＮＩＥアドバイザー）

②ＮＩＥ研修会「ＮＩＥ講座　～新聞のしくみと特徴・見出し当てワークショップ～」

（１２月２１日　講師：安里　努記者　沖縄タイムス社　ＮＩＥ事業推進室室長）

（３）実践教科・領域と内容

①社会：ゆるキャラ、都道府県調べ、２０２０年度１０大ニュース

②美術：点描画（りゅうＰＯＮ！に掲載されている原画をもとに色塗り作業を実施）

③道徳：平和の継承者としてできること　～平和実現への発信～（平和ツイートづくり）

：沖縄戦について考えよう（全学年・全学級）

：新聞投稿記事コラムを活用して、思いやりの心について実践した。（ＴＴ授業）

④総合的な学習の時間：「職業調べ」（１・２年）

⑤学活：夢と目標、キャリア教育（りゅうＰＯＮ！掲載：動物看護師のシゴト）

：「第１０回しんぶん感想文コンクール取組み」（１年全学級　１年１学級はＴＴ）

（４）その他

①「学推だより」

・職員向けに発行

・内容は学力向上や授業改善に関する記事を掲載し、記事の要約や記事から読み取れること、記事のキーワード等を入れ、授業づくりのヒントになるよう心がけて作成した。

・学推関連の記事を抜粋し、記事の「キーワード」から職員への発問を掲載し、発行者側からの一方通行にならないよう、職員の意識高揚をねらった。発問に関して、職員からの記述があったものは、校長や教頭に目を通してもらった。

②「キャリア教育だより」

・職員向けに発行

・内容は、本校の方針である「中学校３年間を見据えたキャリア教育」を意識しながら、学活の授業で実践できる新聞記事を抜粋し、記事の要約、記事から読み取れること、記事の「キーワード」をもとに職員への発問を掲載した。発問への回答を記述し、職員から「キャリア教育だより」を預かり、校長や教頭に目を通してもらった。

③「ドリカムだより」（全生徒に配付）

・生徒、保護者向けに発行・・・記事を活用し、家庭で行うキャリア教育

・学力向上や進路・キャリア教育関連の記事を掲載し、学校と家庭が連携・連動して学力向上やキャリア教育を進めていく目的で作成した。家庭で、日頃から「卒業後の進路」「夢を持つこと」「具体的な目標を立てて実行・継続すること」を意識させ、記事のキーワードをもとに、親子への問いも掲載し、回答させた。

６．生徒の変容・成果・課題

（１）生徒の変容①最初の頃は新聞のしくみや特徴が分からず、興味がある面（スポーツ）や写真、広告面ばかりを見る生徒が多かったが、見出しの特徴・リード文の役割など新聞の特性や特徴を教師が説明した後は、他の面も読む生徒が徐々に増えた。

②落ち着きのない生徒が少しずつ落ち着いてきた。

③自分で考える前に友人や教師にすぐ質問し早急に答えを知りたがる生徒が、まず自分で考えてから、その後、友人に質問するようになった。

④ペア学習やグループ学習を苦手にしていた生徒が小さい声ではあるが、グループでの話し合いや意見交換に参加することができるようになった。

⑤生徒からの質問が増え、意欲・関心が高まり、質問のレベルが上がった。

（例）当初は「全部分からない」という質問から「〇〇は分かるけど、□□のこの部分が分からない」という具体的な質問になった。

（２）成果　①集中力が高まった。

②時間管理能力が格段に向上した。（タイムマネジメント）

②思考力・判断力・表現力が高まった。

③各コンクール・コンテストへの応募についても、コロナ禍ではあるが、入賞者さらに上位入賞者が出て、生徒から生徒への称賛のようすが多数見られた。入賞しなかった生徒が入賞した生徒にグータッチをしたり、自分のことのように喜んでいる姿が見られた。

特に「第１１回いっしょに読もう！新聞コンクール」全国奨励賞受賞・県奨励賞・県入選（計女子３名）では、本人や家族が大喜びし、和やかな表彰式となった。また、沖縄タイムスの記事を執筆した記者から取材を受け、大きな自信につながった。

さらに、「第１０回しんぶん感想文コンクール」優秀賞・入選賞では本人や保護者から取組応募への感謝の言葉があった。

⑥理由や根拠を書くことを苦手にしている生徒が減った。

⑦コミュニケーション力、分析力、問題発見・解決力が身についた。

⑧文章を要約して書く、「要約力」が向上した。

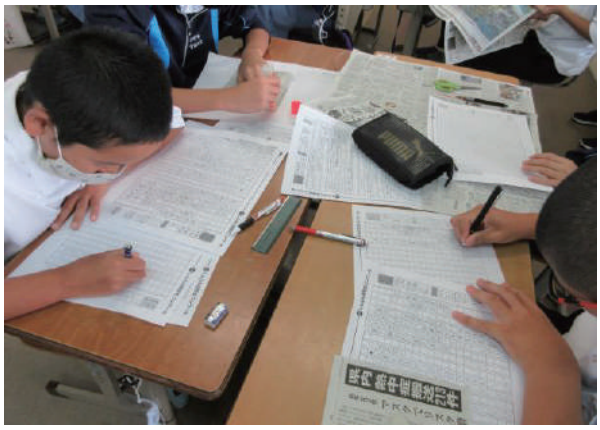
（３）課題　①全教科・領域で実践することができなかった。

②ＮＩＥに関して、職員の温度差があり、新聞を活用することに「難しい」「面倒だ」と考えている職員もいる。

③どのような新聞記事を教材化するかということに頭を悩ませている職員が多いので、各教科の年間計画や単元目標、評価規準をもとに、教材づくりの輪を広げる必要がある。

７．写真資料

第 10 回しんぶん感想文コンクール取組み
※気になった記事を切り取っています！



第 10 回しんぶん感想文コンクール取組み
※記事を読んで、選んだ理由を記入中！

「職業調べシート」記入のようす
※記事を選び、職業の特徴等を記入中！

「職業調べ＋αシート」に取組みの様子
※職業調べシートの２枚目（発展学習）

「職業調べシート」友人に取材し、記入中！

「職業調べシート」グループ協議中！

８．写真資料

「職業調べシート」：記事にある職業に向いている性格を書き出しています！

「職業調べシート」：グループで意見を集約し、今、私達がすべきことを記入中！

道徳「今どきの高校生」ワークシート記入

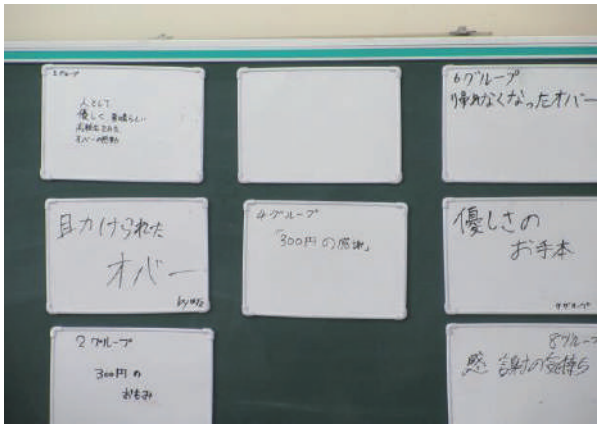
道徳「今どきの高校生」グループ協議

道徳「今どきの高校生」グループの意見を集約しています

道徳「今どきの高校生」グループの意見をホワイトボードに書き出しています

９．写真資料

道徳「今どきの高校生」グループの意見を
発表しています



道徳「今どきの高校生」全グループの意見が
ホワイトボードで提示されています

第 11 回「いっしょに読もう！新聞コンクール
入賞者（左：喜屋武楓花さん・上地美羽さん
・奥間美海さん）

第 11 回「いっしょに読もう！新聞ｺﾝｸｰﾙ」
上位入賞者の生徒が県内２紙の記者から取材
を受けています

校内研「ＮＩＥ研」講師：安里努氏（ﾀｲﾑｽ）

校内研「ＮＩＥ研」記事からｷｰﾜｰﾄﾞ検索中！

２０２０年度　NIE 実践報告

興南中学校・高等学校
國吉　美穂

１、はじめに

本校は中高一貫校のコース（フロンティアコース）と高校から入学してくる生徒が在籍する特進コース、総合コースの３つのコースがあり、それぞれがそのコースにあったカリキュラムで学習に励んでいる。また、大学受験を目指す生徒が９割、専門学校（主に看護や美容系）に進学する生徒が１割程度という実態がある。

大学入試改革において、ＡＯ、推薦枠の増加、そして、小論文を課す大学も増加しており「社会に目を向ける」「自分事として考える」ことがより一層求められるようになった。

さらに、キャリア教育においても、生徒たちが「どんな社会にしていきたいか」「自分の強みをどう社会で生かしていくか」を考える機会として、「興南まなＶＩＶＡ」という次世代型総合学習を２０１４年から取り組んでいる。

２、新聞活用について

中心となる教科はやはり社会科と国語科である。

・コンクールの活用について

中学校は全学年で**「いっしょに読もう新聞感想文コンクール」**と**「新聞スクラップ」**に取り組んでいる。主に。「いっしょに読もう新聞感想文コンクール」は１学期に取り組み、夏休み前後にスクラップを取り組んでいる。

ここでのポイントは完全に「宿題」として、生徒任せにするのではなく、授業内でも中間指導を入れながら、他者の視点を入れていくことである。

これによって、生徒は情報の整理を修正しながら、まとめていくことができているようである。

・学校行事を活用

学校行事の中でも、特に大きな行事の後は、**「はがき新聞」**を作成している。

入れる情報の文字数としては、６００～８００字程度であるが、生徒たちは書きたい内容をどうその範囲内に収めるかを試行錯誤しながら、作成している。

また、それを教室内外に展示することによって、同じ行事でも多様な観点から面白い視点を発見することもあり、生徒たちは回を重ねるごとに、工夫を凝らしている。

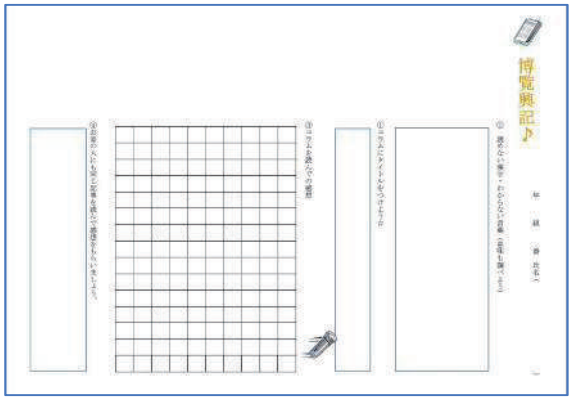
また、平和学習において、「ワラビー」や「りゅう PON」を配布し、授業で活用しているが　そのまとめとしても「はがき新聞」を応用し、はがきサイズからＢ５サイズの用紙へ変え、文字の量を増やし、アウトプットする場と、「発信者」となる場を確保するためにも、学んだこと、自分が感じたこと、次の世代に語り継ぎたいことを書かせている。

３、小論文対策として

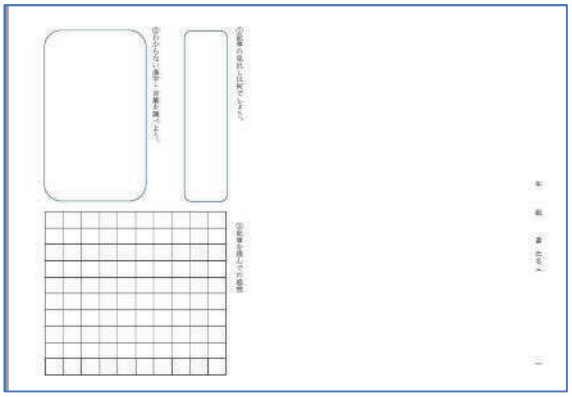
高校では主に、「朝活」として、新聞記事を提供し。毎日１０分間読む時間を確保している。また、コラムをワークシート化し、「語彙」「文脈」「教養」「視点」「出来事」などを読み取れているかという読解の確認を行っている。

これによって、いわゆる国語の評論や小説の語彙とは違う、「ニュース語彙」というものが身につく。その知識が社会問題などについて論述する際に役立つ。

ワークシートを工夫して、つけたい力によりフォーカスしたものを作っている。（↓）



コラム用ワークシート例



新聞記事用ワークシート例

他にも、全国各紙を活用し、季節や地域性を感じるコラムがあれば、積極的に活用している。(特に他地域の新聞で沖縄の話題が取り上げられた時は、必ず触れるようにしている)

この時、意識しているのは、語彙の意味調べと最後の感想文である。

語彙を身に付けていくために、必ず振り返りや同じような語彙が出てくる話題を提示するようにしている。また、感想文を字数指定し、言葉を工夫して言い換えたりする力を培っている。

5、総合学習のツールとして

課題解決型の学習にするには、まず「現状」を理解し、「理想」をもたせることが大切である。まずは新聞記事から、現状を知り、どうなっていってほしいか（理想）を話し合わせる場をもつようにしている。

（グループワークの様子）

（個のワークから見えた現状を整理）

（フィールドワークにも出ます）

「発信力」に結びつけるために、「壁新聞」の作成や「ポスターセッション」また「プレゼンテーション」などにして、他者に伝える場を設けている。

6、最後に

新聞は「触れる」だけでも「社会との接点をもつ」という意味では有意義なツールである。しかし、それだけではもったいない。

豊富な知識がつまったツールであり、記者たちが取材をした事実に基づいたツールでもある。また、「総覧性」という意味では、これだけのジャンルの情報を一目で目にできるツールは他にない。

「日常化」していくことによって、社会の出来事が「他人事」から「自分事」に変化していくのではないだろうか。

とはいっても、教員の仕事は多岐にわたり、準備の時間は短い方がよい。

さまざまなツールを活用し、NIE から探究へとつなげていきながら、社会の出来事を自分事にしていくアクティブラーナーを育成していきたい。

令和２年度
県立宜野座高等学校　NIE 実践報告書

沖縄県立宜野座高等学校
教諭 比嘉 啓信
教諭 齊藤　憲
教諭　多和田　真士

１ はじめに

昨年度から、沖縄県 NIE 協会の実践指定校として取り組みを進めて、はや２年締めの年になった。本校で NIE の実践を教諭間で連携しながら組織的に取り組みはじめたのは、平成２９年度からである。２年間日本新聞協会より、県立高校として初めて NIE 実践研究指定校認定を受け、実践をすすめてきた。当初は取り組みについてなかなか要領を得ず、試行錯誤を繰り返しながらであったが、県の推進協議会の皆様の支援・ご協力を頂きながら、有意義に２年間の実践を行うことができた。２年間の実践の中で、特に、生徒達が県内外の新聞を閲覧する機会を得ることができたのは、非常に大きな経験であった。ただでさえ、家庭での新聞購読率が低下している中で、県内紙以外の新聞を購読する機会のほとんどない生徒達が、県内外の新聞を読み比べる経験ができ、そこから色々な意見や考えを各自が紡ぎ出し、それらを交わす経験ができたのは非常に大きかった。あわせて、２年目の実践では、「『主体的・対話で深い学び』を NIE 教育を通して実践することがどのようにしたらできるのか」ということを目標にしながら実践を進めた。その中で、主権者教育と NIE を絡めて実践を構想する中で、「主体的・対話的で深い学び」の実践に対して、NIE という教育手法のもつ可能性に関し多くの手応えを感じることができた。

それらの実践を踏まえ、昨年度からは、県 NIE 協会指定校としての実践の広がりを模索してきた。特に１年目は、新しい NIE 教育の可能性について、本校が２０１８年度より２０２０年度までの３年間指定を受ける「キャリア教育推進事業研究協力校」との絡みの中で、「生徒のキャリア発達に対して NIE 教育がいかに効果を持つか」という点に着目し実践を進めた。

あわせて、２年目の今年は、新しく始まる教科「公共」との関連も含めた授業実践構想を柱に取り組みを進めてきた。あらたに導入される予定の「公共」に関しては、詳細な部分はまだ分からず手探りのところもある。しかし、新学習指導要領で示された「公共」の目標では、学校教育法の学力の３要素（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」）を出発点にして、育成することを目指す「公民としての資質・能力」が列挙されているので、それらを踏まえ、本校では最終年度となる今年度、上記、公民としての資質・能力」の育成にあたり、「公共」の目標をふまえた実践の展開にも取り組んでみた。特に、（１）「現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論」について理解し、「諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能」の習得を目指すこと、（２）「現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理」を活用し、「事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力」や「合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを

議論する力」を育成すること、を柱に取り組んでみた。今回は、その１年間の取り組みの様子を概観してみたい。（比嘉　啓信）

２ 本校の取り組み（主なもの）

【３年生】

①「比嘉　啓信：地理Ｂ・政治経済/日々の授業内容との関連から（『中印国境問題から考える』、『コロナ特措法について』、『コロナによる雇い止め問題から考える』など）、『自己の進路との関連から（進路との関連記事の検索、記事の要約まとめ→意見・感想の交流→それらを受けて、各自で自己の意見・考えを再考するとりくみを繰り返し実施）など）

②「齊藤　憲：倫理/「生命倫理」～「自己決定」、「SOL」と「QOL」、「尊厳死」と「安楽死」、「緩和ケア」、「リヴィング・ウィル」を焦点に～」（以下、掲載の実践例参照）

③「いっしょに読もう新聞コンクール」（夏季休業中の課題として）

④「新聞感想文」（夏季休業中の課題として）

【２年生】

①「多和田真士：世界史Ｂ/各単元で扱う国々の現在の社会情勢をより身近に感じさせる狙いから、最新の新聞記事を活用し、授業に取り組む」（以下、掲載の実践例参照）

②「いっしょに読もう新聞コンクール」（夏季休業中の課題として）

③「新聞感想文」（夏季休業中の課題として）

④「玉元大輔：選択化学/化学的な観点から、歴史的建造物の「赤」の発色のメカニズムを理解する。首里城と「久志弁柄」に関する新聞記事の基本的な事項を要約する。再建時に、再建前の色と違っても旧王国時代の塗料を使うべきか、また、文化財をめぐる細部への「こだわり」について、自らの意見を述べる。」（以下掲載の実践例参照）

【1年生】

①「いっしょに読もう新聞コンクール」（夏季休業中の課題として）

②「新聞感想文」（夏季休業中の課題として）

③「比嘉啓信/現代社会：『再生医療の発達と人間の尊厳について考える』、『匿名を利用したSNSでの誹謗中傷事件から考える』など」

３ 成果（主なもの）

（１）いっしょに読もう新聞コンクール（主催：財団法人日本新聞協会）

①全国学校奨励賞（２年連続受賞）

②沖縄県 NIE 推進協議会長賞　島田（しまだ）　ひまり（２年）

（２）第１０回　新聞スクラップコンテスト（主催：沖縄タイムス社）

【新聞感想文部門】

■優良賞

玉那覇（たまなは） 聖海（せいか）（３年）　大濱（おおはま） 陸人（りくと）（３年）　塚原（つかはら） 李里香（りりか）（２年）

島袋（しまぶくろ） 咲野（さきの）（１年）　我謝（がじゃ） 采樺（あやか）（１年）

■佳作（１５人）

松田　峻弥（３年）　新垣　茉央（３年）　古波蔵　素也（３年）　崎濱　愛（３年）

山内　にい菜（３年）　比嘉　亮（３年）　翁長　葵衣（３年）　仲間　由夏（３年）

小川　幸人（３年）　比屋根　叶紗（２年）　大城　ねお（２年）　島田　ひまり（２年）

比嘉　楓花（２年）　知名　舜太（１年）　大城　野乃（１年）

（３）警察庁主催 大切な命を守る作文コンクール

広報相談課長賞　大濵　陸人（３年）

（４）令和２年度　税に関する高校生の作文

名護税務署長賞　浦崎　彩夏（１年）

４　実践事例報告

（１）齊藤　憲（３年　倫理）

昨年度のこの実践報告のまとめで、生徒の「読解力の不足」を解消する手段としてNIEに取り組む旨を述べた。その問題意識は、次の2点を達成させたいという点にある。

① 教科書とは違いゴシック強調のない資料から、5W1Hなど基本的な情報を正確に把握し、まとめる

② 把握した問題に対して、自分なりに問いを深め、自らの意見を述べる

これは、冒頭で比嘉が述べた、「公共」を見据えての実践課題（1）（2）と通底するものである。以上をふまえ、今年度3年生の「倫理」の授業において行った実践を報告したい。

［1］ 授業の概要

＜授業科目・単元＞　倫理　「生命倫理」

～「自己決定」、「SOL」と「QOL」、「尊厳死」と「安楽死」、「緩和ケア」、「リヴィング・ウィル」～

＜学習の目標＞

＊ゴシック強調のない文章を自分で熟読し、必要な情報を把握する力を養う。

＊「哲学者の道具箱」を活用し、テーマについて思考を深める課程を体験する。

＊対話を通じて考えを整理し、記事の要点と自らの意見を区別しながら説明する能力を養う。

＊テーマについて、自らの意見をまとめる。

＜授業対象クラス＞　3年生普通科2クラス　2020年11月中～下旬に実施

＜使用新聞教材＞　京都ALS女性に対する嘱託殺人をめぐる報道

資料①　『朝日新聞』2020年7月24日および7月25日の事件報道

資料②　『沖縄タイムス』2020年7月25日の事件についての社説

資料③　『琉球新報』2020年8月10日～9月21日の連載「「安楽死」を問う」1～5

	授　業　概　要
Ⅰ	＊ALS、日本における「安楽死」条件について発問 ＊資料①とワークシートを配布。上記の発問の答えを記事から探して記入する。また今回の事件について 5W1H の観点で基本事項を整理し、理解する。
Ⅱ	＊前回のワークシートについて、基本事項を確認する。 ＊資料②を配布して、今回の事件についての一つの意見を把握させる。社説を要約する。 ＊「哲学者の道具箱」（生徒には事前に配布済み）を活用しながら、資料について授業者が読みを深める実演をする。 ＊この事件について、どんな論点があるのかを確認する。
Ⅲ	＊ペアで ALS 疑似体験（文字板を視線で追って意志を伝達） ＊ジグソー法①-1 生徒を A～E の 5 グループ（A-1、A-2 のように各 2 班）に区分し、今回は記号ごとのグループに着席させる。 各記号には資料③の連載のうちの 1 回を配布し、グループで読み進める。その際に、「哲学者の道具箱」の活用を促す。
Ⅳ	＊ジグソー法①-2 別グループでの発表に向けて、資料の説明 1 分 30 秒、自分の意見 30 秒の計 2 分間のプレゼンテーションを準備し、今回のグループ内で予行を行う。 ＊ジグソー法② 生徒を A～E が揃うように 5 人グループで着席させる。 A～E それぞれが、自らの担当する記事について準備した 2 分間のプレゼンテーションを行う。発表者以外は、内容をメモするとともに「哲学者の道具箱」を利用して質問をする。 ＊授業のまとめとして、テーマについて 400 字で自らの意見を述べる（提出）。

［2］実践の様子

＜授業Ⅰ＞　資料①・・・『朝日新聞』の事件報道記事

「ALS について知っていること」や「日本で安楽死が認められる条件」などについて発問し、自分なりの答えを書かせた後、記事を読ませて正確な内容をまとめさせるのが前半。後半は、ワークシートの 5W1H にしたがって、事件の概要をつかませる作業をした。

自分で読み進めて、表を埋めることができる生徒は半分弱。机間巡視や声かけで促しても、意欲がわかない生徒もいた。生徒の認知の領域にも配慮して、資料の読み方の指導方法を改善する必要がある。

＜授業Ⅱ＞　資料②・・・『沖縄タイムス』の社説

ワークシートに従って、まずは黙読を、つづいてペアでの音読を指示し、重要と思われる箇所の抜き出しを行う。さらに、ペアで共同して段落ごとの要約を行わせた。黙読・音読の両方を課した理由は、認知における聴覚優位および視覚優位の生徒双方を想定したからである。ただ、音読は、互いの音声に集中できる環境とはいいがたいため、あまり効果はみられなかった。また、丁寧な読みを促すために、社説の段落ごとの要約を行わせたが、これも特に効果的であったとはいえず、真面目に取り組むペアの生徒の内容を書き写すだけの生徒も散見された。

報道の内容を検証する姿勢を持たせる意図で、P4C（Philosophy for children）で用いられるという「哲学者の道具箱」（事前に配布済み）を用いた問いの例を授業者から提示した。しかし、内容的にも時間的にも、生徒自ら「道具箱」を用いて読みを深める段階にまでは進めなかった。

＜授業Ⅲ＞　資料③・・・『琉球新報』の連載 1～5

冒頭で、ALS の疑似体験として、文字盤を視線だけで追ってメッセージを伝える活動をした。伝える側・読み取る側を交換しながら意欲的に取り組んでいたのはよかったが、レクリエーションのようになっていた。この活動のまとめとして、我々は普段どおりのコミュニケーションに「戻る」ことができるが、ALS はそうではないことを認識してほしい、と伝えたが、扱うテーマの深刻さを生徒に意識づけできていたかどうかについては反省している。

後半は、ジグソー法の第 1 段階として、数人のグループに分かれて連載の 1 回分について読み進める活動をした。黙読 ➔ 音読 ➔ 要約 ➔ 批判的吟味 ➔ 自分の意見の順にワークシートに沿って進めさせた。意欲的な生徒が集まったグループとそうでないグループで活動の質に大きな違いが出てしまい、効果的な介入ができなかった。

＜授業Ⅳ＞　資料③・・・『琉球新報』の連載 1～5

冒頭は第 1 段階のグループで集まり、内容の確認をした。続いて、ジグソー法の第 2 段階として、連載の各記事担当が集まるグループを再編成し、プレゼンテーションをさせた。

授業の時期の問題もあって欠席が多く、ⅢにいなかったがⅣに参加した生徒、またはその逆などがいて、あまり有効な活動にならなかったグループもあった。とはいえ、連載の筆者の主張の紹介と自分の意見の表明、という形式については、ほとんどの生徒が意識して実践できていた点はある程度評価できる。

最後に、他の記事（生徒には担当記事のみ配布）についてのプレゼンもふまえて、今回の授業のまとめをワークシートに記入させた。予想通り、“本人が望むなら”“何もできないなら苦しいだけ”といった理由づけでの「安楽死」肯定論が多く見られた。ただ、数人は、多様な視点に触れて、この問題を自分に関わるものとして考えようとする姿勢を示してくれた。以下に、いくつか生徒の感想を挙げておく。

＊「私が今回の ALS 患者の事件について学んで、授業で初めて ALS について知り、この事件の安楽死に賛成でした。患者の苦しみは本人にしかわからないし、本人が望むのならその通りにすべきだという考えしかありませんでした。なので、犯人が罪に問われる理由がわかりませんでした。ですが、ALS 患者の方の意見を新聞記事で読んで、患者の気持ちは移り変わりしやすく、命は自分だけの命ではないという意見に心を打たれました。

もし身近な人、もしくは自分が ALS になってしまったら、相手や自分の意見を尊重していきたいです。また、安楽死の法律について日本はもっと見直すべきだと思った。新聞にも記載されていたように、ALS 患者の中には生きろと言われるのが死ぬより辛いと感じている人もいるといっていたので、他の国を参考にして本人の意志が尊重されるようにしていってほしいと思った。」

＊「ALS という病気について、たびたびニュースや新聞で見ますが、実感がわかないというのが私の考えていることです。実際に目の前で見ていないのでどれだけ苦しいのか、どれだけつらいのか、新聞やニュースを見ているだけではわかりませんでした。私は実際に目で見て、その人に聞いて、体験を聞いてみたいと思っています。安楽死について、私は五分五分です。理由としては、安楽死をすることにより、苦しみから救われることになる。しかし、これは自殺だ、と岡部さんと久坂部さんは言っています。私もその意見には賛成です。ですが、本当に自殺と言っていいのかと思う私もいます。その人の意見としては自殺

と考えきれますが、本当に苦しい人、つらい人にとっては、解放される一番の幸福だと私は考えます。安楽死については良いとも悪いとも言いきれません。ですが、安楽死の考え方については人それぞれなので、これと決めつけてはいけないと思います。」

［3］ 総括

充分に準備したとはいえない授業ではあったが、正確な読解・情報把握と発信、および自分の意見の表明という目的に照らして、適切な題材ではあったと考えている。ただ、正確な資料読解を指導するスキル、こちらの設定したテーマに生徒を引きつける仕掛けが決定的に不足していたと反省している。NIE の先行事例に学んで、次年度以降の改善に繋げていきたい。

NIE 教育に新聞を

新聞記事活用し生命倫理考える

宜野座高、NIE授業

「NIE月間」の11月、宜野座高校（上地さとみ校長）は新聞を活用した3年生の倫理の授業を実施した＝写真。4回にわたり、筋萎縮性側索硬化症（ALS）の患者から依頼を受けた医師が起こした嘱託殺人事件に関する記事などを活用して、考えを文章にまとめた。

授業は「生命倫理」の単元。県内紙や全国紙に掲載された、医師の逮捕を伝えたり、ALSの当事者や識者に安楽死についての意見などを紹介したりする記事のほか、社説を使った。4回目の授業ではグループに分かれ、5回の連載記事を1回分ずつ要約を説明し、自分の意見を伝えたり質問し合ったりした。最後に安楽死の賛否やその理由などについて、自分の考えをワークシートに書き込んだ。

玉城瑚雄さんは「記事を通してALSについて知り、患者にしか分からない気持ちも知り勉強になった」と話した。

齋藤憲教諭は「記事を読み込み、責任を持って互いに説明させ、結論を決めずに考えてもらいたかった」と授業の狙いを語った。

『琉球新報』2020 年 12 月 18 日

授業Ⅳの様子

3年倫理ワークシート 2020　NIE 特別授業　No.1

【特別単元】「生命の尊厳」とは何か①

★「ALS」という病気について何か知っていることはありますか？

☆記事から探してみよう。
「ALS」とは？

★日本で、いわゆる「安楽死」が認められる例外的な事例について、1995 年に裁判所が判断を示しています。どんな条件が満たされれば、医師が患者に致死量の薬剤などを投与することが許されると思いますか？　自由に挙げてみてください。

☆記事から探してみよう。
日本で「安楽死」が認められる条件とは？

★教科書 p.194-195 の中から、"安楽死を望んだと思われる ALS 患者の女性に、SNS で知り合った医師が致死量の薬を投与した" という事件で問題となりそうな言葉を抜き出してみよう。

☆記事から探してみよう。
「嘱託殺人罪」とは？

3 年　　組　　番 _____

3年倫理ワークシート 2020　NIE 特別授業　No.1

★今回の事件とは、どのような輪郭をもっているのだろうか。
5W1H の観点から、新聞記事の情報を整理してみよう。

when？ 事件の日時	
where？ 事件の場所	
who？ 当事者 関連情報をなるべく多く収集しよう！	（依頼者、死亡者） （実行者、容疑者） （その他関係者）
what？ how？ 事件の内容	
why？ 事件の動機	（依頼者側の考え） （実行者側の考え）
その他 上記以外に記事で印象に残ったこと等	

★現時点で、あなたは依頼者のような人が「安楽死」を望んだら、認めるべきだと思いますか？
理由とともに述べてください。

3 年　　組　　番 _____

3年倫理ワークシート 2020　NIE 特別授業　No.2

【特別単元】「生命の尊厳」とは何か②

★5分間取ります。資料②『沖縄タイムス』2020年7月25日「社説」を黙読してください。
⇒（読み終えたら）この社説で最も重要だと思われる文章を抜き出してください。

★ペアを作ってください（ソーシャル・ディスタンスは意識して！）。
1文ずつ交互に音読してみてください。漢字の読み方などはお互いで確認しましょう。
⇒（読み終えたら）先ほど読んだ時とは違うことに何か気がつきましたか？
もう一度、この社説で最も重要だと思われる文章を抜き出してください（同じなら不要）。

ペアの人とは同じでしたか？　違いましたか？　お互いに、その文章を選んだ理由について意見交換してみましょう。

★この社説は、執筆者によって3つに区切られています。
それぞれの部分について、ペアの人と一緒に要約をしてみましょう。

序論	（1段目～3段目左側まで）
本論	（3段目左側～5段目右側まで）
結論	（5段目残り）

3年　　組　　番 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3年倫理ワークシート 2020　NIE 特別授業　No.2

★「哲学者の道具箱」を出してください。
文章や、お互いの意見について、より深く考えるためのツールとされています。
これを使って、「社説」を少し批判的に読んでみます。

＜例＞

Letter	社説	疑問
A	「これまでの安楽死事例と比べても異質さの目立つ事件」（1段目）	確かに主治医でも家族でもない。お金も絡んでいそう。けれども、「患者を「苦痛から解放する」」という本質的な部分では一緒ともいえるのではないか。これを「異質」と見るのは、書いている人が"安楽死は許されない"という前提に立っているからでは？
T	「植松聖死刑囚のような「障がい者は殺してもいい」という発想を生み出しかねない」（4段目～5段目）	植松死刑囚の主張の要約は正しいのか？ 仮にそうだとして、この安楽死の問題をすぐに優生思想の問題につなげてよいのか？ かえってそのような大問題にしてしまうことで、今回の依頼者のような人の希望や苦難に耳を塞ぐことにならないか？
C	「仮に容疑者らが自らの死生観そのままに女性を安楽死に導いていたとしたら」（5段目）	容疑者の死生観として筆者は「一服盛るなり…」「訴追されないなら・・・」という言葉を挙げているが、これが本当に彼の主張を代表するものなのか。別の記事では「はたして本人の意向がどれだけ反映されているのでしょうか」と、当事者に寄り添う言葉がある。まだ捜査段階でもあり、容疑者の思想を簡単に決めつけるのはよくないのではないか。

★「哲学者の道具箱」を使ってみよう！
上の事例は参考になりましたか？　3度目、「社説」を読み直して、ツッコミどころはないか、ペアの人と相談しながら疑問を書いてみましょう。

Letter	疑問

3年　　組　　番 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

「哲学者の道具箱」

<対話のルール> みんなで守りましょう!

①「トーキング・スティック」を持つ人だけが話す。他の人は全力で「聴く」。

話に割り込みたくなってもグッと我慢。うなずきなど”あなたの話、聴いてるよ”サインも出そう。

話す気分じゃないな、とか、この話題は個人的にツラすぎる、とかだったら無理に話す必要もなし。

② 全員へのリスペクト。発言をバカにしたり、否定したり、批判したりはやめよう。

みんなが安心して話すことができる空気を、みんなで作りましょう。

Good thinker's Toolkit *WRAITEC*「哲学者の道具箱」

Good thinker's toolkitとは、「子どものための哲学 p4c」という教育プログラムで用いるため、ハワイ大学のThomas Jackson博士が整備したもの。みんなで、あるテーマについて考えを深めていくための質問リストです。

英語版から、p4c JapanのHP(http://p4c-japn.com/about_tool_box/)を参照して説明文を作りました。

Good Thinker's Letter	どんな時に使う?	質問のことば
W What do you mean by …?	あいまいなこと、ビミョーなこと、いろんな意味がありそうなことなどについて、分からないことがあれば意味を確かめます。	・それってどういう意味? ・〜によって何を言おうとしてるの?
R Reasons	意見というのは理由に基づいている必要があります。その意見が出てきた背後にある理由を尋ねます。	・なぜ? ・どうして?
A Assumptions	今、出ている一つ一つの考えが、どんな前提や想定にもとづいているかを明らかにします。	・この根っこにはどんな考えがあるのかな? ・〜のように想定するのは正しいのかな?
I Inferences	過去の体験や考え(始点)からいろいろなアイデアや心の動き(終点)が導かれていくプロセスに目を向けます。	・その考えはどんな経験から来たの? ・もし(A)だとしたら、その結果(B)と考えるのは正しいのかな?
T Truth	ある意見や考えが本当に正しいか、それを正しいと考えることが意味するものは何か、を問い直します。	・それって本当? ・〜が本当だとして、それは何を意味する?
E Examples Evidence	事例や証拠を捜しながら、ある意見の正しさを示します。	・その意見を支える事例はある? ・例えば、こんなことがあったよ・・・。
C Counter-Examples	反例を示しながら、ある意見の正しさを問い直します。	・でもさ、こんな場合はどうなるの・・・。

3年倫理ワークシート 2020　NIE特別授業　No.3

【特別単元】「生命の尊厳」とは何か③

★ALS患者の方の意志疎通を疑似体験してみます。前回の資料の裏の文字盤を出してください。

4人グループのところは患者役と介助役のペアを2つ、3人グループのところは患者役と介助者役と記録係に分かれます。

患者役の人は、「今日の夕食に食べたいもの」を、文字板を視線で追って伝えてください。手振りやうなずきをしたらやり直し。介助者役の人は文字板のどこを患者役の視線が追っているか注視し、文字を確定してください。記録係は介助者役と連携して記録してください。

Memo

（感想）

★各グループにA～Eの5種類の資料を配ります。

＜到達目標＞　自分の担当記事について、2分間でプレゼンテーション （記事の説明）1分30秒 （自分の意見）　30秒

(1) まずは、各個人で黙読しましょう（5分）。

(2) 次にグループで音読をします。1パラグラフごとに輪番で読み進めてください（5分）。

(3) まず各自で最も重要な主張だと思われる箇所を3つ選び、印をつけましょう。

(4) 印をつけた3ヶ所について、グループで意見交換をしましょう。

自分がその3ヶ所を選んだ理由について、順番に説明します。

グループとして、この記事の要点として合意した3ヶ所を下に要約しましょう。

3年　　組　　番 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3年倫理ワークシート 2020　NIE特別授業　No.3

★「哲学者の道具箱」を使ってみよう！

自分たちの担当記事について、ツッコミどころはありませんか？　他の人から質問が来ることも想定して、質問を考えてみましょう。

またそれに対して、グループとして回答を考えましょう。

Letter	疑問	グループとしての回答

★担当記事についてのあなたの意見をまとめてください。賛成・反対・判断できない、いずれでもかまいませんが、自分が感じていることを30秒以内で話せるようにメモしましょう。

（自分の意見）

★プレゼンテーションの実演

グループの中で順番を決めてください。記事の説明1分30秒、自分の意見30秒です。

全員行います。

3年　　組　　番 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3年倫理ワークシート 2020　NIE 特別授業　No.4

【特別単元】「生命の尊厳」とは何か④

★前回のワークシート No.3 と、担当記事 A～E、哲学者の道具箱を準備してください。
まず A～E のグループで再び集まって、プレゼンテーションの内容を確認します。
代表者 1 名は、プレゼンテーションの練習をしてもらいます。

自分の担当記事について、2 分間でプレゼンテーション
（記事の説明）1 分 30 秒
（自分の意見）　30 秒　（質疑応答）　30 秒

★名簿のグループ②を見てください。A～E を含む 5 人組となるように着席します。
順番に、自分の担当記事についてプレゼンテーションをしてもらいます。
聴く人は内容をメモします。可能なら、哲学者の道具箱を使って質問してください。

	執筆者	安楽死 賛否	内　容	発表者
A	岡部 宏生			
B	久坂部 羊			
C	会田 薫子			
D	西 智弘			
E	シャボット あかね			

3 年　　組　　番 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3年倫理ワークシート 2020　NIE 特別授業　No.4

★まとめとして、今回の事件について、ALS について、安楽死について、あなたの考えたことを、400 字でまとめてください。

＊絶望に苦しむ当事者の人々を、どうしたら支えられるのだろうか？

＊「死ぬ権利」を、日本国憲法 13 条の幸福追求権の一部として認めるべきだろうか？
「愚行の権利」（周囲からはよいとは思えない選択をも行う権利）も保護されるべきだろうか？

＊「本人の意志」を、どのように確認し、どう扱うべきだろうか？
cf.）@オランダ　安楽死の意志を示していたが、認知症になった高齢者
恐れから抵抗する本人に対して、「本人の意志」を根拠に医師が致死薬を投与

＊「自分の身体」は「自分のもの」？　「自分の意志」でどう処分してもよいのだろうか？
cf.）身近な人が、少しでも長く生きていてほしいと考える周囲の人の気持ち
人間は生まれてから成長するまでも、また病気や高齢になったり亡くなるときなども「自己決定」しているわけではない。「自己決定」がすべてではないのでは？

3 年　　組　　番 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）多和田実践

各単元で扱う国々の現在の社会情勢をより身近に感じさせる狙いから、最新の新聞記事を活用し、授業に取り組んだ。

［１］授業の概要

＜授業科目・単元＞　世界史Ｂ

「古代オリエント世界」「中国文明」「南北アメリカ文明」

＜学習目標＞

＊タブレットを活用し、文章の内容を理解するために必要な情報を選別する力を養う。

＊グループ活動を通じて他者の考えに触れ、自らの考えを広げる能力を養う。

＊テーマについて、自らの意見をまとめ発表する。

＊現代の社会問題と今までの歴史の関連性を理解する。

＜授業対象クラス＞　２年生普通科　３クラス　2020 年６月中、11 月中

＜使用新聞教材＞

資料①『沖縄タイムス』　2020 年　６月 12 日「奴隷商人の像各地で撤去　英　黒人暴行死事件を機に」

資料②『琉球新報』　2020 年　９月 29 日「Tik Tok 配信継続　米地裁判断、禁止差し止め」

「２」生徒の回答例（ワークシートから）

問１　奴隷とは？

人間が他の人間の持ち物のようにされて自由になれない人

問２　奴隷の歴史について調べ、まとめなさい。

最初、アメリカ合衆国はイギリスの植民地だった。そこに黒人のアメリカ人が移り住んでいた。それから貧しい人たちを使用人と使うようになった。今は法律で禁止されている。

問３　問１、問２の内容を鑑みてこの記事の内容をまとめ、自分の考えを書きなさい。

銅像をとることで昔のようなことが起きたり意味がない。

問 1，社会主義市場経済（中国）とは

市場経済(財・サービスの取引が自由に行われる経済)を通じて社会主義を
実現すると規定された経済の活性化を図るという体制.

問 2，知的財産権問題（中国）とは

中国における特許権や著作権などの
知的財産権をめぐる問題

問 3，「国家情報法」（中国）とは

国の情報活動を強化、保障し、国の安全と利益を
守ることを目的とする法律.

問 4，ファーウェイ問題とは

中国の今までの問題をあからさまに批判し、アメリカの同盟国に
圧をかけた。

問 5，問 1～4 の内容を鑑み、米中貿易戦争とこの記事の内容を関連付けまとめなさい。

中国は人口が多いのをいかす事で企業を大きくした。
そこに政府が社会主義市場経済を保持しつづけファーウェイに投資したから
アメリカを超す大企業になり、アメリカが危機を感じ中国の商品を買わ
ないように言った。その理由として国家情報法を取り上げた.
しかし、それは事実ではないので裁判所が禁止を差し止めた。

「３」総括

現在起きている出来事をとりあげることにより、“これまでの歴史が現代をつくる”という学習目標には到達することはできたのではないかと感じた。他方で、生徒一人一人の「興味・関心」を促すために彼らの身近な出来事として捉えされることができなかったことと、彼らの考える力を押し上げるために必要な力を引き出すための働きかけが不十分だったことを反省している。

しかし、若い世代に注目が高い SNS のアプリに関する現代の問題などをとりあげ、互いに共有できる共通の関心を持つことで、テーマについて、自らの意見をまとめ発表するという学習目標は非常に良いクラスの環境の中で達することができたのではないかと感じた。その中でも、補助教材としてタブレットを使い問題の背景にある複雑な情報や歴史的要因などの情報をより正確に選別し探求するよう誘導するというこちら側の働きかけは、普段読み慣れていない「新聞」を読み進めるうえで非常に効果的だったと感じた。次年度以降も、タブレットを補助教材として積極的に活用していきたい。

（3）他教科（化学）での実践

［1］ 授業の概要

＜実践者＞ 玉元 大輔 教諭（理科、化学）

＜学習の目標＞

＊化学的な観点から、歴史的建造物の「赤」の発色のメカニズムを理解する。

＊首里城と「久志弁柄」に関する新聞記事の基本的な事項を要約する。

＊再建時に、再建前の色と違っても旧王国時代の塗料を使うべきか、また、文化財をめぐる細部への「こだわり」について、自らの意見を述べる。。

＜授業対象クラス＞ 2年生普通科 化学基礎選択者（3クラス） 2020年11月2日

＜使用新聞教材＞ 「首里正殿への「県産の赤」検討」、『沖縄タイムス』 2020年10月31日

［2］ 生徒の回答より

＜設問2：首里城の再建時には久志弁柄を採用してほしいですか？ 久志弁柄を用いた場合、首里城の外観など与える影響も含めて、100字以上でまとめなさい。＞

私は久志弁柄を採用してほしいです。
なぜなら琉球王国時代の首里城を見てみたいからです。
しかし焼失前と色味が異なるため首里城の印象が
変わってしまいます。
だけど私は、古文書を忠実に再現した首里城がみて
みたいので久志弁柄を採用してほしいです。

＜設問3：首里城の火災から1年が経ちますが、首里城や琉球の美術工芸品について、そのつくりやこだわりに対して、あなたの意見を書いてください。。＞

あまり詳しくはわからないけど、首里城の正殿の色使いにしても美術工芸品にしても、それぞれその色をだすにも大変な作業があり、その形にも思いが込められていると思うと、素てきだと感じました。その昔からの思いを受け継ぐためにも首里城復建を頑張ってほしいです。

首里城の正殿の赤色は3種類あることをはじめて知った。より首里城を美しくみせるために、昔の人は考えながらつくったのかと思うと、すごいなと思った。その昔の人たちが考えた首里城のデザインをできるだけ受け継いでいきたいなと思った。
いろんな課題と向き合いながらの再建はとても大変だけど、またきれいな首里城をみることができるといいなと思った。

首理城は一生消えない、いつでも見れるだろうなと勝手に思っていたから火災がおきたときはびっくりしたし、こんなにこだわってつくっていると思ってもいなかった。
今回の授業で首理城への関心が深まりました。

［3］ 総括

教科の特性を生かした着眼の授業であり、首里城焼失１年後、また「久志」という本校の通学区域に関連する記事を素材としていることから、生徒も身近に感じられたのではないかと思われる。

生徒の回答からも、これまでおそらく考えたことのないテーマについて、自分なりの言葉を紡ぎ出そうとしている様子が窺える。本校では、進路指導部が主導して、教科横断型授業の取り組みが行われているが、この授業も、それと軌を一にする面がある。いわゆる「社会科」にとどまらないこうしたNIEの取り組みは、新しい指導要領の下でも、重要な部分を占めていくものと想像される。

現在は各教諭の裁量で新聞記事の選定等が行われているため、同じテーマを異なる教科で重複して扱うことになる恐れもある。ただ、本校のような規模の学校であれば、相互の連絡調整でそうした問題は回避できるともいえる。他教科ともこれまで以上に連携して、高校の学びの中で社会の動きを日常的に扱う体制を作りたい。

７ 課題と展望

今年度は、「１．はじめに」で述べた課題意識をもとに、新聞記事をもとに社会的課題・問題に対する自己の見解・意見をできるだけ多くの人と交流させながら、他の人がどのような社会的課題や問題に興味・関心を持っているのかということを起点に自分の興味・関心や課題意識を相対化する作業を取り入れるようにしてみた。もちろん、その過程で、そうした課題意識や自己の見解・意見をよりわかりやすく伝える力の育成にもフォーカスした実践を意識した。最初は、ぎこちない部分もあったが、回数をこなしていくうちに、自己の見解や意見に対する肯定的な評価や意見を受け取ることで自信が持てるようになった生徒も増え、自己の見解や意見に対する意見（時には反論も含めて）をもらうことで、改めて自己の認識や考え・意見を問い直し、焼き直す作業を試みる様子も見られた。昨年度も同じようなことを書いたが、本校の生徒達、特に学力の上での下位層は、日常的に自分の考えや意見をまとめて話すことを不得手とすると同時に、その作業に対してかなり消極的な反応をすることが多い。これもこれまでの経験の積み重ねによるものであろうが、これまでの色々な学習経験や生活体験等から形づくられた意識なども影響しているその心理的な（ある意味、強固な）壁を、いかに揺り動かし、崩し、外部に心を自由に解放していくことができるようになるかどうかが、これからの学習の質の転化や学習意欲の自己展開において、非常に重要な鍵となる。このような変化が生徒に出ていることからも分かるように、NIE教育実践には、その可能性があるとあらためて意識させられた１年であった。あわせて、生徒達の進路実現に向けた学力をいかに向上させていくかという点で、「読みを深める力」、そして、それをもとにした「自分の考えや思いを“わかりやすく伝える”力」の育成においてもNIE教育実践が持つ魅力は非常に大きい。今後も、NIE教育実践のもつ魅力だけでなく、それらをもとに上記のような課題を持つ生徒達へのアプローチの方法を工夫し、より効果的で実践的な取り組みを進めていけるよう、４年間の実践内容を精査し、来年度以降も精力的にNIE教育に取り組んでいきたい。

最後に、これまで、この４年間、本校のNIE教育活動に支援を下さった多くの皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。【比嘉 啓信】

今年度は、意識して新聞を素材とする授業を構想してみたが、生徒の関心・意欲をうまく喚起できない

ままであった。総合的な学習の時間でも新聞切り抜きを用いた相互プレゼンテーションに取り組ませたが、これも生徒の活動を活性化させることができなかった。つまり、授業者が材料を与える形式でも、生徒が自ら材料を選ぶ形式でも、不首尾に終わったといえる。

スクロール・タップ・音声入力に長けた世代にとっての、新聞という媒体への馴染みのなさも原因の一つであると考える。この課題を解消するには、授業者として、より丁寧に新聞をどう読むかを教えることが必要であろうと感じているところである。

次年度は、新聞の中に現れる数量的なデータ、特にグラフや表に着目させて、「読む」「考える」「話す」活動ができないか、検討してみたい。【齊藤 憲】

今年度は単元の内容をより身近に感じさせることで、歴史に対する「興味・関心」を引き出すことを特に意識した。新聞教材を使い、各国の現代的な情勢を理解することがそれらを作る今までの歴史に対する見方や考え方などをあらゆる方向からより効果的に刺激することを予想していた。補助教材としてタブレット教材を使いより深い文章の内容理解にも努めたが、「新聞」を使うことが生徒の授業の中での活き活きとした活動を促す教材にはならなかった。それは授業者側が生徒に新聞を読むことの重要性や価値などを伝えることができていないからであろうと感じた。次年度は、新聞だけでなく web などにあふれるあらゆる情報などを用いて新聞とそれらを比較させながら、選別させることに力を入れていきたい。その活動を通して生徒自らの意思で新聞の価値を見つけてほしいと思う。【多和田　真士】

【沖縄県ＮＩＥ推進協議会組織（２０２０年度)】
＜会長＞　仲村守和（元沖縄県教育長）
＜副会長＞　与那嶺一枝（沖縄タイムス社編集局長）
松元剛（琉球新報社編集局長）
＜顧問＞　山内彰（元沖縄県教育長）
武富和彦（沖縄タイムス社代表取締役社長）
玻名城泰山（琉球新報社代表取締役社長）
＜ＮＩＥアドバイザー＞
甲斐崇（西原町教育委員会指導主事）
佐久間洋（恩納村立恩納小学校教頭）
國吉美穂（興南中・高等学校教諭）
松田美奈子（沖縄市立コザ中学校主幹教諭）
宮城英誉（名護市立大宮小学校教諭）
比嘉美保（沖縄県立桜野特別支援学校教諭）
宮城通就（沖縄県立辺土名高等学校教諭）
＜事務局長＞高良利香（琉球新報社編集局 NIE 推進室長）
※事務局は沖縄タイムス社と琉球新報社が２年交代で担当

＜会員社＞琉球新報社▷沖縄タイムス社▷宮古毎日新聞社（那覇支社）▷八重山毎日新聞（那覇支局）▷朝日新聞社（那覇総局）▷毎日新聞社（那覇支局）▷読売新聞社（那覇支局）▷日本経済新聞社（那覇支局）▷共同通信社（那覇支局）▷時事通信社（那覇支局）

【沖縄県ＮＩＥ運動の経過】
＜１９９６年（平成８年）＞
「沖縄県ＮＩＥ連絡会」結成
７月２５日　第１回ＮＩＥ全国大会（東京都）　。新聞社員２名、県教育庁指導主事２名が参加
＜１９９９年（平成１１年）＞
日本新聞教育文化財団によるＮＩＥ実践指定校に那覇市立松島小、同古蔵中、県立首里東高。※翌年以降の実践指定校は別紙一覧表に掲載
＜２０００年（平成１２年）＞
２月２６日　県ＮＩＥ連絡会を母体に「沖縄県ＮＩＥ推進協議会」設立総会。全国３３番目。初代会長に津留健二元教育長。事務局を沖縄タイムス社に設置
７月２７日　ＮＩＥ全国大会（神奈川県）参加
＜２００１年（平成１３年）＞
３月１６日　県ＮＩＥ推進協議会総会。津留会長再任

７月２６日 ＮＩＥ全国大会（兵庫県）参加
＜２００２年（平成１４年）＞
４月５日　県ＮＩＥ推進協議会総会。津留会長再任
８月１日　ＮＩＥ全国大会（北海道）参加
＜２００３年（平成１５年）＞
３月２７日　県ＮＩＥ推進協議会総会。会長に渡久地政吉元那覇市教育長。事務局を琉球新報社へ
７月３１日　ＮＩＥ全国大会（島根県）参加
＜２００４年（平成１６年）＞
７月　日本新聞教育文化財団が「ＮＩＥアドバイザー」制度を発足。県内から兼松力教諭が認定される
７月２９日　ＮＩＥ全国大会（新潟県）参加
＜２００５年（平成１７年）＞
３月２０日　「日本ＮＩＥ学会」が発足
４月２７日　県ＮＩＥ推進協議会総会。渡久地会長再任。事務局を沖縄タイムス社へ
７月２８日　ＮＩＥ全国大会（鹿児島県）参加
１１月７日　初めての「ＮＩＥ週間」実施
＜２００６年（平成１８年）＞
５月２５日　県ＮＩＥ推進協議会総会。渡久地会長再任
７月２７日　ＮＩＥ全国大会（茨城県）参加
＜２００７年（平成１９年）＞
県ＮＩＥ推進協議会総会。会長に山内彰元県教育長。事務局を琉球新報社へ
７月２６日　ＮＩＥ全国大会（岡山県）参加
１１月１０日　「沖縄県ＮＩＥ実践フォーラム」を初開催（琉球新報社で）
＜２００８年（平成２０年）＞
７月３１日　ＮＩＥ全国大会（高知県）参加
１１月８日　第２回県ＮＩＥ実践フォーラム開催（沖縄タイムス社で）
＜２００９年（平成２１年）＞
４月１７日　ＮＩＥ実践中間報告会（琉球新報社で）
５月９日　ＮＩＥワークショップ（琉球新報社で）
５月１８日　県ＮＩＥ推進協議会総会。山内会長再任。事務局を沖縄タイムス社へ
７月３０日　ＮＩＥ全国大会（長野県）参加
１０月３１日　第３回県ＮＩＥ実践フォーラム開催（琉球新報ホールで）
＜２０１０年（平成２２年）＞
３月５日　ＮＩＥ実践最終報告会（沖縄タイムス社で）
３月８日　山内会長、岸本沖縄タイムス社長、高嶺琉球新報社長らが県教育長を訪問し、

大城浩統括官にＮＩＥへの一層の理解と連携を要請

４月　財団指定の実践校「奨励枠」に県内から初めて北中城村立北中城小学校、宜野湾小学校（ともに０９年度指定）を推薦し、認定される

５月１４日　ＮＩＥワークショップ（沖縄タイムス社で）

６月１日　県独自指定校制度が発足。協議会が４校を指定し、沖縄タイムス・琉球新報２紙を提供開始。１０年度はうるま市立比嘉小学校、豊見城市立豊見城中学校（以上０９年財団指定校）、うるま市立石川中学校、与那原町立与那原中学校（以上新規）

６月５日　九州地区事務局長会議・アドバイザー会議（熊本市）に与那嶺功事務局長、兼松力アドバイザー出席

６月２９日　県ＮＩＥ推進協議会総会。山内会長再任

７月２９日　ＮＩＥ全国大会（熊本県）参加

１１月６日　第４回県ＮＩＥ実践フォーラム開催（沖縄タイムス社で）。教育関係者、保護者ら２００人が参加した。越来小が国語の公開授業。記念講演は作家の大城貞俊さん（琉球大学准教授）。兼松力教諭（ＮＩＥアドバイザー）、古波津聡越来小教諭、山城銀子小禄南小校長、奥村敦子沖縄タイムス社学芸部デスク、佐藤ひろこ琉球新報社教育担当キャップをパネリストに、佐久間洋宜野湾小教諭をコーディネーターにシンポジウム「新学習指導要領とＮＩＥ」を行った

＜２０１１年（平成２３年）＞

２月９日　日本新聞教育文化財団の枝元一三コーディネーターを招いた特別講演会「新学習指導要領とＮＩＥ」（主催＝読谷中、喜名小、共催＝県ＮＩＥ推進協議会）を読谷中学校体育館で開催。村内の教職員ら約１２０人が参加した

２月１０日　金武正八郎県教育長に要請活動。山内会長、中根学沖縄タイムス社編集局長、玻名城泰山琉球新報社編集局長、兼松アドバイザーらがＮＩＥ活動への理解と協力を要請した

４月　２０１０年６月にパイロット事業としてスタートした沖縄タイムス社と琉球新報社による県指定校制度の継続を確認。５校を上限に指定予定

６月１７日　県ＮＩＥ推進協議会総会。事務局が琉球新報社へ

７月２４日　ＮＩＥ全国大会（青森県）。教師・事務局１３人、取材記者４人が参加

８月２日　ＮＩＥアドバイザー就任要請。山内会長らが４校訪問

９月１４日　日本新聞協会ＮＩＥ専門部会で仲程俊浩氏、佐久間洋氏、甲斐崇氏のＮＩＥアドバイザー認定が了承される

１０月１７日　日本新聞協会主催「第２回いっしょに読もう！新聞コンクール」の地域審査（琉球新報社で）

１１月１２日　第５回県ＮＩＥ実践フォーラム（那覇市立小禄南小学校で）。全２６学級で公開授業。保護者６００人を含む７５０人が参加

１２月１０日　県中学校総合文化祭。中学生が速報発行、両新聞社が支援。ＮＩＥ展示ブ

ースも設置。１１日まで
＜２０１２年（平成２４年）＞
２月１５日　大城浩県教育長を訪問（山内会長、アドバイザー、両新聞社編集局長）。夏休みの短期講座の開催、全国大会への職員派遣を確認
３月５日　ＮＩＥ実践最終報告会（琉球新報社で）
４月２１日　県ＮＩＥ研究会発足。教員主体の研究組織を目指す。当面、新聞社主催の講座に合わせて会合を開く
６月２２日　県ＮＩＥ推進協議会総会。地元２社の会費の増額を承認（６万円から１０万円に）。他の加盟社の会費増額は次年度総会までに議論することにした
７月３０日　ＮＩＥ全国大会（福井県）参加。県教育庁から職員３人が参加
７月・８月　県立総合教育センターで初の教員向け研修。７月２７日に短期研修講座・小学校社会科講座の一部として佐久間アドバイザーが講師。８月３日は中学校社会・高校地歴公民講座の一部として兼松アドバイザーが講師
１１月３日　第６回県ＮＩＥ実践フォーラム（うるま市立中原小学校で）。県教育委員会、うるま市教育委員会の後援を得た。特別支援を含む全学年全学級で公開授業を行い、保護者や教育関係者、新聞関係者計８００人が来場した。教師向け、保護者向けのワークショップ（分科会）も開催し、兼松・佐久間・甲斐アドバイザーが講師
＜２０１３年（平成２５年）＞
１月２０日　教師向けメーリングリスト開設
２月２０日　大城浩県教育長を山内会長らが訪問。全国大会への職員派遣、行政主催の研修へのＮＩＥ採用に謝意を述べた
３月６日　実践報実践報告会（琉球新報社で）。協会指定、県指定１０校のうち９校が報告した
４月　県立総合教育センターの出前講座にＮＩＥが開設。甲斐崇研究主事（ＮＩＥアドバイザー）が担当して校内研修や児童生徒の授業に対応開始
５月１１日　教師向け研修会「第１回おきなわＮＩＥセミナー」開催。昨年度まで新聞社主催だった講座を推進協主催に。原則として偶数月に開催する
５月２４日　県ＮＩＥ推進協議会総会。会費、会則の変更を了承。会費は地元２社１０万円から１５万円に、全国紙４社３万円から４万円に、通信社２社１万円から３万円に、宮古・八重山２社３万円据え置き。役員では副会長を１名から２名とし、地元紙２社の編集局長を充て、任期を１年から２年とした。再任を妨げないことは従来通り。事務局が沖縄タイムス社へ
７月２５日　ＮＩＥ全国大会（静岡県）参加。県教育庁が前年に続いて職員を派遣し、県内の教育関係者、新聞社関係者らが参加
７月３０日　金武町教育委員会が主催する教員研修に４人のＮＩＥアドバイザーを派遣
８月１３日　県中頭教育事務所が主催する１０年経験者研修の選択研修でＮＩＥが取り

入れられ、２０人が受講。推進協に講師派遣依頼があり、兼松、佐久間両アドバイザーが校種に分かれて講師を務めた

１１月３０日　第７回実践フォーラム（県立総合教育センターで）。沖縄市立コザ小学校の４年生、５年生が公開授業。パネルディスカッションは実践校の教員、県教育行政、教育センターからパネリスト・コーディネーターを招いて議論を深め、新聞社による新聞解育センターからパネリスト・コーディネーターを招いて議論を深め、新聞社による新聞解説・ワークショップもあった。約１５０人が参加。※古波津聡沖縄市立コザ小学校教諭が５人目のＮＩＥアドバイザーに承認

＜２０１４年（平成２６年）＞

２月６日　山内彰会長、玻名城泰山琉球新報社取締役編集局長、武富和彦沖縄タイムス山内彰会長ら７人が県教育庁に諸見里明県教育長を表敬訪問

３月４日　実践報告会（沖縄タイムス社）１２校が発表。ほか２校が紙面発表。県指定校の拡大にともない、過去最大の報告校数になった

５月２４日　九州アドバイザー・事務局長会議を沖縄で開催（沖縄タイムス社）。沖縄からは推進協発足の経緯やフォーラム開催などの活動報告、教育センターにＮＩＥ出前講座が盛り込まれたことなどを報告

６月２８日　６月のおきなわＮＩＥセミナーから、セミナー開催前の午前中に実践教員に呼び掛けて「研究部会」を開催。それぞれの実践を持ち寄り、情報交換

７月３１日　ＮＩＥ全国大会（徳島県）参加。８月１日まで

１１月１日　第８回実践フォーラム（県立総合教育センターで）興南中学校の国語の公開授業、授業研究会を行った。約５０人が参加

＜２０１５年（平成２７年）＞

２月１３日　山内彰会長、副会長の武富和彦沖縄タイムス社取締役編集局長、潮平芳和山内彰会長、兼松アドバイザー、佐久間アドバイザーが県教育庁に諸見里明県教育長を表敬訪問

３月２日　実践報告会（沖縄タイムス社）日本新聞協会指定のうち、指定最終年の名護実践報告会（沖縄タイムス社）日本新聞協会指定のうち、指定最終年の名護市立真喜屋小、興南中学・高校、那覇市立小禄南小から報告を受け、３グループに分かれて報告の内容や日頃の実践について意見交換

５月１９日　県ＮＩＥ推進協議会総会。事務局が琉球新報社へ

６月２５日　山内彰会長、甲斐崇ＮＩＥアドバイザーらが北中城村教育委員会に森田孟則教育長らを訪問。地域連携型のＮＩＥ の推進について意見交換

６月２７日　ＮＩＥ研究部会を開催。佐久間洋ＮＩＥアドバイザー、松田美奈子美東中教諭が記事を使った道徳の授業について実践報告。１５年度から研究部会の開催を定例化し、教員らの実践内容の共有、意見交換の場とすることを確認した

７月３０日　第２０回ＮＩＥ全国大会（秋田県）に、山内彰会長ら教育関係者７人と新聞

社関係者９人の計１６人が参加。「『問い』を育てるＮＩＥ思考を深め、発信する子どもたち」をテーマにしたパネル討論や公開授業、実践発表などを通して論理的思考力など「２１世紀型学力」とＮＩＥの取り組みを学んだ

９月９日　日本新聞協会ＮＩＥアドバイザーに、新たに石川美穂興南高教諭、松田美奈アドバイザーに、新たに石川美穂興南高教諭、松田美奈子美東中教諭が認定

１１月１２日　日本新聞協会実践指定校の那覇市立城北小学校が１１月のおきなわＮＩＥ月間に合わせ、４年（総合学習）、５年（道徳）、６年（国語）の公開授業を同校で行った

１１月２６日　第６回「いっしょに読もう！新聞コンクール」（日本新聞協会主催）で、小学生部門の最優秀賞に北中城小６年の瀬底蘭さんが選ばれた。同コンクールの最優秀賞は県内初。奨励賞３人、優秀学校賞に大里南小が選ばれた

＜２０１６年（平成２８年）＞

２月１６日　山内彰会長、潮平芳和琉球新報編集局長、武富和彦沖縄タイムス編集局長の両副会長らは県教育庁に諸見里明県教育長を表敬訪問。教育行政とのさらなる連携を確認した。いっしょに読もう！新聞コンクール最優秀賞の瀬底蘭さんの受賞も報告した

３月１日　２０１５年度の実践報告会を琉球新報社で開催。日本新聞協会ＮＩＥ実践校のうち本年度で実践期間が終了する城北小、大里南小、興南中・高校がこれまでの取り組みや成果を報告した

５月２８日　県ＮＩＥ推進協議会総会

６月１８日　ＮＩＥ研究部会を「ＮＩＥカフェ」として、ケーキやコーヒーの出る飲食店で開催した。原則毎月第３土曜日の午後２時から開催し、教員が参加しやすい環境にした

８月４日　第２１回ＮＩＥ全国大会（大分県）に、山内彰会長ら教育関係者９人と新聞社関係者が参加。パネル討論や公開授業を通し、大分や各地の事例や手法などに理解を深めた

１１月４日　県ＮＩＥ実践フォーラム２０１６（沖縄市立室川小学校で）。おきなわＮＩＥ月間（県教育委員会後援）の中心行事として開催。２、３、６学年（計３クラス）の公開授業や全体会を行った。約１２０人が参加

１２月１０日　第２２回県中学校総合文化祭で中学生が速報を発行し、両新聞社が支援した。ＮＩＥ展示コーナーも設置し、実践校や新聞社の活動を紹介。１１日まで

＜２０１７年（平成２９年）＞

３月１日　実践報告会（琉球新報社）日本新聞協会指定のうち、指定最終年の室川小、県立森川特別支援学校が報告発表を行った

４月２０日　山内彰会長、副会長の普久原均琉球新報社編集局長、石川達也沖縄タイム**ス社編集局長、**佐久間アドバイザー、石川アドバイザーらが県教育庁に平敷昭人県教育長を表敬訪問

５月２６日　県ＮＩＥ推進協議会総会。共同通信社の会費増額を承認（３万円から４万円に）。事務局が沖縄タイムス社へ

５月２７日　本年度最初のおきなわＮＩＥセミナー。新聞協会主催の「いっしょに読もう

新聞コンクールを授業に組み込む」(佐久間アドバイザー)。その後、6月はこども新聞沖縄戦特別版の活用方法（松田アドバイザー)、１１月は「はがき新聞作り」(プール学院大学の今宮信吾准教授)、２月に「NIE 年間計画の立て方」(石川アドバイザー）を行った

８月３、４日　ＮＩＥ全国大会名古屋大会に山内彰会長、蔵根美智子前室川小校長、松田美奈子アドバイザー、金城治・県立総合教育センター研究主事、宮城英誉・緑風学園教諭、比嘉美保・森川特支教諭、内山直美・糸満中教諭、地元新聞社員が参加した

１２月９、１０日　「第２３回県中学校総合文化祭」(沖縄市民会館など）で、沖縄タイムス、琉球新報の移動編集車両（ワラビーＧＯ！、りゅうちゃん号）を活用し、大会の速報作りを行った。速報作りには糸満中、美東中の生徒が記者として参加し、新聞社が指導した

＜２０１８年（平成３０年）＞

１月１７日　名護市教育委員会の後援を得て、実践指定校の同市立小中一貫教育校緑風学園で NIE 実践フォーラムを開催。朝の NIE フリートーク再現、５年生の社会、１年生と８年生（中学２年）合同の国語の３本の授業を公開。小中一貫校らしい異学年の学びの蓄積を他校教員、保護者らに見せた。学校の取り組みを振り返る全体会も行った

３月８日　２０１７年度の実践報告会を那覇市の沖縄タイムス社で開催した。日本新聞協会指定のうち、指定最終年の高原小、美東中、興南高校が報告発表を行った。その後、他の指定校の代表者が３グループに分かれ、報告への質疑、実践交流を行った

５月１０日　緑風学園の宮城英誉教諭がＮＩＥアドバイザーに認定。北部地区での教師ネットワークづくりへ

５月２６日　６年目の「おきなわＮＩＥセミナー」スタート。この日は「話す力・書く力を育てる指導法」をテーマに佐久間洋、宮城英誉両アドバイザーが講師。その後、６月「切り抜き新聞」(甲斐崇アドバイザーがメイン講師)、１２月「はがき新聞」(講師は桃山学院学院教育大学の今宮信吾准教授）を行った

５月３１日　県ＮＩＥ推進協議会総会。会長に仲村守和元県教育長を選出。山内彰会長は顧問に就任。６月４日に新旧会長が平敷昭人県教育長を訪問した

７月２６、２７日　ＮＩＥ全国大会岩手大会に宮城英誉アドバイザー、比嘉美保桜野特別支援学校教諭、宮城通就宜野座高校教諭、蔵根美智子放送大学沖縄学習センター客員准教授、地元新聞社員が参加した

８月４日　実践資料集（仮称）制作のため、編集委員会を結成し、８、９、１０、翌年１月に会議。編集作業を進めた

１０月９日　県教育庁の県立学校教育課、義務教育課から各１人の指導主事を推進協のの幹事に任命

１１月８日　比嘉美保桜野特別支援学校教諭がＮＩＥアドバイザーに承認された

１１月１２日　糸満市立糸満中学校でＮＩＥ実践フォーラム開催。数学、英語、国語、理科で公開授業を行った

１２月８、９日　「第２４回県中学校総合文化祭」(うるま市民芸術劇場など）で、沖縄

タイムス、琉球新報の移動編集車両で大会の速報作りを行った。速報作りには糸満中、美東中の生徒が記者として参加し、新聞社が指導した

＜２０１９年（平成３１年）＞

１月７、１１日　仲村守和会長が沖縄タイムス社、琉球新報社の社長を訪ね、学校への購読料軽減措置を要請。７日には平敷昭人県教育長を訪ね、学校図書館への新聞配備状況の調査を要請した

３月１５日　２０１８年度の実践報告会を那覇市のてぃるるで開催した。日本新聞協会指定のうち、指定最終年の糸満中、宜野座高校が報告発表を行った。その後、他の指定校の代表者が３グループに分かれ、報告への質疑、実践交流を行った

４月６日　ＮＩＥカフェ開催。４月２０日、７月、９月、翌年２月、３月とアドバイザーの先生たちと実践と実践資料集（仮称）の編集会議を開催

５月７日　県立辺土名高校の宮城通就教諭が日本新聞協会のＮＩＥアドバイザーに承認された。

５月２５日　７年目の「おきなわＮＩＥセミナー」がスタート。「簡単にできるＮＩＥ入門編」（宮城英誉教諭が講師）を行った。その後６月２９日に「簡単にできるＮＩＥ～特別支援教育向けと他校種への応用」（比嘉美保教諭が講師）、１０月１９日に「時事カルタ」（宮城通就教諭）のセミナーを実施した。１１月２日は、桃山学院教育大の今宮信吾准教授によるよる「はがき新聞づくり」ををセミナーの一環として開いた

５月２９日　沖縄県ＮＩＥ推進協議会総会開催

５月３１日　仲村守和会長ら３役が沖縄県教育庁を訪れ、県立学校教育課の石垣真仁指導主事と義務教育課の山内かおり指導主事の２人を沖縄県ＮＩＥ推進協議会の幹事に任命

８月１、２日　ＮＩＥ全国大会栃木大会に、仲村守和会長、宮城英誉アドバイザー、佐久間洋アドバイザー、宮城通就アドバイザーと実践指定校の古堅南小学校から教諭１１人、藏根美智子放送大学学習センター客員准教授、地元新聞社員が参加した。

１１月１２日　読谷村立古堅南小学校でＮＩＥ実践フォーラムを開催。２年、３年、５年の公開授業のほか、秋田大学大学院特別教授の阿部昇氏の講演会も実施

１２月７日　「第 10 回いっしょに読もう！新聞コンクール」の初の地域表彰式を那覇市の琉球新報社で開催。

１２月７、８日　第２５回沖縄県中学校総合文化祭（浦添市のアイム・ユニバースてだこホールなど）で、琉球新報、沖縄タイムスの両社がそれぞれ移動編集車両で大会の速報作り作りに協力した

＜２０２０年（令和２年）＞

１月７、８日　仲村守和会長が琉球新報、沖縄タイムスの両社の社長を訪ね、学校への購読料軽減措置を要請。また平敷昭人教育長を訪ね学校図書館への新聞配備を要望した

６月２日　仲村守和会長、与那嶺一枝副会長、松元剛副会長が金城弘昌県教育長を表敬訪問。県立学校教育課の石垣真仁指導主事、義務教育課学力向上推進室の平良一指導主事を幹

事に任命した。

６月１６日　県ＮＩＥ推進協議会総会開催。仲村守和会長の再任、山内彰顧問の再任が承認された。

６月　「すぐに活用できるＮＩＥ授業実践資料」が完成。県内の全小中高校、特別支援学校のほか、教育委員会など関係機関に配布した。

１１月２２日　ＮＩＥ全国大会東京大会。新型コロナウイルス感染拡大のため、初のオンライン開催となった。

１２月１９日　「いっしょに読もう！新聞コンクール」地域表彰式を琉球新報本社で開催。全国奨励賞５人、地域表彰６人のうち、８人が出席した。

１月２０日　実践校の一つである糸満中学校で「沖縄県ＮＩＥ授業研究会」開催。校内研修として４教科の公開授業が行われ、アドバイザーが参加し助言を行った。

３月９日　ＮＩＥ実践報告会を琉球新報本社で開催。日本新聞協会指定の２年目の実践校４校がオンラインで発表した。

４月　沖縄県ＮＩＥ推進協議会のサイト開設。

沖縄県内の実践指定校一覧

＜２０２０年度＞

【日本新聞協会指定】▽石垣市立大浜小学校▽浦添市立牧港小学校▽石垣市立崎枝小中学校▽糸満市立糸満中学校▽県立具志川高校▽ヒューマンキャンパス高等学校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】名護市立久辺小学校▽恩納村立恩納小学校▽与那国町立与那国小学校▽名護市立小中一貫教育校緑風学園▽沖縄市立コザ中学校▽興南中・高校▽沖縄県立宜野座高校

＜２０１９年度＞

【日本新聞協会指定】読谷村立古堅南小学校▽名護市立久辺小学校▽石垣市立大浜小学校▽浦添市立牧港小学校▽石垣市立崎枝中学校▽県立具志川高校▽ヒューマンキャンパス高等学校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】沖縄市立比屋根小学校▽名護市立小中一貫教育校緑風学園▽沖縄市立高原小学校▽うるま市立川崎小学校▽糸満市立糸満中学校▽沖縄市立コザ中学校▽沖縄県立宜野座高校

＜２０１８年度＞

【日本新聞協会指定】うるま市立川崎小学校▽糸満市立糸満中学校▽県立宜野座高校▽読谷村立古堅南小学校▽名護市立久辺小学校▽浦添市立仲西小学校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】沖縄市立比屋根小学校▽沖縄市立美東中学校▽興南中学校▽名護市立小中一貫教育校緑風学園▽伊平屋村立伊平屋小学校▽那覇市立城北小学校▽石垣市立石垣小学校▽沖縄市立室川小学校▽沖縄市立高原小学校

＜２０１７年度＞

【日本新聞協会指定】沖縄市立高原小学校▽名護市立小中一貫教育校緑風学園▽沖縄市立美東中学校▽興南高校▽うるま市立川崎小学校▽糸満市立糸満中学校▽県立宜野座高校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】沖縄市立比屋根小学校▽伊平屋村立伊平屋小学校▽那覇市立城北小学校▽石垣市立石垣小学校▽名護市立久辺小学校▽久米島町立久米島小学校▽渡嘉敷村立渡嘉敷中学校▽沖縄市立室川小学校▽県立森川特別支援学校

＜２０１６年度＞

【日本新聞協会指定】沖縄市立室川小学校▽宮古島市立福嶺小学校▽興南高校▽県立森川特別支援学校▽沖縄市立高原小学校▽名護市立小中一貫教育校緑風学園▽沖縄市立美東中学校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】沖縄市立比屋根小学校▽伊平屋村立伊平屋小学校▽那覇市立城北小学校▽石垣市立石垣小学校▽名護市立久辺小学校▽宮古島市立西辺小学校▽久米島町立久米島小学校▽八重瀬町立具志頭中学校▽渡嘉敷村立渡嘉敷中学校

＜２０１５年度＞

【日本新聞協会指定奨励枠】興南中学校・高校【日本新聞協会指定通常枠】南城市立大里南小学校▽那覇市立城北小学校▽沖縄市立北美小学校▽宮古島市立福嶺小学校▽沖縄市立室川小学校▽県立森川特別支援学校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】南城市立大里中学

校▽沖縄市立比屋根小学校▽伊平屋村立伊平屋小学校▽石垣市立石垣小学校▽沖縄アミークスインターナショナル▽宜野座村立松田小学校▽那覇市立小禄南小学校

＜２０１４年度＞

【日本新聞協会指定奨励枠】那覇市立小禄南小学校【日本新聞協会指定通常枠】名護市立真喜屋小学校▽興南中学校・高校▽南城市立大里南小学校▽北谷町立浜川小学校▽那覇市立城北小学校▽石垣市立伊野田小学校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】南城市立大里中学校▽沖縄市立比屋根小学校▽沖縄市立コザ小学校▽那覇市立城北中学校若夏分校▽伊平屋村立伊平屋小学校▽石垣市立宮良小学校▽県立泊高校▽沖縄アミークスインターナショナル▽宜野座村立松田小学校▽宮古島市立平良中学校

＜２０１３年度＞

【日本新聞協会指定奨励枠】那覇市立小禄南小学校▽沖縄市立越来小学校【日本新聞協会指定通常枠】うるま市立中原小学校▽沖縄市立コザ小学校▽沖縄アミークスインターナショナル▽名護市立真喜屋小学校▽恩納村立喜瀬武原小中学校▽興南中学校▽県立陽明高校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】南城市立大里中学校▽那覇市立城北中学校若夏分校▽北谷町立浜川小学校▽伊平屋村立伊平屋小学校▽石垣市立伊野田小学校▽石垣市立宮良小学校▽県立沖縄工業高校

＜２０１２年度＞

【日本新聞協会指定奨励枠】那覇市立小禄南小学校▽沖縄市立越来小学校【日本新聞協会指定通常枠】うるま市立中原小学校▽沖縄市立コザ小学校▽沖縄アミークスインターナショナル【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】南城市立大里中学校▽豊見城市立豊見城中学校▽北谷町立浜川小学校▽伊平屋村立伊平屋小学校▽石垣市立伊野田小学校

＜２０１１年度＞

【日本新聞協会指定奨励枠】宜野湾市立宜野湾小学校▽北中城村立北中城小学校【日本新聞協会指定通常枠】那覇市立小禄南小学校▽沖縄市立越来小学校▽うるま市立勝連小学校▽宜野座村立漢那小学校▽読谷村立喜名小学校▽読谷村立読谷中学校▽県立真和志高校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】与那原町立与那原中学校▽豊見城市立豊見城中学校

＜２０１０年度＞

【日本新聞教育文化財団指定奨励枠】宜野湾市立宜野湾小学校▽北中城村立北中城小学校【日本新聞教育文化財団指定】那覇市立小禄南小学校▽沖縄市立越来小学校▽うるま市立勝連小学校▽宜野座村立漢那小学校▽読谷村立喜名小学校▽読谷村立読谷中学校▽県立真和志高校【沖縄県ＮＩＥ推進協議会指定】うるま市立比嘉小学校▽与那原町立与那原中学校▽うるま市立石川中学校▽豊見城市立豊見城中学校　※年度末で日本新聞教育文化財団が日本新聞協会と合併

＜２００９年度＞

※これ以前はすべて日本新聞教育文化財団指定▽那覇市立さつき小学校▽那覇市立古蔵中学校▽うるま市立比嘉小学校▽うるま市立高江洲中学校▽宜野湾市立宜野湾小学校▽北

中城村立北中城小学校▽豊見城市立豊見城中学校
＜２００８年度＞
　那覇市立さつき小学校▽那覇市立古蔵中学校▽うるま市立比嘉小学校▽うるま市立高江洲中学校▽宜野湾市立宜野湾小学校▽北中城村立北中城小学校▽豊見城市立豊見城中学校
＜２００７年度＞
　那覇市立銘苅小学校▽名護市立大宮小学校▽糸満市立三和中学校（注１）▽那覇市立石嶺中学校▽うるま市立石川中学校▽沖縄三育中学校　（注１）座間味村立慶留間小中学校から実践者異動による実践校の変更
＜２００６年度＞
　那覇市立銘苅小学校▽名護市立大宮小学校▽座間味村立慶留間小中学校▽那覇市立石嶺中学校▽うるま市立石川中学校▽沖縄三育中学校▽県立向陽高校（注２）▽県立南風原高校（注２）　（注２）実践者の休職などによる指定中止
＜２００５年度＞
　浦添市立当山小学校▽座間味村立座間味小中学校▽那覇市立小禄中学校▽那覇市立上山中学校▽県立浦添商業高校
＜２００４年度＞
　浦添市立当山小学校▽座間味村立座間味小中学校▽那覇市立小禄中学校▽那覇市立上山中学校▽県立那覇高校▽県立浦添商業高校
＜２００３年度＞
　那覇市立城北小学校▽沖縄市立室川小学校▽琉球大学教育学部附属中学校▽沖縄尚学高校附属中学校▽県立那覇高校▽県立辺土名高校
＜２００２年度＞
　那覇市立城北小学校▽沖縄市立室川小学校▽琉球大学教育学部附属中学校▽沖縄尚学高校附属中学校▽県立中部商業高校▽県立辺土名高校
＜２００１年度＞
　豊見城村立とよみ小学校▽沖縄カトリック小学校▽平良市立西辺中学校▽東風平町立東風平中学校▽県立中部商業高校▽県立浦添高校
＜２０００年度＞
　豊見城村立とよみ小学校▽沖縄カトリック小学校▽平良市立西辺中学校▽東風平町立東風平中学校▽県立首里東高校▽県立浦添高校
＜１９９９年度＞
　那覇市立古蔵中学校▽那覇市立松島小学校▽県立首里東高校

第25回NIE全国大会 東京からオンライン配信

コロナ禍 人々つなぐ新聞

「第25回NIE全国大会」（日本新聞協会主催）が22日、東京都内からオンライン配信で開かれた。大会スローガンは「ともに生きる　新聞でつながる」。新型コロナウイルスの感染拡大で他者と関わる機会が減り、物理的にも心理的にも距離感が広がる中、情報の基盤として人々をつなぐ新聞の役割を確認した。多角的な情報に触れて活用することで、子どもたちの課題解決能力を育てる教育実践も紹介された。来年の全国大会は9月に札幌市で予定されている。

講演・シンポジウム　課題解決の一助に

シンポジウムでパネリストを務めた（左から）小髙隆・真山仁氏、文部科学省視学官・大滝一登氏、愛知教育大教授・土屋忠志氏、都立青山高主幹教諭・水本智香子氏、足立区立西新井小教諭・城島徹氏、司会を務めた日本新聞協会NIEコーディネーター・関口修司氏＝22日、日本新聞協会

記念講演で小説家の真山仁さんは、東京大学や中高一貫の難関進学校で、学生や生徒に勉強会や講演をした経験を基に新聞の意義について話した。

真山さんは学生らが新聞を読まず、自分と意見が違う人たちがSNS（会員制交流サイト）に転載している記事のみで自分の価値判断を追認してもらい、安心感を得ている現状を説明。「紙の新聞は見出しの大きさや順番で、どの記事が大事かが分かる。それを見て多くの若者は、自分の余然知らないところで世の中が動いていることに初めて気付く」と指摘した。

その上で「社会で起きている事実をベースにしない意見は言えない。自分がなぜそう思うか、裏付けは何なのか、客観的な事実に基づき判断できるようにしなければならない」と述べた。

続いて教育現場で新聞を活用している教諭らが参加し、「ウィズコロナ時代にNIEで培う力」をテーマに日本NIE学会と全国大会の共同シンポジウムが行われた。

東京都立青山高校の本松宏志主幹教諭は、物資の不足などを例に、「持続可能な言語能力の育成」をテーマに報告した。

休校で始まった新年度に2度のスクラップ作成授業をした足立区立西新井小学校の水木智香子教諭は「子どもたちは意欲的に記事を選んでいた。もっと記事を読みたい、友達が選んだ記事を知りたいという気持ちが伝わってきた。実践を積み重ねることで学びに向かう力が着実に育つと感じた」と述べた。

日本NIE学会副会長の土屋忠志愛知教育大教授は学会報告から、小中高校生の新聞への接触度は低いが、信頼度は他メディアに比べ圧倒的に高いと指摘。「その理由を高校生は、テレビやネットが新聞を引用しているからと分析していた。新聞が質の高い情報を届けようとしている仕組み自体を学ぶことも重要になってくる」と新聞界と教育界の連携を求めた。

文部科学省初等中等教育局の大滝一登視学官は、今年4月からの学習指導要領が「主体的・対話的で深い学び」を掲げたことを踏まえ、「新聞の新鮮な情報を通じ、子どもたちの対話が自然に生まれていくのではないか」と述べ、新聞を授業の教材の一つとして活用する必要性を強調した。

「知らない」自分を知る ■ 読み比べ 多面的な見方

小説家 真山仁さん講演

疑問 想像力のきっかけに

新聞への不信感は深刻だと感じる。中高生と話した時、役所の広報があるからメディアはいらないと言われ、驚愕した。新聞は偏っていると言う大学生と話すと、読みもせず先入観で判断していた。感覚が近い人とSNS（会員制交流サイト）でニュースを共有し、自分が信じることを追認するものが正しいと信じる学生が増えている。

新聞を読む理由は、できるだけ事実に基づき、一方的でない反対意見も書かれているから。自分たちが複雑な社会について、知らなければならないことを知る努力をしていないと気付くはずです。

できることは、新聞に書いてあることがどこまで本当か疑うこと。これは新聞はうそだと思うこととは違う。新聞は知らないことを知り、疑問を感じるきっかけになる。疑う目や想像力を喚起しながら読む力を養うには、アガサ・クリスティを読んでほしい。平易な言葉にわながあり、文字は反すうして考えられる。

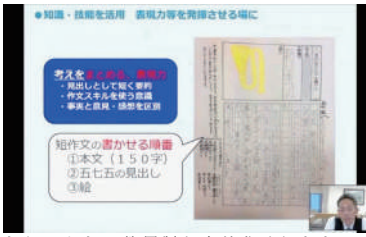
社会や未来のヒントは新聞にある。読んで分からなくても、どういうことかと疑う想像力を持ってもらえるようにすることが大切だと思います。

まるまる・じん　1962年大阪府生まれ。作家。新聞記者、フリーライターを経て、2004年に企業買収を描いた「ハゲタカ」でデビュー、ベストセラーに。社会問題を問う小説を多数手掛け、著書に「黙示」「売国」「神域」など。

分科会

短文の指導 新聞作りに生かす

小学校



150字の短作文ワークシートを示し、実戦を報告する堀口友紀主幹教諭の動画

江戸川区立篠崎小学校の堀口友紀主幹教諭は、前任校での実践も合わせ「持続可能な言語能力の育成」をテーマに報告した。

実践を①体系的な書く指導②語彙を増やす③書くことに慣れる―に分けて報告。1年生から12音（文字）日記、俳句・川柳、80字絵日記と徐々に書く量を増やしている様子を児童が書いたワークシートで示した。語彙は、毎週の俳句作りで季語を知り、関連する語も学ぶことで増やしているとした。

日常的に書く取り組みでは、毎週の校長講話（放送）の内容を150文字にまとめ、見出し風に五七五に要約するワークシートを紹介。慣れてくるとまとめは5分、五七五は1分でできるようになるという。

これらの指導で培った書く力を、行事の振り返りや学習成果を整理するため年間を通して取り組む新聞作りに生かしている。自分で書いた文の大切な部分に線を引き、数字や場所、名前など具体的な言葉を8～12文字に抜き出して見出しにするように指導。新聞作りを通して、制限された字数にまとめたり、優先順位をつけるなど、情報を整理する力に結び付けている。

堀口主幹教諭は、作った俳句を披露し合うことで自己肯定感や制作意欲が向上していると「新聞作り、短作文が児童を変えている」と児童の成長の過程を報告した。

コロナ題材 表現する力育てる

中学校

新型コロナウイルスについて、新聞記事を見ながら話し合う世田谷区立船橋希望中の生徒

世田谷区立船橋希望中学校は、新聞を使って新型コロナウイルスについて考える2年生の授業の様子を録画し、公開した。教科は世田谷区独自の「日本語」。深く考える能力やコミュニケーション能力を育成するのが狙いだ。

授業は2時間構成。1時間目は、新聞記事から感染の広がりや校内、マスクの転売、10万円給付スタートといった社会の動きを振り返った。

生徒は自分の気持ちを書き出し、班ごとに共有。「ウイルスのことを知らなかったが、だんだん怖くなった」「退屈だった」「新聞作り、短作文が児童を変えている」と児童の成長の過程を報告した。

2時間目は、身近に感染者が出た場合を想定し、生徒にどのように感じるか考え演じさせた上で、「偏見や差別の怖さについて、担当した末松歩教諭が説明した。

情報を正しく判断するメディアリテラシーの要素も織り込み、医療従事者の家族への差別を扱った記事と、医療従事者への感謝のメッセージを取り上げた記事の両方を紹介。末松教諭が「君たちはこれからどうしますか」と問いかけ、授業を結んだ。

終了後、生徒からは「あらためてコロナの怖さが分かった」「根拠のある情報を見つけて、生かしたい」「正しい知識を持って、正しい行動を取りたい」といった感想が出ていた。

世界とのつながり 理解深める

高校

授業で新聞を読みながら話し合う東京都立田柄高校の生徒＝2019年（高橋伸明教諭提供）

外国にルーツを持つ生徒と一緒に、新聞を通して世界とのつながりを考える授業に東京都立田柄高校で取り組んだ高橋伸明教諭（現都立新宿高校）。戦争や持続可能な開発目標（SDGs、ジェンダーなど1年間で6テーマを設け、知識や思考力、表現力が身に付けようにと工夫した。

生徒の3割以上が外国にルーツがあり、多国籍な生徒が通う田柄高校。高橋教諭が2年生を対象に調査したところ、多くの生徒は、インターネットや映像に利便性や分かりやすさを感じていた。

そこで授業冒頭はまず動画を活用、戦争に関する授業では核兵器の映像を視聴した。また、生徒が「日本の課題」としてテーマに選んだ男女平等やジェンダーの授業では、ノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさんや俳優のエマ・ワトソンさんの国連でのスピーチを聞き、関心を高めた。

その後、新聞を使って当事者の話や数字などのデータ、関連する記事を読み込んだ。生徒が事実と自分の考えを分けて整理し、他の生徒と話し合いながら理解を深められるよう促した。

高橋教諭は、新聞をきっかけにさまざまな対話が生まれ「世界を映す鏡としての新聞から生徒が社会の課題を探すようになり、助け合いながら学ぶようになっていった」と取り組みを振り返った。

各校に担当者 講義や研修会

行政

特別分科会の「行政を挙げたNIE活動の紹介」の中で、東京都北区が進める「新聞大好きプロジェクト」などNIEの取り組みについて、北区教育委員会事務局振興部教育指導課の根本淳子指導主事が報告した。

北区では、教員が新聞教育の理解を深めるための研修を実施している。各校に1人、プロジェクトの推進担当者を置き、年間2回の連絡会を開催。講義や研修、授業研究等も行っている。ほか、若手や中堅を対象にした研修の中でも新聞教育を取り入れている。

区内全ての学校で教育課程に新聞教育を位置付ける取り組みをしており、その内容を紹介した。複数の新聞の1面を比較して並べるなど工夫を凝らして新聞を掲示している学校や、始業前に「NIEタイム」と称して、クラス全員で新聞を読んで記事を切り抜く時間を設けた学校もあった。

根本指導主事は「短時間でも、継続的に時間を確保して取り組むことで新聞に親しみ、社会の出来事に関心を持っている姿が見られる」と報告した。

東京都北区 教員向け新聞教育

特別分科会・行政を挙げたNIEの取り組みの紹介

【NIEはじめの一歩】①理論編「なぜ今、NIEなのか」②実践編「NIEの授業のカタチは？」

特設サイト申し込み あすまで

来年2月末 無料で視聴可能

【特別分科会・行政を挙げたNIEの取り組みの紹介】東京都世田谷区、北区

授業などの動画は日本新聞協会の特設サイト（https://nie2020tokyo.jp）で来年2月末まで無料で視聴できるが、あす30日までに申し込みが必要。動画は次の通り。

【分科会（NIE実践発表等）】①小学校「学校全体で取り組むNIE～新聞をフル活用」②小学校「持続可能な言語能力の育成」③小学校「課題発見解決能力の育成～新聞で社会とつながる」④中学校「新聞を活用して意見形成を図る実践」⑤中学校「新聞を通して社会を見つめる」⑥中学校「言葉を見つめる～新聞の写真を題材に俳句を創作する」⑦高校「実社会と国語を結び付けるための授業～NIEの実践を通して」⑧高校「新聞で世界とつながり共に考えるNIE～多国籍生徒たちの挑戦」⑨高校「18歳成人とNIE～大人になることについて考えよう」

第25回ＮＩＥ全国大会　「ともに生きる　新聞でつながる」

多様性認め合う力を

教育に新聞を活用する方法について考える「第25回ＮＩＥ全国大会」（日本新聞協会主催）が11月22日、東京都内で開かれた。大会スローガンは「ともに生きる　新聞でつながる」。新型コロナウイルスの感染拡大などで社会の将来予測が難しくなる中、子どもたちが多様な価値観を知り、自ら課題を見つけ、解決する能力を身に付けるための一助として、教育現場に新聞をどう生かせるかを議論した。新型コロナの影響で初めてオンライン開催となった。配信された講演のほか、日本ＮＩＥ学会との共同シンポジウム、実践発表を教育や新聞の関係者が視聴した。

記念講演

真山 仁氏（小説家）

疑問や想像力生む土台に

まやま・じん　1962年大阪府生まれ。作家。新聞記者、フリーライターを経て、2004年に企業買収を描いた「ハゲタカ」でデビュー、ベストセラーに。社会問題を問う小説を多数手掛け、著書に「黙示」「売国」「神域」など。

私たちは日々迷い、選択し決断する。小説を通じて選択肢が増えればいいと小説を書いている。書いている中で肝に銘じているのは常識を疑え、正しさを疑えということだ。

新聞への不信感は深刻だと感じる。中高生と話した時、役所の広報があるからメディアはいらないと言われ、驚愕した。権力の監視がメディアの役割であることを説明した。新聞は偏っているという大学生と話すと、読みもせず先入観で判断していた。感覚が近い人とSNS（会員制交流サイト）でニュースを共有し、自分が信じることを追認するものが正しいと信じる学生が増えている。

そんな学生には、とにかく新聞を読んでほしいと言った。理由はできるだけ事実に基づき、一方的でなく反対意見も書かれているからだ。前の日のできごとの中で、各社が一番伝えたいと思うものから順番を付けて作っていて、見出しの大きさや記事の順番でどの事件が大事かも分かる。新聞が大事なのは、自分が知っていることを追認するためではなく、自分たちが複雑な社会において、知らなければならないことを知る努力をしていないと気付くからだ。

そう説明すると学生たちも読むようになった。社会で起きている事実をベースにしないと、意見は言えない。起きたことに対して自分の考えはどうか。なぜそう思うのか。裏付けは何か。客観的な事実に基づき判断できるようにしないといけない。

新聞に書いてあることがどこまで本当か疑うことも大事だ。矛盾しているように聞こえるかもしれないが、新聞はうそだと思うことは違う。新聞は知らないことを知り、疑問を感じるきっかけになる。

小説を書くために取材もするが、想像力が勝負だ。取材を止め、その先は想像力を駆使して書くこともある。そこに至るベースにあるのが新聞記事だ。新聞が書いてきた歴史的事実の積み重ねだ。

社会や未来のヒントは新聞にある。読んで分からなくても、どういうことかと疑う想像力を持ってもらえるようにすることが大切だと思う。

シンポジウム（文中敬称略）

情報活用能力を育む　大滝氏
社説が考える契機に　土屋氏
大正初期にも実践例　城島氏

関口修司　文科省のコロナ対応を教えてほしい。

大滝一登　6月に「学びの保障」総合対策パッケージをまとめた。感染対策を徹底しながら学校での学習を充実、最終学年は優先的に分散登校するなどの方針を盛り込んだ。文科省のホームページでは「子供の学び応援サイト」を開設し、自宅で活用できる教材や動画を配信した。

関口　教育現場の様子は。

土屋武志　大学ではオンライン授業をしている。学生に自宅で新聞切り抜き作品を作ってもらった。普段グループで取り組むが、自宅で一人、じっくりと考えて取り組めたのが良かったと言う学生もいた。

関口　ウィズコロナ時代の教育について。

真山仁　クラスの持つ社会性は大事だが、4月以降ばらばらの環境の中で同じ記事を読める、同じ時代にいる実感を得るのに新聞が使われるのも面白いのではないかと思う。こんなときだからこそ、みんなで一つのことを考えるのは大事ではないか。

関口　求められる資質能力は。

大滝　新学習指導要領の方向性である「主体的、対話的で深い学び」を考えたとき、NIEには可能性がある。言語能力、情報活用能力、課題解決能力を育てることに新聞が活用できる。予測困難な時代だからこそたくましく生きる子どもの育成が重視される。

関口　大正時代のNIEについて紹介してほしい。

城島徹　大阪毎日新聞の地方版大正4年3月13日付に、「有益なる新聞教育」の見出しで記事が載っていた。教室で子どもたちが新聞を広げている写真も添えられていた。先生は、新聞記事は莫大な経費と非常な努力が払われてできているから読むべきだ、健全な新聞を選択しなければならないとコメントしている。現代につながる重要な言葉だと思う。当時はスペイン風邪が流行するなど閉塞感もあった。短い時間だったかもしれないが、新聞から社会を知ってほしいという教育がなされていた。

関口　今後実践したいNIEや、NIEの必要性について感じたこと。

水木智香子　今年度はNIEタイムを2回実施した。子どもたちは意欲的に新聞を選択しなければならないことに関心を示し記事をクラップした。友達がどんな記事を選んだか知りたいという気持ちも伝わった。これを積み重ねると、学ぶ姿勢が着実に育つのではないかと改めて感じた。

本杉宏志　中央紙と地方紙の電子版を使って沖縄の基地問題について考えさせた。同じ内容でも、地方紙の方が詳しく現地の声も反映していた。オンラインもできるので、今後、現地の高校と結んで意見交換すると、考えが深まるだろう。さらに日本史が専門なので中国や韓国の生徒とも交流してみたい。歴史認識の違いを認めながら理解していくなかで、共生の道を模索できるのではないか。

関口　新聞への期待は。

土屋　学会で、小中高生のメディア接触状況についての調査発表があった。どのメディアから情報を得ているかは、だいたいテレビかネットで、新聞は少ない。ところが、信頼するメディアを聞くと、新聞が圧倒的に多い。ではなぜ読まないかというと、堅いイメージで、どこから読んでいいか分からないという。社説から読むと良いとコメントする生徒がいた。新聞社の考え方が分かりやすく書いてあり、共感するかは別にして、読んで考えることができるという。社説は難しいと思いがちだが、こう考える高校生もいる。

関口　印象に残る実践は。

水木　学級新聞作りと、45分間のロングNIEタイム。週2回新聞を発行した。分担して取材し記事を書き、会議も開く。伝える力、表現力が付いた。本物の新聞から割り付けの工夫、見出しなどを学んだ。ロングNIEタイムは、通常のNIEタイムに交流の場面を設けた。

本杉　新聞記事を使って小中高をつなぐ実践に試行的に取り組んだ。同じ記事を読んで意見交換して考えを深める、交換日記みたいなもの。小学校と高校など、校種を超え、生徒たちは真剣に取り組んでいた。

関口　実践を聞き感想は。

大滝　新聞活用の可能性がふんだんに発揮されていた。表現力、話す力、聞く力などさまざまな力を育てている。

関口　本日の感想など。

真山　教育とメディア両方の方々が、問題意識を持ってどうあるべきか考える姿勢と、場があるのは切ないと感じた。コロナ禍の中で心配なのは、正しいというのにすがりついていることだ。新聞でも学校でも、正しさは一つでなく、たくさんあることを知らせてほしい。多様性につながるだろう。

大滝一登氏

関口修司氏

土屋武志氏

城島徹氏

本杉宏志氏

水木智香子氏

■登壇者
真山 仁氏（小説家）
大滝 一登氏（文部科学省初等中等教育局視学官）
土屋 武志氏（日本NIE学会副会長、愛知教育大教授）
本杉 宏志氏（東京都立晋山高等学校主幹教諭、NIEアドバイザー）
水木 智香子氏（足立区立西新井小学校教諭）
城島 徹氏（毎日新聞社教育事業室編集委員）
■司会
関口 修氏（日本新聞協会NIEコーディネーター）

世界とのつながり考える

東京都立田柄高校

3割以上の生徒が外国にルーツがある都立田柄高校では、新聞を通して世界とのつながりを考える授業を年間通して実施した。戦争やSDGs（持続可能な開発目標）、ジェンダーについて学びを深めた2019年度の取り組みを高橋伸明教諭（現・都立新宿高校勤務）が発表した。

外国にルーツのある生徒への日本語教育では、ジェンダー・男女平等などテーマを設け、グループで中高生向けの新聞記事を読み解いた。

生徒らが実生活で抱える困難や問題意識を出発点にすることで、学習意欲が高くなったと、世界中に同じ問題意識を持つ人がいることを知り、視点の広がりにつながったことなどを成果として挙げた。

2年生対象のキャリア教育では、「高校生記者プロジェクト」と題し、希望する進路やSDGsを推進する企業への取材を行った。取材先の検討、日程調整、インタビューや結果をまとめて発表する一連の活動を通し、学びが就職先など実社会とリンクすることを実感できたと報告した。

高橋教諭は「世界を映す鏡である新聞から社会の課題を探す生徒の姿があった」と語り、国際社会で必要となる多角的視点、異文化理解、協調性やコミュニケーション能力の育成に新聞が有効だと訴えた。

授業で新聞を読みながら話し合う東京都立田柄高校の生徒＝2019年（高橋伸明教諭提供）

分科会（実践発表）

報道写真題材に一句

町田市立真光寺中学校

東京都の町田市立真光寺中学校の山田慎一教諭は、新聞の写真を題材に俳句を創作する授業を展開した。生徒たちは、新聞に載っている数多くの写真から印象に残る1枚を選び、感じたことを表す言葉を「歳時記」で探して句を詠んだ。

授業は年生の国語の時間に行われた。山田教諭は新聞の写真を使うことで題材の幅を広げ、感動の焦点を絞る力を養うことを課題とした。「写真のピントを合わせる感覚は俳句の『切れ』に似ている。写真をよく観察することで『切れ』の感覚を養えると考えた。生徒は撮影者の視点を想像したり、写真と季語を関連付けながら創作していた」と説明した。

台風で家路を急ぐ人々の写真を選んだ生徒は「心身の感じる重み秋嵐」と詠んだ。暑さ対策の散水風景を句にした生徒は「親を待つ立ち話の間水遊び」と表現した。戦争関連の1枚を選んだ生徒も多かった。

山田教諭は「写真をじっくり見ることで日常風景の切り取り方に多様な視点があると気付けた。吟行では得られない題材も多くあり、新聞の新しい魅力に気付くことができた」と振り返った。

新聞をめくり、俳句の題材となる写真を探す生徒たち＝東京都の町田市立真光寺中学校

糸満中でNIE実践授業研究会

おきなわ NIE Newspaper in Education

主体的学びへ新聞活用

県ＮＩＥ推進協議会（仲村守和会長）主催のＮＩＥ実践授業研究会が20日、日本新聞協会指定ＮＩＥ実践校の糸満中学校（伊井秀治校長）で開かれた。数学、国語、英語、体育の４教科で新聞を使った授業を公開。同校の教諭とＮＩＥアドバイザーが教科ごとの分科会で授業の成果と課題を振り返った。生徒に身近な話題が載り、図やグラフなど文章以外の情報もある新聞記事の特徴を生かし、主体的・対話的に学ぶ授業の実例を示した。

「鬼滅」収入 関数で計算

数学の授業でグラフにする情報を記事から読み取る2年生＝20日、糸満中学校

数学　記事の数字で現実味

2年数学の授業では映画「鬼滅の刃」の興行収入の記事を読み、1次関数を使って今後の収入を予想した。辻田加里教諭は「教科書では割り切れる数値だが、記事の数字を使うことで現実味が出て、数学が現実の中で生きることが分からせることができた」と振り返った。

興行収入の積算を、過去のヒット作「千と千尋の神隠し」「君の名は。」と比べてグラフにした結果が出た。公開から11週目で346億円である「鬼滅」の収入が40週目にはいくらになるか各自で予想させた。

生徒らは、前例2作のグラフがある時点からほぼ平行になることから、「鬼滅」も同じ推移をたどると予想。「千と千尋」の16週目と36週目の収入から「傾き」を求め、1次関数の式で表した。予想や仮定に集中させるため、計算は電卓を使った。予想額は402・55億円となった。

今回の授業は復習に当たる。他教科の教諭からは「生徒が意欲的に解いて、教え合っているのがよかった」「私自身、数学だが、教科書でやったことを使えたのが感動的だった」などの意見が上がった。

辻由加里教諭

仮説立てて検証 根拠ある思考に

宮城通就アドバイザー　生徒の目が輝いていた。「仮説を立てて検証するのが楽しかった」と言う。学びの基本だと思う。教え合う場面で、自分の言葉にしており、学びが定着するだろう。理由を付けて収入金額を予想させることで、根拠を持って考える力を育てていた。新しい大学入学共通テストは問題文が長く、いくつもの資料を参照する必要があった。読解力が求められる中で、いい種をまいていると言える。（辺土名高教諭）

宮城通就アドバイザー

図表読み解き 考え文章に

国語の授業でワークシートに取り組む1年生

1年国語の授業では、記事に加えて、図やグラフなどの非テキスト情報を正確に読み取り、自分の考えを書くことを狙いとして、世界の問題を図表など使って紹介した記事を活用した。

神里千影教諭は最初に、記事を読むときのポイントを説明。数値をチェックする、注目する語句に線を引く、問題点を見つけることを指導した。

世界の飢餓や人口集中、廃プラチック問題について書かれた五つの記事のうち一つをグループごとに配布。生徒は記事の気になる箇所やグラフの数値に線を引きながら読み込み、分かったことをワークシートに記入し、グループ内で意見を発表し合った。

生徒は「都市部に人口集中している国々では、課題解決のための対策をすべき」「正規職より非正規で職に就いている人の方が多いことが分かった。給与の問題があると思う」などと感想を発表した。

今後の授業で感想を分かりやすい文章にまとめる。神里教諭は「少し難しいテーマもあったので、興味の持てる記事を選ぶようにしたい。これをきっかけにみんなが新聞に興味を持ってほしい」と振り返った。

国語　飢餓やプラごみ 課題も把握

神里千影教諭

「伝える」設定で意欲を引き出す

甲斐崇アドバイザー　先生の指示にできはきと答えていて、生徒たちも頑張っていた。小学校6年生にもかる問題点だけでなく、そこに対する改善点についてもワークシートで問うて欲しかってもいい。（西原町教委指導主事）

甲斐崇アドバイザー

世界知る入り口 記事選びを評価

國吉美穂アドバイザー　生徒たちに落ち着きがあり、授業にめりはりがあった。使用した新聞記事も世界を知る入り口としていい内容を選んでいた。全4時間の授業構成で、前回の授業は異なる記事を使用しているが、前回も今回も同じ記事を用意して、意味調べをしながらじっくり記事を読み込ませるのもいい。ワークシートの中で発表の話をメモする欄などがあれば、聞き手も感想を書けるのでいいと思う。（興南高教諭）

國吉美穂アドバイザー

身近な題材 英字紙を和訳

ペアや個人で英字新聞を読み解く1年生

英語　見出しに要点 辞書で確認

1年英語では、学習者向けの英字新聞「ジャパンタイムスアルファ」を活用。推測しながら読める難易度で生徒が興味を引きそうな話題の記事を用意し、ペアで協力しながら読解する授業が行われた。

次にペアに割り当てられた段落の和訳をホワイトボードに記入。黒板に並べて張り出し、学級全体で「中学生のティズニーランドの入場料がピーク時に6900円から7300円になる」という記事の内容を確認した。「この値段だと行ってみたい？」など、読解した記事から生徒の意見を引き出す場面もあった。

久山智恵子教諭は「生徒からは英文を読むのが好きになった、読解のスピードが上がったという肯定的な感想も多い。語彙や文法のレベルが上がれば、より充実した英字新聞の活用ができると思う」と期待した。

表現力の成長に コロナ禍は好機

松田美奈子アドバイザー　授業規律がしっかりしていたことに感心した。評価基準を授業の初めに示し、分からない単語も辞書を引くよう促すなど生徒が能動的に活動できるよう工夫していた。制限のあるコロナ禍だからこそ、記述する力、文字で表現する力を身に付けさせるよい機会になっていた。子どもたちが学習していることを世の中とつなぐのが新聞の良さ。日頃から教材にできる記事がないか意識してほしい。（コザ中主幹教諭）

久山智恵子教諭

松田美奈子アドバイザー

五輪開催の賛否 生徒意見

東京五輪について意見を出し合い考えを深めた2年生

体育　校内と全国世論を比較

2年体育の授業は東京五輪がテーマ。開催すべきか否かを聞いた世論調査の記事を参考に、同じ設問で校内で調査し、生徒の関心を高めた。安全に開催するために一人一人ができることを考えたほか、スポーツへの多様な関わり方があることを学んだ。

共同通信社が2020年7月に実施し新聞に掲載された五輪に関する世論調査と、12月に2年生全員に聞いた回答を比較。再延期を求める声が多かったのは中止を求める声が校内では少なかった。授業では、両方の調査の相違点をワークシートに書かせた。

医療の視点からの記事を参照しながら、開催に必要な個人の対策を考えた。生徒からは「手洗いやうがいなどの意識を高める」などの意見があり、隣の生徒と意見を交換した。

伊佐常克教諭は「スポーツは『する』だけでなく『見る』『支える・知る』という関わり方もある」と紹介。その一環で、同校出身のカヌー選手・鷲尾孝仁さんへの応援メッセージを書かせた。

授業後の分科会で、伊佐教諭は「スポーツへの多様な関わり方を実感させられたならよかった」と感想を語った。

伊佐常克教諭

アンケート活用 当事者意識育む

宮城英誉アドバイザー　体育でＮＩＥということで驚いたが、文化としてのスポーツを考えるために東京五輪という機会を逃さなかったことが素晴らしい。世論調査と同じアンケートをしたのは、比較を通して生徒が自分ごとして感じることができてよかった。生涯をスポーツで豊かにしてほしいという伝えたい思いが先生にあり、授業で生徒の対話や発言もできていた。糸満中の学びが濃縮されていると感じた。（大宮小教諭）

宮城英誉アドバイザー

来年度実践の６校募集　県推進協

県ＮＩＥ推進協議会は来年度の日本新聞協会指定ＮＩＥ実践校６校を募集している。

指定は２年間。小学校から高校、特別支援学校が対象。実践校になると、学校を配達区域とする全国紙、地元紙を一定期間無料で提供する。年度末に実践報告書の提出が必要となる。

新聞提供開始を５～８月に希望する場合の締め切りは２月24日、９月以降希望の場合は５月中旬。

問い合わせは、県ＮＩＥ推進協議会事務局（琉球新報社内）、電話098（851）5190、メールnie@ryukyushimpo.co.jp

教科で異なるアプローチ

伊井秀治氏（糸満中校長）

伊井秀治校長

一つの記事の内容をじっくり扱う、授業の導入として使い興味を持たせる、生徒の考えを表現させるなど、教科によって記事の使い方にいろいろなアプローチがあり、ＮＩＥは授業の改善に生かせる。

新聞は社会のいろいろな側面が詰まっていて発見があり、同じことでも新聞によって伝え方が違う。生徒が社会とつながり、考え、発信するために新聞は有効だと思う。

先生楽しめば授業も充実

仲村守和氏（県NIE推進協会長）

仲村守和会長

「鬼滅の刃」や東京五輪など、生徒が関心を持ちそうな記事をツールとした授業は、生徒に「主体的・対話的で深い学び」を体現させていた。素晴らしい授業だった。コロナ禍の厳しい状況でも不断の実践をしたことに敬意を表したい。

新聞を使った実践で生徒の力を培うとともに、先生がＮＩＥを楽しんでほしい。先生が楽しそうだと、子どもたちも授業が楽しくなると思う。

新聞で「深い学び」実践

糸満中でNIE授業研究会

おきなわNIE Newspaper in Education

「主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善」をテーマに、沖縄県NIE推進協議会は20日、県NIE授業研究会を糸満市立糸満中学校で開いた。学校や家庭の教育に新聞を使う「NIE（Newspaper in Education）＝新聞に教育を」に積極的に取り組む糸満中の教諭たちが、4教科で公開授業を行った。主管は日本新聞協会指定のNIE実践校である糸満中。ほかの同校教諭たちに加え、新聞協会認定のNIEアドバイザー5人も見学した。授業の様子、その後の分科会におけるアドバイザーの助言を紹介する。

2年体育「東京五輪開催」
「自分にできること」考える

授業の最後、東京五輪出場を狙う同中学校出身の當銘李仁さんに応援のメッセージカードを書いた糸満中2年生の生徒ら＝20日、糸満市の糸満中学校

2年の体育の授業では、伊佐常克教諭が、現時点で今夏に開催予定の東京五輪を教材に取り上げた。安全に開催するために自分にできることは何かを考えさせ、課題解決能力の育成や、スポーツと多様な関わり方ができることを教えた。

授業前半、伊佐教諭は昨年7月20日に琉球新報に掲載された、共同通信社の五輪開催に関する全国電話世論調査の記事を生徒に読ませた。記事では東京五輪の開催を「中止すべき」とする声が高い一方で、糸満中2年生に取ったアンケートでは中止を求める声が少なかった。また再延期を求める声はどちらも共通して高いことなど、違いや共通点を見つけさせた。

さらに、医療現場やワクチン開発の視点、選手の立場に立つなど、多面的に五輪開催について考えさせた。「スポーツは『する』『観る』『支える』『知る』などいろんな関わり方がある」ことを踏まえ「開催するために私たち一人一人ができることは何か」を考えさせて、意見交換し発表し合った。

最後は、五輪出場を狙う同校出身のカヌー選手、當銘李仁さんを『支える』視点で、応援メッセージカードを作成させた。伊佐教諭は「選手へのメッセージなどを通し、五輪に関わっていることを実感できたら」と話した。

東京五輪の記事を活用し授業を行った伊佐常克教諭

アドバイザーからひとこと
体育での実践 画期的

宮城黄色天宮小教諭　体育での実践授業を全国大会含めて初めて見た。指導案と実際の授業どちらも主体的・思考的な学びを意識した取り組みがなされていた。特に世論調査と糸満中2年生に取ったアンケートを比較したことで、生徒も自分事として考えることができたと思う。アクティブラーニングでは問いを見出すことが大切だ。新聞はどの教科でもそのきっかけ作りに最適。今後も活用してほしい。

多様な意見知る機会に

伊井美治糸満中校長　教科の特性に応じた、新聞の有効な活用の仕方がある。今回、体育の授業への活用など新たな発見もあった。新聞は、さまざまなことが詰まっていて、社会と子どもたちをつなぐものだ。新聞を通して政治、文化、スポーツ、地域、世界の出来事などに触れられる。実践校に指定されると県内だけでなく全国の新聞も読むことができる。多様な意見に触れる機会になっている。

教師が楽しんで伝えて

仲村守和沖縄県NIE推進協議会会長　鬼滅の刃や東京五輪、東京ディズニーランドなど、生徒が食い付きそうな記事を授業で使い、生徒に「主体的・対話的で深い学び」を体現させていた。新聞は「生きた教材」。各学校で新聞をツールとした教育実践を進め、生徒の思考力や判断力、表現力などを培う助けにしてほしい。まずは先生方がNIEを楽しみ、実践すれば生徒たちも授業が楽しくなるだろう。

1年国語「小学6年生に向け文章を書く」
世界を知り、考え伝える

新聞記事を読んでワークシートに書き込む生徒たち

1年国語の授業は「根拠を明確にし、自分の考えが伝わる文章を書く～小学6年生に分かりやすく世界に起きている問題を伝えよう」と題し、神里千影教諭が、記事と関連するグラフから情報を読み取り、自分の考えをまとめることに取り組ませた。

世界の雇用、飢餓、プラスチック、絶滅危惧種、人口集中をテーマにした記事とグラフからなる「りゅうPON！」の紙面を使用した。グラフの数値、キーワードなどに注目し、線を引きながら読み込んだ。生徒は分かったこと、自分の考えをワークシートに書き込み、さらにそれを同じ記事を読んだグループで共有した。各グループの代表が、ほかの記事を読んだ生徒たちに向けて発表した。

人口集中について読んだ生徒は「人口が集中した地域では、治安悪化や大気汚染の問題が発生していることが分かった。課題解決へ対策すべきだ」と発表した。

世界のプラスチックの記事を読んだ島袋紗衣さんは「プラごみで海などに被害があることが分かった。リユース（再利用）など行動に移していきたいと思った」と話した。神里教諭は「次回以降、小学生に伝わるように分かりやすい文章を書くことに取り組む。難しい記事もあったと思うが、生徒にはこれを機に新聞をもっと読んでもらえたら」と述べた。

記事を読んで自分の考えなどをまとめさせた神里千影教諭

アドバイザーからひとこと
理解深める授業展開も

國吉美徳糸満中教諭　持続可能な開発目標（SDGs）の視点もあり、世界を知る入り口として良い記事を選択している。4時間の授業展開だが、1時間目はじっくり記事を読み理解する時間、2時間目は他のグループに自分が読んだ記事について説明する時間にするのもいいかと思う。例えばワークシートに「問題解決するために自分ならどうするか」などの具体的なポイントもあるといい。

アドバイザーからひとこと
伝え先意識した設定

甲斐崇　西原町教育委員会指導主事　小学6年生に伝えようという設定が良い。相手を意識するというのは大切だ。子どもたちが情報を読み取ったのは、本文またはグラフのどちらか、はっきりさせた方がいい。新聞を毎日読む子は少ないと思う。すぐに授業で記事を使うのはハードルが高く、日ごろから新聞に触れる活動をしていると、読み解き方に慣れてくるだろう。

2年数学「劇場版『鬼滅の刃』興行収入予測」

社会で使える 生きた数字

数学の辻由加里教諭は2年3組で、「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の映画興行収入が歴代1位となった記事から、公開40週目にはいくらになるかを予測する授業を展開した。

辻教諭は、「千と千尋の神隠し」と「君の名は。」の興行収入の推移と、公開11週までの「鬼滅―」の推移を示したグラフを掲載している記事を配布。生徒らは推移の傾向を読み解き、今後「鬼滅―」は「千と千尋―」と同じ伸び率を示すと予測した。「x週目の興行収入がy億円になる」という一次関数で予想グラフを作成できることを確認。傾きと切片を求めて式を立て、40週目で402.55億円になると予想した。辻教諭は「この結果や新聞記事から自分なりの最終興行収入を予想しよう」と呼び掛けた。生徒からは「仮説を立てて検証するのが面白かった」などの声があがった。

授業を終えて辻教諭は「教科書にはないありのままの数字を使って計算することで、数学が現実世界で生かせることを伝えたかった」と振り返った。

グラフを読み取り、「鬼滅―」の興行収入を予想する生徒たち

話題の「鬼滅の刃」の記事を使い数学の授業を行った辻由加里教諭

アドバイザーからひとこと

「なぜ」を作る工夫随所に

宮城通就辺土名高教諭　タイムリーな話題を使った大変楽しい授業だった。生徒の表現力、思考力を深め、主体的に取り組むための工夫が随所になされていた。教科書で失敗した生徒を教科書に引き戻すには別の道を用意しなくてはならない。新聞にはその力があることを改めて実感できた。今後は文章を読み解く力が全教科で必要になる。教科にこだわらず、「なぜ」を作っていける授業が大切になるだろう。

1年英語「英字新聞の概要捉え、伝える」

関心高い話題を読み解く

1年英語の授業では、久山智恵子教諭が英字新聞の記事を使った。生徒たちが東京ディズニーランドの入場料が変更になるという記事を紹介し伝えることに挑戦した。

記事は4段落で構成。見出しに使われている単語を確認した後、生徒たちがペアを組み、割り当てられた段落について辞書を引いたり相談したりしながら、概要をまとめ、ホワイトボードに日本語で書き込んだ。全てのペアのボードを掲示し、ペアそれぞれの表現が異なる点があると、正しい訳を確認した。

記事は年齢層ごとの入場料にも触れていた。春休みに生徒が行った場合、6900円から7300円に値上がりすることが分かった。生徒からは「高い」という声が上がり、身近な話題を通して英語に親しんでいた。

授業を終えて金城里奈さんは「英字新聞の授業は4回目。最初は難しかったけど、だんだんスムーズに読み取れるようになった」と話した。久山教諭は「英語学習者向けの英字新聞から、生徒の関心が高そうなものを選んだ」と語った。

協力して英字新聞を読み込む生徒たち

英字新聞を活用した授業を行う久山智恵子教諭

アドバイザーからひとこと

コロナ禍こそ書く力を

松田奏奈子コザ中主幹教諭　先生が単語の意味を生徒に聞き、分からなければ辞書で調べさせる時間を確保したり、授業の評価基準を最初に示して目標をはっきりさせたりするなど進め方が良かった。対話が制限されるコロナ禍だからこそ、書いて表現する力を付ける機会になる。英語の授業なら、海外の首脳演説の記事も使えそうだ。話題になるので生徒も関心があると思う。

２０２０年度沖縄県ＮＩＥ実践報告書

２０２１年７月発行

発行　沖縄県ＮＩＥ推進協議会（会長・仲村守和）
事務局　〒９００－８６７８
沖縄県那覇市久茂地２－２－２
沖縄タイムス社編集局ＮＩＥ事業推進室内
電　話：０９８－８６０―３５５３
ＦＡＸ：０９８－８６０―３４８４
メール：times-nie@okinawatimes.co.jp